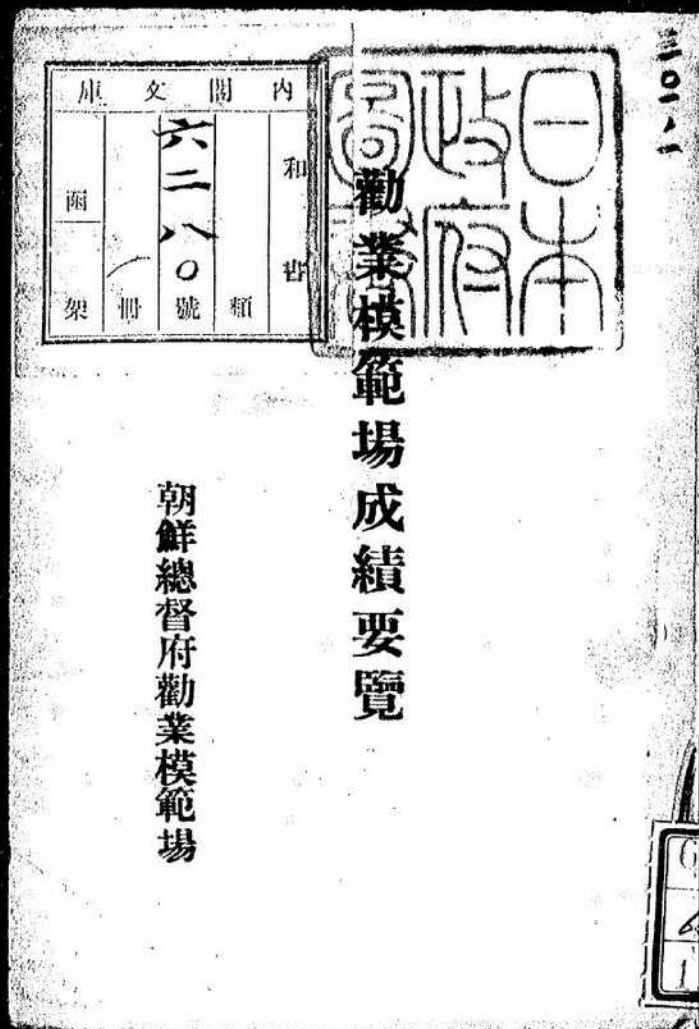
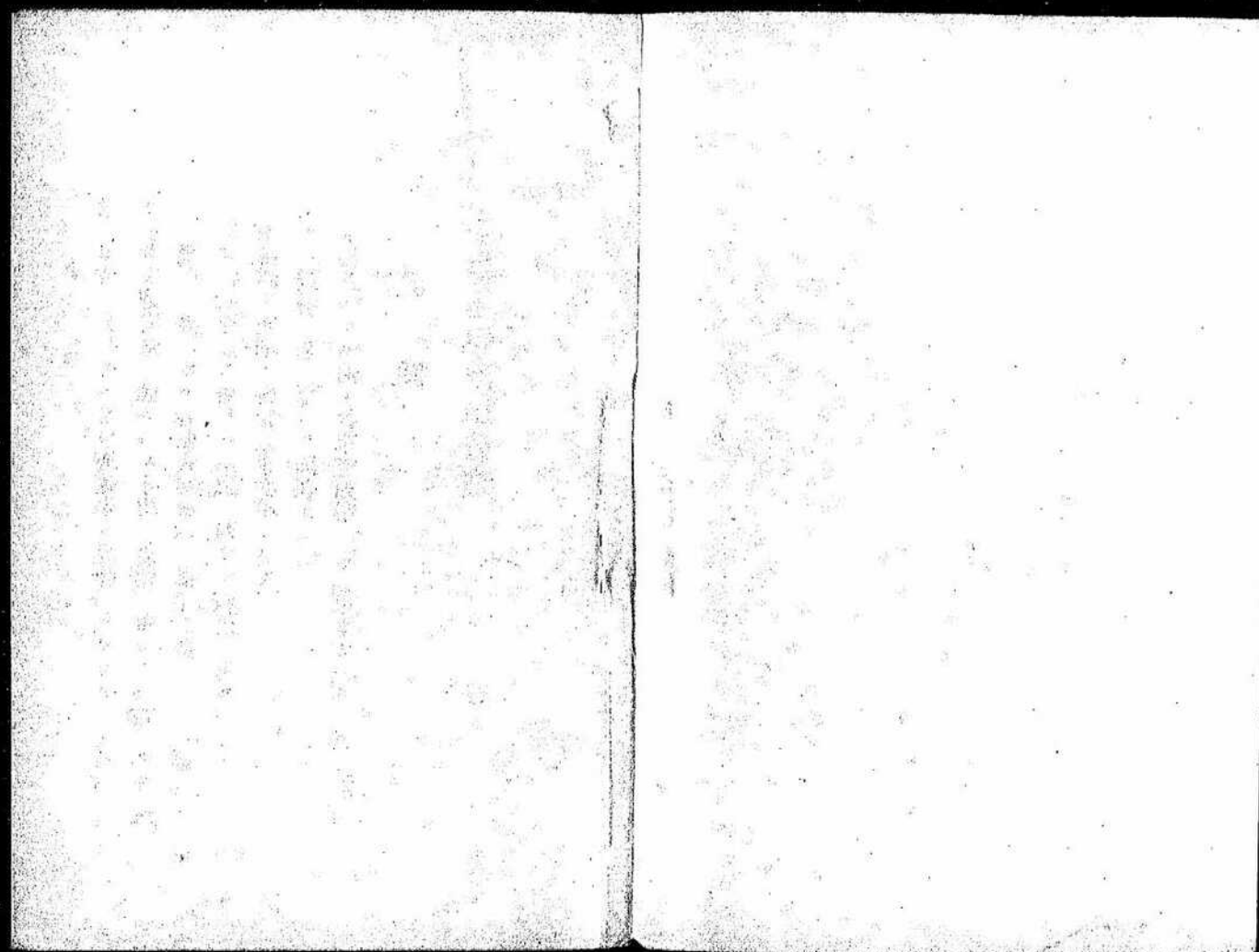






610
6260
116

勸業模範場成績要覽

凡 例

- 一、本書收録スル所ノ各事業成績ハ創立以來大正九年迄ニ施行シタル實績ニ基キ之レヲ記述セリ
- 一、明治四十五年ハ便宜大正元年トセリ
- 一、卷末耕種要覽ノ編纂ハ水原ニ於ケル實驗ニ基キタルモノナレバ風土ヲ異ニスル各地方ハ多小ノ斟酌ヲ要スヘキハ勿論ナリ尙其ノ收穫量ノ如キ一ニ本場ノ成績ニ依レルガ故ニ普通栽培ノ場合ニアリテハ是レ亦多少ノ異動ヲ見ルコトアルベシ

凡 例

一

朝鮮總督府勸業模範場成績要覽

目次

一 位置及氣候	一
一 事業成績概要	九
第一 氣候卜耕種法卜ノ關係事項	一〇
(一) 芽乾ニ關スル調査	一一
(二) 播秧ニ關スル調査	一一
(三) 稻苗ノ乾傷ニ關スル調査	一三
(四) 作間移植ニ關スル調査	一三
(五) 除覆ニ關スル調査	一六
目次	一

甘藷苗ノ保護法ニ就テ	一七
被覆下ノ作物ニ關スル調査	一八
被覆ノ土地氷結ニ及ボス關係ノ調査	二〇
土地氷結ニ關スル調査	二一
冬季貯藏法ニ關スル調査	二二
良品種普及ニ關スル事項	二四
水稻	二四
陸稻	二六
春蒔大麥	二六
秋蒔大麥	二七
小麥	二七
燕麥	二七

目次

二

大豆	二七
小豆	二八
落花生	二八
甘藷	二八
蕎麥	二八
馬鈴薯	二九
大麻	二九
草棉	二九
煙草	二九
薄荷	二九
品種改良ニ關スル事項	三〇
品種育成ノ成績	三〇

目次

三

目次

四

(二)	水稻自然栽培ニ關スル調査	三二
第四	栽培法改良ニ關スル事項	三三
甲	播種及移植ニ關スル事項	三三
(一)	播種ノ準備	三三
	秋蒔大麥、小麥、陸稻、落花生	三三
(二)	播種ノ時期	三四
	秋蒔大麥、春蒔大麥、小麥、陸稻、大豆、小豆、蕎麥、落花生、馬鈴薯	三四
(三)	播種ノ方法	三六
	小麥	三六
(四)	移植ノ時期	三七
	水稻、秋蒔大麥、小麥、甘藷、薄荷	三七
(五)	移植ノ深淺	三九

水稻

(六)	移植ノ方法	四〇
	大麥、小麥、甘藷	四〇
(七)	覆土ノ方法	四〇
	秋蒔大麥、小麥、馬鈴薯	四〇
(八)	貯苗日數	四一
	甘藷	四一
(九)	採苗ノ方法	四二
	甘藷	四二
乙	施肥ニ關スル事項	四三
(一)	雨水中所含ノ窒素	四三
(二)	天然養分供給量	四四
目次		五

目次	六
(三) 各種肥料比較	四五
水稻、陸稻、春時大麥、小麥、甘藷、大豆	
(四) 肥料用量	五〇
水稻、秋時大麥、落花生、馬鈴薯	
(五) 施肥期	五二
水稻、秋時大麥、小麥、烟草、大麻	
(六) 施肥法	五四
春時大麥、秋時大麥、陸稻、馬鈴薯	
(七) 施肥ノ豫措	五五
水稻	
(八) 肥料ノ遺効	五六
水稻	

(九) 大豆粕粉碎ニ關スル調査	五六
丙 整地ニ關スル事項	五七
(一) 耕鋤期	五七
水稻	
(二) 耕鋤法	五七
水稻	
(三) 作畦法	五八
秋時大麥、小麥、馬鈴薯、甘藷	
(四) 畦ノ方向	五九
秋時大麥、春時大麥、小麥、陸稻	
丁 作物疎密ニ關スル事項	六〇
(一) 畦幅ノ廣狹	六〇
目次	七

目次

八

(二)	秋蒔大麥、陸稻、落花生、大麻、株間ノ大小	六二
(三)	甘藷、煙草	六二
(三)	一株本數ノ多少	六二
(四)	水稻、馬鈴薯	六三
(四)	播種量	六三
戊	春蒔大麥、陸稻	六四
戊	連作ノ利害ニ關スル事項	六四
己	大豆、甘藷、薄荷	六五
己	田畠管理ニ關スル事項	六五
(一)	灌水ノ深淺	六五
	水稻	六五

(二)	培土ノ得失	六七
	小麥	六七
(三)	摘心ノ利害	六七
	大豆、小豆	六七
(四)	摘葉摘花ノ利害	六八
	大豆、馬鈴薯	六八
(五)	支柱	六八
	甘藷	六八
(六)	中耕同數	六九
	春蒔大麥	六九
庚	產米改良ニ關スル事項	六九
(一)	種ノ繁殖力	六九
目次		九

種拔ノ方法	七一
赤米ノ害ト其除去法	七二
粃米ノ石拔	七四
四斗入吹製作	七五
辛 收穫物取扱ニ關スル事項	七六
薄荷ノ乾燥	七六
有芒粃計量ニ關スル調査	七六
第五 水利及旱水害ニ關スル事項	七七
灌漑水量	七八
蘆葦量、渗透量	七八
旱害豫防	八三
陸稻、亞麻	八三

浸水被害	八四
水稻	八四
旱水害ノ善後	八七
水稻	八七
第六 土壤ニ關スル事項	八八
土作	八八
酸性土壤ト作物トノ關係	九〇
酸性土壤ト肥料トノ關係	九〇
酸性土壤ノ改良	九〇
第七 病蟲害ニ關スル事項	九一
害蟲	九一
一、稻ノ害蟲	九一

目次

二二

せしろうんか、さびいろうんか、めいが、ふたなびこやが、いねぞうむし、いねれくいはむし

二、粟蓼ノ害蟲.....九五

あわよさうが、あわめいが、ばくが

三、蔬菜ノ害蟲.....九七

びろうどがね、かぶらばち、もんしろてふ、ねほにどゆやほし、うりばい、よたうが

四、大小豆ノ害蟲.....一〇一

くらまめはんめう、うこんめいが、まめぞう

五、果樹ノ害蟲.....一〇二

りんごわたむし、なしまるがいから、くはかいがら、りんごひめたまむし、りんごばち、てふせんくろがね、なしひめしんくい、なしを

ほしんくい、なしこぶが、なしはなむぐりぞうむし、りんごはむぐりが、なしふだんむし、ぶどうはまきぞうむし、なしちよつきりぞうむし、なしなびばち、くろしたあをいらが、りんごが、ももあぶらむし

殺蟲劑.....一一一

一、接觸劑.....一一一

石油、石油乳劑、除蟲菊加用石油乳劑、除蟲菊加用石鹼液、除蟲菊アル

コールエキス、石灰硫黄合劑.....一一三

二、毒劑.....一一三

巴里綠劑、札幌合劑.....一一四

三、燻蒸劑.....一一四

青酸瓦斯、二硫化炭素.....一一五

四、噴霧器及天幕販賣所並ニ價格.....一一五

目次

二三

目次

(三)

病害	一四
一、稻ノ病害	一六
稻熱病	一七
二、小麥ノ病害	一八
胡麻病	一八
三、粟ノ病害	一九
白髮病	一九
四、人參ノ病害	二〇
赤腐病、葉燒病、菌核病	二〇
五、陸地棉ノ病害	二一
炭疽病、角點病	二一
六、甜菜ノ病害	二四

(四)

目次	一五
七、華果ノ病害	二六
火傷病、腐爛病、炭疽病、褐斑病、縮果病	二六
八、梨ノ病害	三〇
赤星病、黑星病、黑斑病	三〇
九、桃ノ病害	三三
縮葉病	三三
十、葡萄ノ病害	三三
黑痘病、露菌病	三三
十一、桑ノ病害	三三
葉枯病、紫紋羽病	三三
殺菌劑	三四

目次

一六

ホルドゥ液、アムモニアホルドゥ液、炭酸銅アムモニヤ液、石灰硫黄合剤、濃厚石灰硫黄合剤	一三七
（五）	
驅除劑豫防劑使用上ノ注意	一三七
一、殺菌劑ノ植物ニ及ボス影響	一三七
ホルドゥ液、石灰硫黄合剤、炭酸銅アムモニア、アムモニアホルドゥ液、石灰汁	一三七
二、殺菌劑ノ果實ニ及ボス影響	一三九
ホルドゥ液、石灰硫黄合剤	一三九
三、殺菌劑ノ花蕾ニ及ボス影響	一四〇
ホルドゥ液、石灰硫黄合剤	一四〇
四、藥劑塗抹ノ果樹ニ及ボス影響	一四〇
五、批葉劑加用殺菌劑ノ果樹ニ及ボス影響	一四一

六、土壤ニ施シタル藥劑ノ植生ニ及ボス影響	一四一
第八 特用作物獎勵ニ關スル事項	一四二
（一）棉花ノ獎勵及普及	一四二
（二）煙草ノ栽培	一四六
（三）甜菜ノ栽培及其含糖量ノ研究	一四七
第九 園藝ニ關スル事項	一四八
第十 蠶業ニ關スル事項	一五〇
第十一 畜産ニ關スル事項	一五二
（一）畜牛ノ改良	一五二
（二）馬匹ノ改良	一五三
（三）豚ノ改良	一五五
（四）山羊ノ配付	一五六
目次	一七

目次	一八
(五)(六)(七)(八)(九)	
羊ノ試育	一五六
家畜ノ改良	一五七
牧草ノ試作	一五八
牛鞍改良	一五八
ニヒアカシア樹皮葉ノ中毒作用ニ關スル調査	一六〇
第十二 殖林及養魚ニ關スル事項	一六一
殖林ノ殖林	一六一
西湖ノ養魚	一六一
第十三 教育ニ關スル事項	一六三
女子醫藥講習	一六三
第十四 (一) 小作人指導ニ關スル事項	一六三
(一) 苗代契	一六四

附	
(二)(三)(四)(五)(六)	
共濟契	一六五
早神力記念契	一六五
豐年貯穀契	一六五
餘業契	一六五
豐年祭	一六六

耕種要覽

目次

勸業模範場成績要覽

位置及氣候

勸業模範場本場ハ京畿道水原郡日南面四屯里ニ在リテ北麓鼓山ヲ負ヒ東西北湖ニ臨ミ北緯三十七度東經百二十七度ニ位シ海拔百七十五尺ニシテ所屬用地ハ百四十一町四反歩餘ニ達シ中ニ田畝アリ沼湖山林アリ又草生地アリ諸般ノ地目ヲ有スルヲ以テ農業上ニ於ケル各種ノ試験ヲ行ヒ模範ヲ示スニ適ス今田畝其他ニ就キ畧叙スレハ左ノ如シ

寄。地勢ハ概ネ東北ヨリ西南ニ向シテ傾斜シ西湖ヨリ發スル河流ハ營場ノ一部ヲ流レ遠ク南ニ走リ河身ト畚面トハ約六尺ノ差アルヲ以テ排水ニハ極メテ便利ナリトス土質ハ花崗岩ノ風化ニ依リテ成レル沖積質ニシテ表土ノ深サ四寸乃至六寸ヲ普通トシ心土ハ概シテ赤褐色ヲ帶ヒタル沖積質粘土ナリトス故ニ心土ハ水ノ滲透力極メ

位置及氣候

位置及氣候

ニ
テ少ク保水力ハ甚タ大ナリ當處ニ於テ田畝ノ一部ノ土壤ニ對シ洶汝分析ヲ行ヒタル
ニ左ノ成績ヲ得タリ

位置及氣候

11

士
質

石礫合計

原土中細土百分率

四

三

砂土

○ ○

0.115

粗
粘
土
分

砂質壤土

砂質壤土

一八二六

九八・二七四

一〇六八

二・五四三

九
九
九
六

ス
ス
ス

四·五六二

五九四三

四·二七四

九・六八八

砂 分 合 計

細土中細微土百分率

原土中細微土百分率

耕地ハ當揚ノ所屬トナレル以前ハ殆ント水路ノ見ルヘキモノナク濘排兼用ノ小溝渠

チ有スルニ過キサリキ道路モ亦狹隘ニシテ且屈曲凹凹甚シダ耕地ノ區劃ニ至リテハ

大小廣狭一ナラス畦畔縦横犬牙錯雜シ田畝混在スル等極メテ不整理ナリシヲ以テ常

揚ハ耕地整理ノ模範ヲ示サン爲メ明治三十九年十月日ヨリ耕地ノ實測ヲ始メ整理ノ段

計ヲ定メ同年十一月工事ニ着手シ十二月末日ヲ以テ大略竣工ヲ告グルニ至レリ其ノ

整理區域ハ東ハ京釜鐵路ヲ以テ限リ北ハ西湖ニ接シ西ハ西光教川ニ沿ヒ南ハ水原停

車場ヨリ當場事務所ニ通スル道路ヲ以テ界トセリ設計ハ耕作ノ便否ニ考ヘ又ハ灌漑

非水ノ關係ヲ究メ更ニ地積ノ經濟工事ノ難易等ヲ察シ左ノ如ク定メタリ

一、新創ノ形狀ハ長方形ヲ撰ミ長サ三十間幅二十間（卽二反步）ヲ以テ一劃トセリ

位置及氣候

217

七八·四八六

七二〇五

六九・九〇五

六九〇六九

九二・三五七

九二・一八一

日本建築学会 建築文化財部会
Japan Architectural Association Cultural Heritage Division
1999.10.10

位置及氣候

四

- 二、道路及用水路ノ包圍スル一面積ヲ一町ニ反歩トシ六枚ノ區劃ニ列ヨリ成ル
 - 三、排水路ノ標準位置ハ二列ノ中央ニアリ
 - 四、方位ハ地勢ニ應ジテ二様ニ分テリ
 - 五、道路ノ幅ハ大ナルサ一町トシ小ナルサ三尺トセリ
 - 六、用水路ノ幅ハ大ナルサ一町トシ小ナルサ一尺八寸トセリ
 - 七、排水路ノ幅ハ大ナルサ一町トシ小ナルサ三尺トセリ
- 四、當場耕地ノ灌溉ハ之ヲ西湖ニ仰ク西湖ハ滿水面積四十一町四反八畝十五歩滿水面ハ海拔百三十九尺餘ニシテ放水口礎石ヲ零位トシ十一尺八寸六分ノ高サニアリ其ノ平均水深八尺平均水面積二十七町〇反三畝六歩ナリ水質清冽水量亦豐富ニシテ能ク湖南三百餘町ノ稻作ニ灌溉ヲナスニ足ル而シテ滿水セハ餘水ハ溢シテ瀧ヲナシ流レテ河トナル

西湖ハ距今約百二十年孝朝正宗皇帝十九年鑿造セルモノニシテ宮内府經理院ノ所屬

ナリシカ明治四十一年所管轉換ヲ行ヒ當場所屬トナレリ而シテ當場ハ其ノ利用ノ完全ヲ期スル爲メ同年ヨリ之カ改修ニ着手シ明治四十二年五月全部ノ竣工ヲ告ケタリ西湖ノ受水區域ハ四周山岳ニシテ區域中ニハ廣々田有ス山ノ最高キハ光教山ノ一部ニシテ海拔九百九十尺餘ナリ之ニ次クハ西湖四側ノ巖城山ニシテ海拔三百五十九尺ナリ其ノ他ハ概テ傾斜緩ニシテ榛松ノ粗林多ク精山亦尠カラス受水區域ノ總面積ハ一千九百五十四町三反四畝歩ニシテ此ノ區域ニ降レル各年ノ總降水量中西湖ニ流入スル水量ヲ調査セルニ左表ノ如シ(今比較ノ爲メ降水量及蒸發量ヲ併示ス)

年	降水量	蒸發量	流入量
明治四十二年	七、二五八・〇九三	九、五四	六、八八六・〇
明治四十三年	三、九一二・六五六	三、八〇七	九、六六二・〇
明治四十四年	四、八六二・八二一	三、九〇五	一、二五八・八〇

位置及氣候

五

位置及氣候

大正元年	五八、二〇、五四三	五〇、一六	一、〇〇、九〇	一、一〇、三六〇
大正二年	四二、六二、〇三三	五五、二六	七、七九〇	一、一七、九六〇
大正三年	四九、七九、八四二	五五、二七	八、七三〇	一、二七、四七〇
大正四年	八二、六〇、七四六	五五、九六	一、三三、六〇	一、三三、二一〇
大正五年	一、二七、五九、〇九六	七二、六八	一、六三、三九〇	九六、七七〇
大正六年	三三、二〇、三三二	三六、八三	八八、九七〇	一、四〇、七〇

備考本表ハ前年十月一日ヨリ翌年九月三十日ニ至ル一箇年間ノ調査ナリ
右ノ如ク集水量及其ノ總降水量ニ對スル割合ニ大差アルハ各年ノ降水ノ分布及其ノ時期如何ニ由ルモノナリ
●●●●● 鹿奴山ハ常陽ノ北端ニアリ常陽廳舍ノ背後ニ峙テ西湖ニ瀕ス海拔三百五十九尺全面積二十五町八反十七步ナリトス常陽ハ植林ノ範ヲ示シ且ツ水原涵養ヲ圖ラシ爲メ明治四十二年之ヲ購入セリ

氣候 左ニ本場ニ於テ觀測セラル明治四十二年ヨリ大正九年ニ至ル十二箇年間平均ノ氣候狀態ヲ掲ケン

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
平均氣壓	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七	一〇、一七
平均氣溫	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七
最高氣溫	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七
最低氣溫	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七
平均濕度	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九	六八、九
最少濕度	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、〇
雨日數	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
降水量	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇
蒸發量	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇	一、二〇、〇

位置及氣候

日照時間	一月ハ二二〇〇時間 二月ハ二四〇〇時間 三月ハ二六〇〇時間 四月ハ二八〇〇時間 五月ハ三〇〇〇時間 六月ハ三二〇〇時間 七月ハ三四〇〇時間 八月ハ三六〇〇時間 九月ハ三八〇〇時間 十月ハ四〇〇〇時間 十一月ハ四二〇〇時間 十二月ハ四四〇〇時間
霜雪季節	初霜 十月十三日 終霜 四月二十八日 初雪 十一月廿日 終雪 三月十九日

前表期中温度ノ最低カリシハ大正六年十二月二十七日ノ零下二十四度一最高カ
リシハ大正八年八月一日ノ三十五度五温度ノ最低少ナカリシハ大正九年五月三日ノ
二十二度風向ノ最も多カリシハ東、風力ノ最も強カリシハ明治四十四年四月十九日
ノ三十四秒米突、降水量ノ最も多カリシハ大正九年八月一日ノ百八十三秒、蒸發量ノ
最も多カリシハ大正八年八月十四日ノ十二秒九ニシテ初氷ノ最も早カリシハ大正元
年ノ十月七日其最も遅カリシハ大正五年ノ十一月十一日、終氷ノ最も早カリシハ大
正九年ノ三月十九日其最も遅カリシハ大正二年ノ四月十七日、初霜ノ最も早カリシ
ハ大正七年ノ十月二日其最も遅カリシハ大正五年ノ十月二十六日終霜ノ最も早カリ
シハ大正三年ノ三月十七日其最も遅カリシハ大正七年ノ五月十四日、初雪ノ最も早

カリシハ大正元年十月二十一日其最も遅カリシハ大正五年ノ十二月十一日終雪ノ最
も早カリシハ大正七年二月廿七日其最も遅カリシハ大正三年ノ四月十七日ナリトス

一、事業成績概要

勸業模範場ハ創設以來朝鮮ノ農業ヲ發達改良セシムヘキ事項ノ調査研究ニ從ヒ普通
農事棉花栽培園藝蠶業畜産農業水利等各方面ニ亘リ本場及支場ニ於テ研究調査ヲ了
シタル事項勘ナカラス而シテ其ノ成績ノ見ルヘキモノハ之ヲ營業者ニ推奨シ廣ク之
ヲ行ハシメンコトヲ期シ又農作物畜禽等ノ品種中優良ニシテ朝鮮ニ適スヘキト認メ
タルモノハ之ヲ育成シ以テ種苗種畜種卵等トシテ之ヲ配付シ其ノ普及ヲ圖リ又水利
土工ノ便否ヲ調査シ灌排ノ設備ヲ完全ナラシムニ資シ其ノ他土地、氣候、肥料ニ關
スル事項並ニ農家經濟ニ關スル諸般ノ調査モ亦農家ニ便益ヲ與ヘタルコト勘ナカラ
ス今本場ニ於テ調査セル事項ノ主ナルモノヲ列舉シ各支場ノ事業成績ニ對シテハ單
ニ朝鮮ニ於ケル農業經營上重大ナル關係ヲ有スルモノニ限リテ止メントス

事業成績概要

第一 氣候卜耕種法トノ關係事項

朝鮮從來ノ農業ハ極メテ幼稚ナリトス之ヲ發達改良セシメントモハ純チ内地ノ農業ニ求メテ以テ指導啓蒙セサルヘカラス然ルニ朝鮮ノ地タル由來大陸的氣候ノ下ニ支配セラレ寒熱乾濕ノ變化甚ダシク海洋的氣候ヲ有スル我内地トハ大ニ趣チ異ニスルモノアルヲ以テ内地ニ於ケル農作物及其ノ栽培法ハ直チニ之ヲ朝鮮ノ地ニ用フル能ハス之カ爲メ内地ヨリ移住セルモノ往々甚シキ錯誤ヲ招キタル類例乏シカラス故ニ朝鮮ノ氣候ニ鑑ミ以テ品種ノ選擇ヲナシ農事經營ノ方法ヲ案出スルコト肝要ナリトス即チ當場ハ創立以來深ク意ヲ注ギ力ヲ朝鮮ノ氣候ニ適スヘキ農作物ノ種類ヲ選定スルニ用ヒ又之ニ適スヘキ栽培ノ方法ヲ案出スルニ努メタリ即チ當場ハ氣候ノ狀態ヲ調査スル爲メ數年來日々數回氣象觀測ヲ行ヒ又氣候卜耕種法トノ關係ニ付キ諸般ノ試驗及調査ヲ施行セリ氣象狀態ノ概要ハ前報ニ之ヲ記述セルヲ以テ今左ニ試驗及調査ノ成績ニ付キ其ノ要領ヲ略述セントス

(一) 芽乾ニ關スル調査

日本農家ハ舊代播種後一週間位毎日午前十時頃ヨリ二三時間排水シテ芽乾ヲ行フヲ常トスレトモ朝鮮ニ於テハ五月ニ於ケル平均濕度六十三度最少濕度三十六度ニシテ蒸發量モ亦甚ダ多シトスルヲ以テ芽乾ハ斯ノ如ク空氣ノ乾燥甚ダシキ所ニモ亦適用シ得ヘキヤチ知ルノ必要アリ當場ニ於テ行ヒタル調査ノ成績ニ依ルニ常ニ灌水チ一寸五分ノ深サニ滿ヘタルモノハ蒸發稍チ軟弱トナリ毎日午前十時ヨリ一時間排水セルモノハ最初蒸枯ノ憂アリ眞葉ノ萌出ハ常水區ニ比シ二日間後レ又得日午前十時ヨリ三時間排水セルモノハ著シク子葉ヲ傷害スル恐アルモノニシテ就中快晴ノ日課テ長時間排水ヲ行フ時ハ大ナル傷害ヲ蒙ルヘキカ故ニ芽乾ヲ行フコトハ曇天ノ日ニ限ルカ若クハ其ノ時間ヲ短縮シテ生育ヲ害セラレサル様注意シテ苗ノ硬化ヲ期スヘシ

(二) 播秧ニ關スル調査

事業成績概要

事業成績概要

一二

朝鮮農家ハ苗取りノ際二十餘本宛掘リ抜キ少シク根部ヲ洗ヒ結束シテ本番ニ運ビ分ク植ヲナスノ習慣アリ斯クスレハ晴天ノ時ニモ根部乾燥ノ憂ナシト雖モ泥土ハ根元ニ附着スルヲ以テ運搬不便ナリトス然ルニ内地農家ハ五六本宛拔キ取リ根土ヲ充分ニ洗ヒ挿秧スルヲ常トス之ヲ朝鮮ニ適用スルトキハ六月ヨリ於ケル空氣ノ乾燥甚シキ爲メ苗ノ生育極メテ不良ナリトス故ニ當場ハ朝鮮ノ氣候ニ適應スヘキ挿秧法ヲ知ラン爲メ挿秧取扱ニ關シ調査ヲ行ヒタルニ其ノ成績左ノ如シ

一、内地流ノ苗取りヲ行ヒ草地ニ三十分位放置シタル苗ハ總テ心枯チ生シ活力大ニ減退シ其ノ一時間以上ニ及ビタルモノハ莖葉枯凋シテ終ニ發根セサルモノアリ

一、内地流ノ苗取りヲ行ヒ草地ニ三十分位放置シタル苗ノハ半数以上心枯レチ生セシモ苗勢次第ニ恢復セリ

一、内地流ノ苗取りヲ行フモ常ニ水中ニ浸セシモノハ殆ント心枯チ生スルコトナ

ク活力旺盛ナリ

一、朝鮮流ノ苗取りヲ行ヒタルモノハ何レモ心枯チ生スルコトナク活力旺盛ナリ要スルニ内地ニ於ケル挿秧期ハ雨期中ニ屬スルヲ以テ空氣ノ濕度常ニ高ク從テ苗東サ地畔ニ排置スルモ乾燥過ク苗傷ミ甚ダシカラサルモ朝鮮挿秧期ハ空氣常ニ乾燥シ苗傷ミ強キハ内地ヨリ移住セル農家ノ特ニ注意スヘキ點ナリトス

(三) 稲苗ノ乾傷ニ關スル調査

朝鮮ニ於ケル挿秧期ハ空氣常ニ乾燥シ葉面ノ蒸發急劇ニシテ植傷ミ強キノ憂アリ作間移植ニ關スル調査

(四)

内地ニアリテハ陸稻、大豆ノ播下、甘藷、煙草、茄子、胡瓜、甜瓜等ノ植付ハ大抵之ヲ麥ノ作間ニ於テシ時ニ或ハ其ノ苗ヲ植付ケンカ爲メ特ニ麥ノ栽培ヲナスモノアリ是レハ麥カ作物ノ適當ノ作付期ニ圖場ヲ占領セルモノナリト雖モ又麥ノ庇陰ニヨリ日光ノ直射ヲ遮ケ苗ノ成育チ良好ナラシメントスルノ計ニ出スルモノ

事業成績概要

一三

事業成績概要

一四

ナリ然ルニ朝鮮ニ於テハ從來之ヲ行フモノ極メテ少ク唯僅ニ大豆ノ一種アルノミ
茲ニ朝鮮ハ五六月ノ頃空氣ノ乾燥甚シク移植苗ノ生育ヲ困難ナラシムルニ依リ多
クハ直播ニ依ルモノナルヘシト雖モ直播ハ往々ニシテ收穫後ノ收量又少キモノナ
レハ移植ノコト亦忽爾ニ附スヘカラサルナリ故ニ當場ハ甘藷、烟草等ノ類ヲ麥ノ
作間ニ移植スルコト内地ノ方法ニ等シカラシメ其ノ成績ヲ調査セルニ内地同様ノ
効果ヲ得ル能ハスシテ却テ農苗ノ萎枯ヲ來シ甘藷苗ノ如キ時ニ枯死其ノ中ニ達シ
假令生育セシモノモ勢力甚タ劣リ僅ニ餘生ヲ保ツノ觀アリキ此ノ如ク様間移植ノ
軟弱ナル苗ハ忽チ萎凋乾枯シテ縮葉白髮ノ狀ヲ呈シ亂レテ密着シテ是レ素ヨリ
移植當日ノ天候ニヨリ生スルモノナリト雖モ苗葉ノ軟弱ナルコト亦其ノ一因ナリ
當場ハ如何ナル狀態ニアル苗ノ乾傷跡ナキヤヲ知ラン爲メ將ニ第七葉ヲ出サント
スル苗第七葉伸長シテ一二寸ニ達セシ苗及第七葉ハ第六葉ヲ抽キテ一寸餘ヲ越ヘ
タル苗ニ就キ生育ノ狀態ヲ調査セルニ第一第二ノモノハ乾傷ヲ蒙ルコトナカリシ

第三ノモノハ移植ノ翌日第七葉ノ尖端二寸餘萎凋縮シテ密着ニ垂レ後萎凋次
第二ニ進ミ全部ニ及ビ新根ノ發生進マズ苗ノ同育大ニ遅レ其ノ後二週間ヲ經テ第八
葉ノ抽出スルニ至リ初メテ同育セリ斯ノ如ク第三ノモノハ乾傷ノ甚タシカキハ蓋
シ移植ノ適期ナラザリシニヨルモノニシテ若シ夫レ數日ノ後第七葉硬化シ第八葉
將ニ出テントスルノ際ヲトシ移植セバ乾傷却テ少ナカルヘシ要スルニ朝鮮ノ如キ
空氣ノ乾燥甚シキ地方ニ於ケル移植ノ適期ハ心葉針ノ如ク僅ニ出テ力葉黃バミ熟
苗ノ微チ呈スルトキニアリトス

生育甚タ不良ナル原因那幾ニアルヤヲ檢スルニ五六月ノ頃麥ハ土中ノ水分ヲ吸收
スルコト甚タシク加之空氣乾燥シ蒸發盛ナル頃ナレハ苗ハ麥ノ庇陰ニ寄ツント欲
シ却テ土中濕氣ノ缺乏ニ遭ヒ莖葉ノ萎凋ヲ避ケント欲シ却テ之ヲ助長スルノ餘ナ
キ能ハスザレハ朝鮮ニ於テ苗ノ移植ヲ行フニ降雨多ク空中ノ濕氣缺乏セサル内地
ノ方法ヲ用フルハ不良ノ結果ヲ來スモノナレハ作間移植ヲ行フニハ充分ノ注意ヲ

事業成績概要

一五

(五) 除害ニ關スル調査

朝鮮ノ空氣ハ常ニ乾燥シ從テ太陽ノ光熱強烈ナルヲ感ス當時ニ於テハ昔々苗床ニアル煙草、高麗、甘藷等ノ苗カ其ノ子葉ト根トノ間ノ一部絲ノ如キ狀態トナリテ萎乾シ枯死スルヲ認メタルコトアルヲ以テ苗床ノ被覆ヲ除クニ當リテハ格別ノ注意ヲ要スルヲ試ミン爲メ蜜蝋、紫雲英、苜蓿及葱ノ四作物ニ就キ除害ニ關スル調査ヲ行ヘリ其ノ成績ヲ見ルニ雜苗ハ急激ニ除害ナサハ何レモ前記ノ如キ狀態ヲ示スヲ認メタリ而シテ其ノ被害ハ雙子葉ノモノニ大ニシテ單子葉ノモノニ小ナリ蓋シ雙子葉ノモノハ子葉倒レハ成長點ノ活力ヲ失フモ單子葉ノモノハ子葉倒レルモ成長點健全ナルカ故ニ漸次恢復シ得レハナリ要スルニ朝鮮ハ空氣ノ乾燥甚シク日光ノ反射強キカ故ニ雜苗育成ノ場合ニハ被覆ハ漸次薄ラケ特ニ快晴ニシテ光射強烈ナル日ハ除害ヲ避クヘシ移植ハ曇天ニ行フカ然ラサレハ日覆ヲナスヲ良ト

(六) 甘藷苗ノ保護法ニ就テ

甘藷苗ノ移植期ハ恰モ氣候乾燥ナル時期ニ當リ之カ爲メ生着ヲ妨ケラルコト多キヲ以テ如何ナル保護ヲナスヲ可トスルヲ知ラント欲シ明治四十三年及四十四年之カ試驗ヲ行ヘリ其ノ試驗ノ區別ハ(一)無保護(二)麥作下庇陰トスル事(三)葉ヲ兩側ニ敷クコトトセリ其ノ成績ハ四十三年四十一年共ニ數區區最モ優リ四十二年ニハ麥作下庇陰ハ無保護區ニ優リシモ四十四年ニハ麥作下庇陰區ハ苗ノ枯死甚タ多ク其ノ數約六割ニ達シ其ノ收穫量無保護區ニ劣リ此ノ如キ差異ヲ生シタルハ四十二年ニハ移植後時々降雨アリテ土地ハ比較的濕氣ヲ保チ生着佳良ナリシモ四十四年ニハ移植後旱魃續キシカハ麥ニヨリテ土中ノ水分ヲ奪ハレ生着ニ必要ナル濕氣ヲ得ル能ハサリシヲ以テナリ數區區ノ四十二年ニ於テスラ麥作下庇陰區ヨリモ成績良好ナルヲ見レハ朝鮮ノ氣候ハ甘藷移植期ニ於テハ常ニ乾燥ニ過クルト認ムヘク之

(七)

移植スルニハ葉ヲ敷キ以テ之ヲ保護シ尙過度ニ乾燥スル場合ニハ灌水ノ必要アリトセサルヘカラス
被覆下ノ作物ニ關スル調査

葉等熱ノ不良導體ヲ以テ作物ヲ被覆スルトキハ外側寒ヲ防キ内温氣ヲ保チ能ク寒傷ヲ豫防スルノ効アルコト内地ニ於ケル當業者ノ常ニ實驗スル處ニシテ或種ノ作物ニ對シ其越冬ノ上缺クヘカサル作樂ノ一ニ屬セリ然ルニ之ヲ朝鮮ニ應用スルニ同一ノ効果ヲ得ル能ハスシテ却テ其ノ害ヲ認ムルコトアリ其ノ原因ノ那邊ニ存スルヤヲ知ラン爲メ當場ハ明治四十二年之カ調査ヲ行ヒタルニ無覆地ノ温度ハ被覆地(調査セシ被覆ノ厚サハ五寸マデトス)ノ温度ヨリ冬季間日中概テ常ニ高キヲ認メタリ是レ被覆ハ地面ノ吸熱ヲ妨グルコト甚大ナレハナリ然レハ則チ被覆地ノ作物ハ被覆ニヨリ温抱ノ利ヲ得ルコト甚大ナレハナリ午後六時後ニ於テ被覆下放温ノ程度稍々緩ナルモノアリ從テ拂曉時ニ於ケル温度ノ最低極ハ外部ノ如ク著シカラ

サル後アリト雖モ日ノ出ツルニ至リ刻一刻反對ノ現象ヲ呈シ三寒四温ノ特徴ヲ有スル朝鮮ニ於テ被覆ノ下常ニ人工ノ餘天ヲ作り覆下却テ寒冷ナルノ事實ヲ示シ暖ナラシメント欲シテ却テ寒カラシメルノ結果トナリ被覆ヲ施シタル作物ノ地上部枯死シ其ノ之ヲ施サザリシモノ却テ健全ナルヲ得ルノ結果ト來ス然レトモ被覆ハ土地氷結ヲ防ナカラシメ地下莖若ハ根部ハ被覆ノ爲メ常ニ極寒ヨリ保護セラル殊ニ寒傷ニ罹リ易キ柔軟多肉ノ芋麻根ノ如ク一旦氷結シタル部分ハ組織破壊ノ爲メ活力ヲ恢復スル能ハサメルノニ於テ然リ其ノ他ニアリテハ被覆ニヨリ凍傷ヲ蒙ル部分ハ非ラ地上莖ニ屬スルナリ朝鮮冬季ノ氣候ハ三寒四温ノ稱アリ西北風(又ハ北風)吹キテ速ニ寒ク東南風(又ハ南風)來リテ直チニ之ヲ和グル例トス故ニ被覆ノ取扱ニ注意シテ三寒ノ傷害ヲ避ケ四温ノ恩惠ニ浴セシメシカ作物ハ能ク越冬ヘキナリ左レハ作物ノ越冬上著人ノ取ルヘキ保護法ハ防風塹ヲ設ケ被覆ハ僅力ニ寒風ノ觸接ヲ避クルニ止メ四温ノ日中温ヲナルトキハ常ニ之ヲ撤シテ其

事業成績概要

110

(八) 敷設ノ土地氷結ニ及ボス關係ノ調査

明治四十二年ノ實驗ニ依ルニ敷設ヲ以テ地上三寸ヲ覆ヒシ處ハ氣溫零下十七度ニ下リシ時ト雖モ地表ノ氷結ヲ見ルコトナカリシカ敷設二寸ノ處ハ六分ノ氷結ヲ生シタリ是レニヨリテ敷設ノ地表氷結ヲ防クノ力大ナルコトヲ認メ明治四十二年敷設ノ厚サト地表ノ溫度トノ關係ヲ調査セリ地上覆ニヒタル敷設ノ厚サハ一寸三寸五寸及七寸ノ四種ニシテ一月三十一日氣溫零下十七度(最低零下二十度)ニ降リシニ拘ラス一寸區ノ零下二度五ヲ示シテ結氷一寸ニ達シタル外他區ハ結氷ヲ見ルコトナク冬季間終ニ結氷セサリキ當地方ニ於テ零下二十度ハ稀有ノ酷寒ナリ而シテ三寸區ノ能ク土表ノ結氷ヲ避ケタリシハ敷設ノ熱ヲ傳導スルコト極メテ少キヲ證スルナリ

當場ハ敷設敷設ノ効力ヲ確カメシ爲メ明治四十四年耐寒力ノ最も弱キ苧麻ノ刈株

(九) 敷設ニテ被覆シ其ノ耐寒ノ効力ヲ調査セリ其ノ成績ヲ見ルニ一寸ノ厚サニ被覆セラルノハ一部ノミ生存シ他ハ全部枯死シタルモ三寸以上被覆シタルモノハ能ク地表ノ氷結ヲ免レ苧麻ノ刈株ヲシテ耐寒セシムルヲ得タリ

土地結氷ニ關スル調査

土中氷層ノ厚サト氣溫ト如何ナル關係ヲ有スルヤヲ知ラン爲メ明治四十三年之カ調査ヲ行ヘリ其ノ成績ハ大要左ノ如シ

一、氣溫低下スルニ從ヒ地表深ク結氷ス

二、一旦結氷スルトキハ其ノ後氣溫高升シテ上層ハ解氷スルモ全部解氷スルマデハ下層ノ部分ハ常ニ變化スルモノニアラス

三、氷結ノ方向ハ常ニ鉛直的ニシテ横道又ハ斜行スルモノニアラス故ニ敷設ノ類ヲ以テ地表ヲ覆フトキハ其ノ被覆下ノ狀態ハ何レノ部位モ同一ナリトス

(十) 冬季貯藏法ニ關スル調査

事業成績概要

111

事業成績概要

1111

前項既ニ述フルカ如ク概穀ヲ以テ地上三寸ヲ被覆スルトキハ表土ノ結水ヲ豫防シ得ルコトヲ確カメシヲ以テ當場ハ蘿蔔、甘藷ノ類ヲ冬季安全ニ貯藏スル爲メ概穀ヲ利用シ得ヘキト否ヲ研究セリ而シテ蘿蔔ニ對シテハ左ノ方法ニ依リ貯藏ノ日的ヲ達シタリ

排水ヨリ乾燥ナル處ニ深サ三尺長サ三尺幅三尺ノ穴ヲ掘リ蘿蔔ハ葉ヲ除キ倒ニ立テ漸次重ね上ヨリ乾燥セル土ヲ填充シ二寸位ノ厚サニ掛ケ概穀ヲ三寸ノ厚サニ覆ヒ南向ケニ蘿蔔根ヲ掛ケタリ

右ノ方法ハ甘藷ヲ完全ニ貯藏スル能ハサリシヲ以テ甘藷ニ對シテ種々調査ノ上左ノ方法ヲ案出セリ

甘藷ヲ貯藏スルニ當リ其ノ量多キ場合ニハ地下水ナキ乾燥ナル處ヲ選ビ方一間深サ四尺位(諸ノ量ニヨリ加減スルヲ要ス)ノ穴ヲ穿テ穴ノ底ニハ三寸位ノ厚サニ概穀ヲ敷キ穴ノ周圍ヨリ約三寸ヲ隔テテ甘藷ヲ町嚙ニ積ミ込ミ高サ三尺位ニ

至ラシメ後概穀ヲ以テ其ノ空隙ヲ填充シ更ニ上部ニ厚サ四寸位ノ概穀ヲ施シ其ノ上ニハ三寸位ノ空間ヲ設ケ透シ蓋ヲ架シ穴ノ周圍ヲ小風建下シ風雨ヲ避ケルノ用意ヲナスヘシ

土窖内ニ貯藏スル場合ニハ底ニ三寸ノ概穀ヲ敷キ諸ヲ密塞ニ隔レサル様(三寸ヲ明ケ)町嚙ニ積ミ重キ概穀ニテ空隙ヲ填充シ更ニ四寸位ノ厚サニ被ヒ土窖ニハ氣抜ナ設ケ概穀ノ上ニハ決シテ諸ノ類ヲ被フヘカラス

種諸ノ量少キ場合ニハ諸ヲ石油空箱ノ類ニ入レ溫度ノ一隅溫度ノ高カラサル處ニ置ケテ可トス而シテ一個ノ空箱ニ入レ得ル量ハ六貫内外ニシテ先ッ箱ノ底部ニ一寸位ノ厚サニ概穀ヲ敷キ町嚙ニ諸ヲ詰込ミタル後概穀ヲ填充シテ諸ノ隙ナルニ至ラシメ蓋ヲナシ(蓋ニハ透キナ設ケヘシ)溫度ノ一隅(火焚口ノ反對ノ側ニ蓋ヲ置ケ又ハ欄様ノモノヲ設ケテ其上ニ安置スヘシ)石油空箱ノ代リニ番ノ類ヲ用フルモ可ナリ填充材料ハ概穀ヲ可トス砂ハ溫度ノ急變アルノミナラス

事業成績概要

1111

事業成績概要

二四

砂粒間ノ空隙少ク諸内水分ノ蒸散チ妨クルノ嫌アルカ如シ

第二 良品種普及ニ關スル事項

當場ハ從來多種作物ノ品種ヲ廣ク蒐集シ比較審査ノ上良品種ト認ムヘキモノハ之カ普及ヲ圖ランコトヲ期シ年々各種作物ノ品種比較ヲ行ヒ其ノ種類百以上ニ達シ品種ニ依リテ之ヲ分類スレハ五百ノ多キニ及ヘリ是等品種中ニハ既ニ其ノ成績顯著ナルモノアリ今重要ナル作物ニ就キ優良ナル品種ト認メタルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 水稻 多數品種中優良ナリト認ムヘキモノハ早神力、多摩錦、穀良都、高千穂日ノ出都、及錦ノ七種ニシテ大正八年度作付反別ハ何レモ左ノ如キニ達セリ

今各種作付面積ヲ列舉スルハ左ノ如シ

早神力 二四八、九九九町
穀良都 二二七、〇五一
多摩錦 一三一、四六八

都 四一、四五〇

日ノ出 三七、一〇一

錦 二九、六二〇

高千穂 二六、八六五

右ノ内早神力、多摩錦、穀良都ノ三種ハ京畿道以南高千穂ハ全羅北道錦ハ忠清北道都ハ慶尙南道ノ南部ニ達シ日ノ出ハ京畿道以北ノ地ニ適ス是等品種ノ良性質實世ノ知ルトコロトナルヤ朝鮮在來種ハ次第ニ排斥セリテ當場附近ノ如キハ殆ント在來種ヲ認メサルニ至レリ殊ニ早神力ハ其ノ栽培ノ普及セラレタルコト著シク前記ノ如ク二十萬町歩以上ニ及ヘリ今大正元年以降早神力栽培増加ノ趨勢ヲ表示スレハ左ノ如シ

大正元年 一一三、〇〇〇町

大正二年 七三、〇〇〇

事業成績概要

二五

事業成績概要

二六

- | | |
|------|---------|
| 大正三年 | 一〇七、〇〇〇 |
| 大正四年 | 一七六、〇〇〇 |
| 大正五年 | 二三〇、〇〇〇 |
| 大正六年 | 二四一、〇〇〇 |
| 大正七年 | 二五三、〇〇〇 |
| 大正八年 | 二四八、〇〇〇 |
- (一) 陸稻 當場ニ於ケル累年ノ成績ニ依ルニ稈種ニアリテハ收量品質共に優良ナル
ハ「オイラン」「金子小金井」及博覽會ノ四種ニシテ收量少キモ品質ノ佳良ナルハ「フ
ンター」「ヤンゴミ」及仙臺トシ又品質劣ルモ收量多キハ端藤、高千穂、信州早生
ノ三種ニシテ稈種ニアリテハ尾張種ハ常ニ豐産ニシテ良質ナリ
- (二) 春時大麥 累年平均成績ハ品質ニ於テハ「ゴールデンメロン」「ハンナ」「クライ
ンサツクスガイソーゲ」良好ニシテ在來種ハ遠ク及ハスト雖モ收量ハ較劣レリト

- ス要スルニ六條麥ハ性質強健能ク乾燥ニ耐ヘ早熟ニシテ雨害ヲ免レ豐凶ノ差少シ
秋時大麥 累年平均成績ニ依レハ「マンムート」種ハ收量品質トモニ最優等ニシ
テ適良種ナルヲ示セリ
- (四) 小麥 累年平均成績ニ依レハ「カリフォルニア」及「ブライド」種ハ品質收量共に
良好ニシテ就中「カリフォルニア」種ハ當地方ニ於ケル適種ナルヲ認ム又在來種ノ
性質強健ニシテ克ク不良ノ氣候ニ堪ヘ甚タシキ凶作ナキコトハ其一ノ長所ナリト
認ムルヲ得ヘシ
- (五) 燕麥 累年ノ成績ニ觀スルニ「セルゲエスミーン」種ハ殊ニ收量多ク最も有望ナ
ル品種ナリ而シテ粒ノ形質最も佳良ナルハ「レースホース」種ナリトス
- (六) 大豆 從來「オイアルコーン」ノ成績良好ナリシカ大正四年當場選出ニカ、ル水
原十號ハ累年平均收量最も多ク品質又良好ナルヲ以テ當地方ニ於テ最も推薦スヘ
キ優良品種タリ「オイアルコーン」長端之ニ次ヅ「オイアルコーン」ハ大粒ニシテ品
質優良

事業成績概要

二七

事業成績概要

二八

- 種亦優良ナルモ種皮ニ紫斑及裂痕ヲ生ジ易キ欠點アリ長端ハ中粒ニシテ豐滿鮮麗
當地方ノ有望種タルヲ失ハズ
- (八) 小豆 果年ノ成績ニ微スルニ水原ノ收量最も多シ然レドモ品質ニ於テハ收量ノ
少キモノ概シテ良好ニシテ粒形亦大ナリ之ニ反シ收量多キモノハ小粒ニシテ品質
稍劣ルノ傾アリ
- (九) 落花生 落花生ニ對シ好適ナラサル年柄ニアリテハ伏莖種ノ如キ性質強健ナル
モノ却テ立莖種ヨリ收量多キヲ示スト雖モ氣候適順ナル年柄ニ於テハ立莖種ノ收
量多キヲ當トス故ニ氣候溫暖ナル南部地方ニテハ該種ヲ栽培スルヲ可トシ之ニ反
シ氣候比較的不適當ナル地方ニ於テハ寧ロ伏莖種ヲ擇フヲ得策トスルモノノ如シ
- (十) 甘藷 元氣ハ性質強健諸ハ粉質ニシテ水分ニ乏シク貯藏ニ堪ヘ其ノ豐凶ノ差
ク品質優良ニシテ甘味ニ富ミ當地方ニ適スル良品種ナリ
- (十一) 蕎麥 長野種ノ收量品質共に佳良ナルヲ見ル

(三) 馬鈴薯 在來實ハ強健ニシテ能ク不良ノ氣候ニ堪ヘ收量常ニ最も多シ然レトモ
品質ノ佳良ナラサルノ憾アリ長崎亦ハ品質比較的良好且收量多ク當地方ニ於ケル
適良種ナルカ如シ

(四)(五) 大麻 收量品質共に栃木種優良ナリ

(六) 苧麻 陸地種ハ收量縮歩令多シト雖モ水原地方ニ於テハ南鮮ト異リ其ノ栽培
ニ注意ト努力ヲ要スルコト多キヲ以テ農家ニ推廣シ難キノ憾アリ之ニ反シ在來
種ハ性質強健栽培容易ニシテ豐凶ノ差少ナキモ收量縮歩令較ヤ少シトス

(七) 煙草 内地種中有望ト認ムモノハ水府、國府、秦野及指宿ニシテ朝鮮種中有望
ナルハ成川種ナリトス達摩ハ品質稍劣ルモ收量甚々多ク栽培及乾燥ノ容易ナル
コト他ニ比スヘキモノナキヲ以テ是亦捨難キ品種ナリト云フヘシ

(八) 薄荷 岡山、山形、北海道ノ三種ヲ比較セルニ岡山種ハ性質稍十慮弱ナルカ故
ニ寒地及不順ノ氣候ニ於テハ生育不良ナルヲ免レスト雖モ岡山ノ產量著シク多ク品質

事業成績概要

二九

事業成績概況

三〇

實優良ナルカ故ニ氣候温暖ナル地方ニ於テ適地ヲ選ミ之ヲ栽培セハ最も利益アル
ヘク山形種ハ品質稍ヤ劣ルト雖モ性質強健ニシテ能ク不順ノ氣候ニ堪ヘ繁茂良好
ナルカ故ニ比較的寒地ノ栽培ニ適スヘク北海道種ハ性質強健ナレトモ品質最も劣
等ナルカ故ニ栽培ノ價值ナシトス

第三 品種改良ニ關スル事項

(一) 品種育成ノ成績

以上ニ述ヘタル優良品種ハ既存ノ品種中ヨリ比較考査ニヨリテ選拔シタルニ過キ
ス故ニ品種改良ノ方法トシテハ未タ進歩シタル方法ト認ムル能ハス只朝鮮在來種
ノ劣點ナルニ代ヘント欲スルノ急ニ應スルニ過キス然レトモ今ヤ前記優良品種ハ
次第ニ普及セラレタルヲ以テ當場ハ更ニ進ンテ一層優良ナル品種ヲ創成センコト
ヲ欲シ兩三年來種係第三部ヲ專ラ品種改良ノ事ニ従ハシメ遺傳ノ原則ヲ基
礎トシ純系淘汰又ハ人工交配ノ方法ニヨリ新種ヲ育成セシメツツアリ而シテ人工

交配ノ結果ハ短キ歲月ノ間ニ之ヲ明カニスル能ハサルモ純系淘汰ニヨリテ選出セ
ル所則純系ナル優良品種ハ廣ク世ニ勸奨スルニ足ルモノアリ今最近ノ成績ニヨリ
二三純系ト混系(純系兩汰用ニ供シタル原種)トノ一反歩當收量比較ヲ示セハ左
ノ如シ

種 別	純 系	混 系	増收歩合	比較年度
水稻草種力水原第一號	九七・六三七	八六・〇〇七	一四	大正六年
同島國水原第二十四號	八九・一二八	八四・二六五	六	同
同多摩錦水原第三十號	一〇四・六〇九	八八・四二一	一八	同
同在來早稻種水原第廿六號	四六・八七九	四一・三一六	一三	同
陸稻オイヤン水原第一號	七一・三〇〇	五三・七七四	三三	同
大麥白麥種水原第一號	七一・〇三〇	六五・二三〇	九	大正七年
同倍取種水原第二號	七八・二六一	六九・八二〇	一二	同

事業成績概況

三一

事業成績概況

三三

前在來種白大麥水原第三號	三七・八〇〇	三〇・〇〇〇	二六 同
大豆黃州種水原第一號	二・八四〇	二・三七五	二〇 大正五年
同水原第五號	三・四七四	二・三七五	四六 同

備考 前記米收量ハ概ノ重量ナリ

(二) 水稻自然雜種ニ關スル調査

當場ハ大正六年度ニ於テ稻太郎兵衛種ヲ栽培シ其北側ニ之ト開花期同一ナル梗豐後種ヲ隣接セシメ(東西南ノ三側ニハ開花期著シク異ナル品種ヲ栽培セリ)自然雜種少クハ調査セルニ豐後種ニ近キ各列ハ其歩合甚ダ多ク之レヨリ遠サカルニ從ヒ次第ニ減少スルモ十數列ヲ距タルモノニアリテ尙多少ノ雜交行ハルルヲ見ル又此種ヲ栽培シ西南兩側ニ道路及溝渠約一間中ヲ距テ開花期同ジクセル早神力ヲ栽培セルニ自然雜種ノ行ハルルノ程度ハ各列ニ於テ大體承認メザリシモ自然雜種ノ甚ダ廣ク行ハルルヲ知レリ故ニ水稻ノ自然雜種ハ到底人力ヲ以テ之ヲ防クコト

ト能ハザルモノナレバ純系ヲ保持セシムハ左ノ方法ニヨルノ外ナシ

一、其純系ノミヲ栽培スル地方ニ於テナルヘク其中央ヨリ採種スルコト

二、純系ノ採種地ハ其ノ特性ヲ著シク異ニセル品種ノ中央ニ設ケ以テ自發雜種ノ發見ニ容易ナラシムルコト

三、純系ハ理論上累年淘汰ノ必要ナキモ右ノ理由ニヨリ毎年淘汰ヲ廢スヘカヲサルコト

第四 栽培法改良ニ關スル事項

當場ハ朝鮮ニ於ケル在來農法ハ改良ヲ要スルノ點多キヲ認め各種ノ作物ニ就キ此土ニ恰適スヘキ栽培法ヲ案出セントシ諸種ノ試驗及調査ヲ行ヘリ其ノ成績ハ以テ朝鮮農家ノ指針トナスニ足ルヘキヲ信シ項ヲ分チテ其ノ重要ナルモノヲ示セハ左ノ如シ

甲 播種及移植ニ關スル事項

(一) 播種ノ豫措

事業成績概況

三三

事業成績概況

三四

秋時大麥 麥奴豫防ノ爲種ニ冷水温湯浸ヲ行ヒタル場合施行後種子ヲ乾燥スルト
否トノ生育及收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ試ミタルニ陽乾セルモノ及温潤ノ
ママ下種セルモノハ共ニ成績不良ニシテ陰乾セルモノハ其ノ成績佳良ナリキ
小麥 前項ト同一ノ試験ヲ行ヒタルニ其ノ成績全ク一致セリ
陸稻 浸種ノ得失及浸種日數ノ收量ニ及ボス關係ヲ知ラン爲不浸種、一、三、五
及七晝夜浸ノ五區ヲ設ケ比較シタルニ浸種區ハ何レモ不浸種區ニ勝リ就中五晝夜
區ノ成績最モ佳良ナリ
落花生 鳥獸害豫防ノ爲種子ニコールダール又ハ花油ヲ塗布スルノ效否ヲ試ミタ
ルニ不浸防區ハ風又ハ小禽ノ爲ニ種子ヲ喰害セラレ發芽數著シク減セリコールダ
ール及花油ヲ塗抹セルモノハ其ノ成績共ニ佳良ナリ故ニ兩者ノ塗抹ハ種子發芽ニ
害ナキヲ認ムルヲ得ヘシ
(二)
播種ノ適期

當場ノ試験ニ依レハ左記作物ノ播種ノ適期左ノ如シ

秋時大麥 平年ニアリテハ十月上旬ヲ以テ最も適當トシテ之レヨリ早キニ過キン
ヨリハ寧ロ稍ヤ遲キニ利アルモノノ如ク秋季氣候ノ温暖ナル年柄ニアリテハ十月
中旬却テ良好ノ結果ヲ示スコトアリ
春時大麥 播種期ノ早キモノハ收量最モ多ク其ノ遲ルニ從ヒ遞減シ殊ニ四月ニ
入りテハ著シク不結果ヲ來スヲ以テ表土ノ解氷ヲ俟テ早ク下種シ晚クモ三
月中ニ之ヲ終ハルヲ得策ナリトス
小麥 平年ニアリテハ九月下旬乃至十月上旬ヲ以テ播種ノ適期トナスヘク而シテ
其ノ早晚ノ得失ニ就テハ秋時大麥ニ等シク早キニ過キンヨリハ寧ロ稍ヤ晚キヲ利
トスルモノノ如シ
陸稻 五月上旬ヲ以テ最も適當トシ之ヨリ早キニ過クルハ結果良好ナラス又之レ
ヨリ晚キニ失スルトキハ更ニ著シク收量ヲ減ス

事業成績概況

三五

本業成績概況

三六

大豆 適當ナル播種期ハ五月中旬ニシテ之ヨリ早晚共ニ收量ヲ減スヘク六月中旬以後ニ於テ殊ニ著シキヲ見ル

小豆 大豆ニ同シ

蕎麥 七月中旬ヲ最適トシ之ヨリ早晚共ニ收量ヲ減シ殊ニ晩ルル時ハ霜害ヲ受ケ著シク減收ス

落花生 五月二十日前後ヲ以テ最適トシ之ヨリ早晚共ニ不可ナリ

馬鈴薯 馬鈴薯ノ播種期ハ四月中旬ヲ以テ最適トス然レトモ種子用ノモノハ晩播ヲ必要トス而シテ晩播ノ適期ハ六月中旬ナルモノノ如ク之ヨリ早キ時ハ薯塊結成後腐敗スルモノ多ク之ヨリ晩キトキハ種薯不良ナルヲ見ル

(三)

播種ノ方法

小麥 小麥ヲ播下スルニ條播、點播ノ何レカ適當ナルヲ試ミタルニ條播ハ點播ニ比シ良好ナル成績ヲ示セリ

(四) 移植ノ適期

稻水 稻苗移植ハ四十日苗ヲ可トスルモノアリ四十五日苗ヲ喜ブモノアリ又時ニ五十日ヲ擇ブモノアリ此ノ如ク機械的ニ播種後經過日數ノ長短ニヨリテ苗ノ移植適期ヲ定ムルハ不可ナリ當場ノ調査ニ依ルニ苗代地ノ肥瘠ハ著シク苗ノ剛軟ヲ來シ苗代期中ノ氣候ハ著シク苗ノ生育ヲ左右スルモノナレハ同一日數ノ苗ト雖モ同年同一ノ狀態ヲ有スルモノニアラス故ニ稻ノ移植ノ適期ヲ判定スルニハ苗ノ生理的状態ヲ基礎トセサルヘカ要スルニ移植ニ適スル苗ハ草丈八寸位ニ伸ビ第六ノ葉頭稍々黄バミテ硬化シ第七葉ノ將ニ出テントスル時又ハ第七ノ葉頭稍々黄バミテ第八葉ノ將ニ出テントスルトキヨリ數日ノ間ヲ選ブヘキモノナリト認ム若シ夫レ此ノ期ヲ失シ第七又ハ第八葉伸ビテ將ニ開展セントスル頃ニ至ラハ移植ノ爲メ植傷ヲ生シ生育甚ダ不良ニ陥ルモノトス

事業成績概況

三七

事業成績概況

三八

得ルノミナラス品質ヲ良クシ收量ヲ増加スルノ利アリトノ説アルヲ以テ當場ハ之
カ利害ヲ比較セリニ適期ニ移植セルモノハ最も健全ニシテ直接區ニ比シ收量遙カ
ニ多ク品質亦良好ナルヲ認メタリ而シテ其ノ移植ノ適期ハ十月中旬ニシテ之ニ用
フル苗ハ九月下旬ニ下種シテ得タルヲ可トス
小麥 秋季十月下旬ニ移植ヲ行フトキハ秋時大麥ニ等シク結果佳良ナルヲ見ル
甘藷 收量ニ於テハ五月中旬ニ移植セルモノ殊ニ最も多ク六月中旬迄ハ比較的少ナ
カラスト雖モ其ノ以後ニ至リテハ根ニ之ヲ減シ品質ニ於テハ移植期ノ早キニ從テ
良好即チ粉質ニシテ甘味多ク之ニ反シ其ノ遅ルルニ從ヒ膠質ニ變シ甘味劣ルノミ
ナラス貯藏ニ耐フルノ力ヲ減ス要スルニ甘藷ノ移植ハ苗ノ育成次第可成早キヲ可
トスルモノノ如シ

薄荷 薄荷苗ノ移植期ハ春秋何レヲ可トスルヤ試ミタルニ當地方ノ如キ氣候ノ
下ニハ秋植ハ寒傷ニ罹ルヲ以テ安全ナラズト雖寒傷ヲ免レロク發芽スル地方ニア

(五) 移植ノ深淺

リテハ其ノ生育春植ニ比シ良好ニシテ取卸油量及腦ノ含有歩合等ノ勝レルヲ見レ
ハ寒氣甚タレカラサル南緯地方ニ於テハ秋植チ利トナスモノノ如シ

水稻 從來世人ハ稻ヲ深植スルトキハ苗ハ苗代ニ於テ催根ノ微アリシ節ヨリ發根
セシテ其ノ上部ニ位シ挿秧ノ當時恰モ地下適當ノ位置ニ存スル他ノ節ヨリ發根
シ從テ生育遲延スト説クト雖モ當場ノ研究スルトコロニ依レハ是蓋シ誤ナルヘシ
即チ稻苗ハ土中ニ存スル最上節ヨリ發根スルモノニシテ其ノ節ハ既ニ苗代ニ於テ
形成セラレ催根ノ微チ有スルヲ以テ挿秧ノ深淺宜シキヲ得ルトキハ移植後直チニ
其ノ節ヨリ根ヲ出シ養分ノ吸收ヲ始メ稻ハ順調ノ生育ヲ營ムヲ得ヘキモ深植ノ場
合ハ其ノ節ノ存スルトコロノ地溫低キヲ以テ直チニ發根スル能ハス其ノ下ニ存ス
ル節間伸長シ其ノ節ヲシテ地下適當ノ位置ヲ占メシムルニ至リテ初メテ發根スル
モノナリトス之ニヨリテ觀ルニ稻苗ハ一寸位ノ深サニ挿植スルヲ可トシ之ヨリ深

事業成績概況

三九

事業成績概況

四〇

ク之ヲ植付クルトキハ生育遅レ分蘗少ク發育亦惡シカルヘシ古來苗ハ倒レサル限
リ淺ク之ヲ植ユヘシト稱スルハ金盲タルヲ失ハス

(六) 移植ノ方法

大麥 夏作物ノ收穫後レタル田地ニ秋麥ヲ有利ニ栽培セシム移植ヲ行フニ播種及
移植ノ適期如何ヲ知ラン爲メ九月中下旬ニ移植シタルモノト十月中下旬ニ直播セ
ルモノトヲ比較セルニ九月中旬ニ下種セルモノハ十月中旬及下旬ニ移植セハ其ノ
成績著シク直播ニ勝ルヲ見ル

小麥 大麥ト同一ノ試驗ヲ行ヒタルニ其ノ成績異同シ

甘藷 鉤針挿、水平挿又ハ斜挿ノ内斜挿ノ收穫最モ多ク鉤針挿之ニ次ク故ニ斜挿
ハ最モ有利ナル方法ナルカ如シ

(七) 覆土ノ方法

秋麥大麥 播種ノ際ニ於ケル覆土ノ厚薄ハ一寸内外ヲ適度ナリトナスハ果年成績

ノ示ス所ナリ然レトモ氣候寒冷土壤乾燥ノ處ニアリテハ稍深キヲ可トス
覆土後踏壓スルト踏壓後覆土スルトハ其利害何レニアラヤナ試ミタルニ踏壓後覆
土スル方成績佳良ナルヲ認ム

小麥 覆土深淺ノ適否ハ秋麥大麥ニ異ナラズ

馬鈴薯 馬鈴薯下種ノ際ニ於ケル覆土ノ深淺ハ其ノ發育及收量ニ如何ナル關係ア
ルヤヲ知ラン爲メ一寸二寸三寸及四寸ノ別ヲ以テ試驗セルニ四寸區ノ生育最モ佳良
ニシテ覆土ノ深サヲ減ズルニ從ヒ生育劣リ收量又界之ニ迫ス故ニ馬鈴薯種子ノ覆
土ハ三寸乃至四寸ヲ以テ適當トナスモノノ如シ

(八) 貯蓄日數

甘藷 貯蓄日數ノ長短ニヨリ生育及收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラン爲メ
試驗ヲ行ヒタルニ普通ノ場合ニハ採苗後直チニ移植スルノ良好ナルコト疑フヘキ
ナシト雖乾燥甚ダシキ年柄ニアリテハ少日數ノ間ハ寧ロ之ヲ貯藏シ雨濕ヲ俟テテ

事業成績概況

四一

四二

後移植スルノ得策ナレチ示スモ、ノ如シ然レトモ、貯苗一週日以上ニ上ルハ不可ナ

(九) 採苗ノ方法

甘藷 種諸ニハ如何ナル形狀ノモノヲ適當トスルカヲ知ラシム爲メ小形及大形ノ藷ヲ用イ大形ノ藷ハ其ノ儘用イタルト縱斷シテ用非タルト横斷シテ用非タルトノ各區ヲ比較セルニ大形種路隨及其縱斷區ノ成績佳良ナルヲ認メタリ

苗床ニ普通量ノ種諸ヲ伏セタルモノト其ノ量ヲ減シテ疎ニ伏セタルモノト又普通量ノモノヨリ生シタル雜草三分ノ一ヲ間引キタルモノニツキ得失ヲ試ミタルニ疎列區ノ收量最も多ク間引區之ニ亞キ普通區ハ最も劣レリ故ニ諸苗ハ苗床ニ於テハ密生ニ過キシメサルヲ可トスルモノノ如シ

普通行フカ如ク約八寸位ニ伸長シタル苗ヲ切取ルトノ得失及約三尺位ニ伸長セシメタル苗ヲ三四本二切ケ用ユルトノ得失ヲ試験セラルニ無憂區ノ成績最

乙 施肥ニ關スル事項

(一) 雨水中所含ノ窒素

植物ノ營養分量モ必要ナルヲ破壞有機酸及加里トス就中窒素ハ朝鮮ノ土壤ニ最モ缺乏セルカ故ニ天然供給ノミニ依ル能ハスシテ常ニ之カ和給ノ手段ヲ盡スハ甚ダ必要ナルコトナリトス而シテ窒素ノ天然供給ニ給源アリ一ハ既ニ土中ニ存スルモノニシテ他ハ雨雪ノ滲ラス硝酸及アンモニア性窒素是レナリ當場ハ天然給源タル降水水中ノ含有量ヲ檢定スルノ必要ヲ認メ之カ調査ヲ行ヘリ今其ノ成績ヲ見ルニ一箇年間一町歩面ニ降下セル硝酸性ノ窒素ノ量ハ五百五五アンモニヤ性窒素ノ量ハ七百二十一奴即チ合計一貫二百二十一奴ナリ今之ヲ英國「ロザムスタツト」ニ於ケル九百二十七奴東京駒場ニ於ケル七百四奴ニ比スレハ當地ノ雨雪ハ化合窒素ニ雙ニシテ特ニ硝酸窒素ノ多量ナルヲ見ル而シテ其ノ量ハ稻作窒素要量十分ノ一

業績概況

事業成績概況

四四

(二) 天然養分供給量

ニ過キサレトモ又以テ雨露ノ惠ノ單ニ濕潤ノミニ止マラサルヲ知ルヘキナリ
植物養分ノ主ナル天然給源ハ風化及微生物等ノ作用ニヨリ可給應ニ變ヘル土壤成分
分雨露中ヨリ來ル窒素化合物及灌溉水中ニ含有スル養分ナリトス此等天然供給ノ
養分ノ吸收利用セラルヘキ量ハ作物ノ異ルニ從ヒテ相同シカラサルヲ以テ當場ハ
水稻ニ就キ之ヲ査定試験ヲ行ヘリ而シテ其ノ成績ヲ見ルニ三箇年平均ニ於テ當場
寄ニ於ケル水稻ニ對スル天然養分ノ一反少當リ供給量ハ窒素一貫二百廿六匁燐酸
九百九十匁加里一貫七百三十九匁ニシテ之ヲ別ニ行ヒタル完全肥料區收穫物ノ三
要素ノ比ニ對照スレハ天然供給三要素ノ割合ハ燐酸ニ比シ窒素ハ不足シ加里ハ過
剩ナルヲ認メ故ニ無肥料ニテ水稻ヲ栽培スル場合ハ天然供給ニヨル三要素中燐酸
及加里ノ吸收セラルヘキ量ハ最少養分率ニ從ヒ窒素ノ量ニヨリ制限セラルヘキナ
リ若シ夫レ水稻ヲシテ天然供給ノ最多ナル加里ヲ悉ク利用セシメント欲セハ更ニ

(三)

一反少ニ付キ窒素四百八匁燐酸五十八匁ヲ供給スルニ足ルノ肥料ヲ施スノ要アリ
而シテ當場ノ算定ニ依レハ概一石ヲ生産スル稻ニ要スル三要素ノ量ハ一反少ニ付
キ窒素四百五十三匁燐酸二百八十六匁加里四百九十二匁ナルヲ以テ窒素及燐酸
ヲ供給セハ天然供給ノ加里全量ニテハ概三石五斗三升五合ヲ生産シ得ル割合ナリ
各種肥料比較

當場ハ水稻大麥小麥陸稻及甘藷ニ付キ肥料比較試驗ヲ行ヘリ其ノ成績ノ概要左ノ
如シ

水稻 當場番ハ一般ニ有効性燐酸及加里ニ豐ナルモ窒素ハ缺乏セルヲ以テ窒素肥
料ノ効果ハ特ニ顯著ニシテ之ヲ供給ハ必要ナルヲ以テ當場ハ大豆粕、硫酸アン
モニア、菜油粕、米糠、綠肥(ルナサン)堆肥ヲ用ヒテ水稻ヲ栽培シ各種窒素肥料
ノ効力及吸收率ヲ比較セリ其ノ成績ヲ見ルニ窒素ノ効果ハ大豆粕最も大ニシテ硫
酸アンモニア、菜油粕、米糠、綠肥、順次之ニ次ギ堆肥ノ効果最も劣レリ而シテ

事業成績概況

四五

事業成績概況

四六

各區收穫物ノ所含窒素量ヨリ無窒素區收穫物ノ所含窒素量ヲ減シテ供給肥料所含ノ窒素中水稻ニ吸收利用サレタル量ヲ算出シ之ニヨリテ吸收率ヲ算定セルニ水稻ノ吸收シタル割合ハ施給セル窒素百ニ對シ硫酸アンモニア七十二大豆粕六十四花油粕五十三米糠五十一綠肥四十七堆肥八ヲ示シタルヲ以テ内地ニ於ケル從來ノ成績ニ比スレハ吸收率ノ大ナルヲ示スモノト云フヘシ而シテ用量ト吸收率トノ關係ヲ見ルニ大豆粕、花油粕、米糠、綠肥等ノ有機質肥料ハ普通施用量ノ範圍ニ於テハ用量ノ増減ニヨリ吸收率ニ大差ナシ是レ此ノ種ノ肥料ハ施用後流亡スルノ憂ナキヲ以テ夏季ニ於ケル氣溫高クシテ腐熟分解迅速ナル限リハ比較的完全ニ吸收利用セラルレハナリ特ニ堆肥ニ於テ吸收率ハ其ノ用量ノ増加ニ伴ヒテ寧ロ増進セルコトヲ示セリ之ニ反シテ硫酸アンモニアハ施用量ノ増加スルニ從ヒ吸收率遞減セリ是レ此ノ肥料ハ可溶性ニシテ多量ニ使用セル場合ニハ其ノ幾分ハ土壤ニ吸收セラレスシテ流失スル虞アレハナリ

各種肥料ノ吸收率ハ必スシモ肥料ノ收量ト比例スヘキモノニアラス施肥ノ時期及用量ハ概ト腐トノ割合ニ著シキ差異ヲ生シ吸收率ノ大ナルニ係ハラヌシモ肥料ノ吸收率ト少キ場合ナキニアラス

右ハ本圃栽培ニヨリタル試驗成績ニシテ別ニ行ヘル圃場試驗ニ於テ大豆、大豆粕、花油粕、赤脂草、人糞尿、乾鰾、餅粕、硫酸アンモニア、骨粉ヲ用ヒ各種肥料ニ對スル經濟上ノ得失及肥培力ノ優劣ヲ比較セルニ三年ノ成績當ニ其ノ概ヲ一ニセリト云フ能ハサルモ花油粕ハ年々ノ成績ニ偏頗ナクシテ肥効最も安全ナリト云フヘク大豆粕ハ年々ヨリ優良ナル成績ヲ示スモ時ニ或ハ稻熱病ノ害ヲ受ケ著シク收量減スルコトアルヲ以テ此ノ點ニ注意スルコト必要ナルヲ認ム

陸稻、陸稻ニ對シテハ如何ナル肥料ニ含有スル窒素量分最も有効ナルヤヲ知ラント欲シ比較試驗ヲ行ヘリ肥料ノ種類ハ次ニ掲グル春時大麥ト略同シ其ノ成績ハ大豆粕區最も收量多ク硫酸アンモニア區花油粕區等之ニ次ク即チ右三者ハ陸稻ノ肥

事業成績概況

四七

事業成績概況

四八

料トシテ最有効ナルモノノ如シ
春時大麥 各種窒素肥料中其ノ何レノ肥料ニ含マルル窒素ノ春時大麥ニ最モ有効ナルヤヲ知ラント欲シ堆肥、荳油粕、大豆粕、糠、硫酸「アンモニア」、人糞尿、醬油粕、智利硝石、鍊粕、干鹼ニ就キ比較試驗ヲ行ヘリ其ノ成績ニ依ルニ硫酸「アンモニア」最良好ニシテ智利硝石之ニ亞キ鍊粕、干鹼、荳油粕、大豆粕等相順次シ堆肥、糠、人糞尿、醬油粕等ハ最モ劣レリ然レトモ肥料ノ効驗ハ氣候土質其ノ他ノ關係ニヨリ差異ヲ生スルカ故ニ前記ノ成績ヲ以テ何レノ地及何レノ時ニ於テモ同一ナリト認ムルハ不可ナリ
小麥 陸稻ト同一ノ方法ニヨリ比較試驗ヲ行ヘリ其ノ成績ヲ見ルニ硫酸「アンモニア」大豆粕及荳油粕常ニ優秀ナリ
甘蔗 肥料ノ甘蔗收量及品質ニ及ボス關係ヲ知ラン爲メ堆肥及米糠並ニ硫酸及加里肥料等ヲ單用又ハ併用シテ試驗ヲ行ヘルニ收量ニテハ堆肥ニ硫酸及加里ヲ併用

セルモノ最モ多ク米糠區之ニ次キ硫酸加里區硫酸區及堆肥ニ硫酸ヲ併用セルモノ又之ニ次キ堆肥單用區及無肥料區最モ劣レリ而シテ甘味ノ優秀ニ至リテハ堆肥ニ硫酸ヲ併用シタルモノ第一位ヲ占メ硫酸區米糠區硫酸加里區之ニ次キ堆肥ニ硫酸及加里ヲ併用シタルモノ並ニ無肥料區稍々劣リ堆肥單用區最モ劣レリ之ヲ要スルニ糠過硫酸石灰等ノ硫酸質肥料ハ甘味ヲ加ヘ品質ヲ良好ナラシメ加里肥料ハ收量ヲ増スモ甘味ヲ減スルモノノ如シ

大豆 朝鮮ニ於テハ大豆ハ殆シト無肥料ニテ栽培セラルルヲ常トス之ヲ變素ノ上ヨリ見レハ大豆ハ根瘤菌ニヨリ遊離窒素ヲ利用シ得ルカ故ニ之ヲ施スノ必要ナカルヘク可溶性窒素肥料ハ却テ著シク根瘤ノ生育ヲ妨グルノ弊アルハシト雖モ硫酸及加里ノ存在ハ大豆根瘤ノ生成ヲ促進シ生育及所含成分上ニ著シキ影響アルヘキヲ以テ之ヲ確認セシ爲メ當場ハ大豆ニ對スル硫酸肥料及加里肥料ノ大豆成分ニ及ボス關係ヲ調査セルニ硫酸及加里ヲ施用セサルモノハ脂肪ニ富ム蛋白質多カラス

事業成績概況

四九

事業成績概況

五〇

之ヲ施用セルモノハ蛋白質ニ富メリ是レ磷酸及加里ノ施用ハ根腐ノ生成ヲ助ケ之ニ依リテ遊離窒素ヲ固定シ以テ窒素ノ供給ヲ豐富ナリシメ蛋白質ノ生成ヲ促シタルモノナリトス窒素素及根中ノ窒素モ磷酸及加里ヲ施用セルモノニ多量ニシテ殊ニ根部ニ於テ著シク増加セルヲ認メタリ此ノ如ク根部ニ於ケル窒素量ニ多少アリトセハ大豆作跡地ノ肥瘠ニ差異アルヘキヲ思ハサルヘカウス當場ハ其ノ果シテ然ルヤヲ調査セルニ推測ニ違ハサル結果ヲ得タリ

右ハ「ソグネル」氏陶製鉢ニ栽培セル結果ナルニ當場ニテハ別ニ圃場ニ栽培セルモノノ成績モ之レト發チ一ニシ磷酸及加里ノ施用ハ著シク大豆ノ生育及收量ニ好果ヲ及ボセルヲ示セリ尙施肥上特ニ意ヲ注クヘキモノアリ他少シ堆肥等有機質ヲ含有スル肥料ハ直接養分ヲ供給スル外土地改良ノ効アルコト是ナリ

(四) 肥料用量

水稻、肥料用量カ稻ノ成熟及收量ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ知ラン爲メ少量區

普通區、多量區、最多量區ヲ設ケ比較栽培ヲ行ヘリ肥料ハ各區共一反歩ニ付キ堆肥百五十貫目ヲ施シ右ノ外普通區ニハ油粕七貫目多量區ニハ同十四貫目最多量區同二十一貫目ヲ施セリ其ノ成績ニヨレハ肥料用量ノ増加スルニ從ヒ收量亦多少増加スレトモ最多量區ハ往々出來過ノ虞アリ多量區ト普通區トノ收量ノ差ハ大ナラサルヲ以テ天候不順ノ場合ニモ稻熱病發生ノ虞ナキ普通區即チ堆肥百五十貫油粕七貫目位ヲ以テ安全且有利ナル施用量ト認ム

秋時大麥、大豆和施用ノ適量ヲ知ラン爲メ二十五貫目、五十貫目、七十五貫目施用ノ三區ヲ設ケタルニ施用量ノ多キモノ必スシモ收量多カラズ故ニ反當二十五貫目以上ヲ施スハ經濟上有利ナラサルモノノ如シ

落花生、肥料トシテ木灰ヲ施用スルノ適量ヲ知ラン爲メ十貫目、二十貫目、五十貫目ノ三區ヲ設ケ比較シタルニ施用量ノ多キニ從ヒ成績佳良ナリ故ニ經濟上有利ナル限リハナラヘク多クノ木灰ヲ施ス可トス

事業成績概況

五一

事業成績概況

五二

馬鈴薯 肥料トシテ堆肥ヲ施用スルニ當リ其適量如何ヲ知ラン爲百五十貫目、三百貫目、四百五十貫目、六百貫目ノ四區ヲ比較セルニ堆肥ノ量増加スルニ從ヒ收量多少ノ増加ヲ見ルモ三百貫目以上ハ其ノ差大ナラサルヲ以テ三百貫目内外ヲ適量トナスモノ知シ

(五) 施肥期

水稻 荏油粕分施ノ得失ヲ判定シ併セテ適當ナル施用量ヲ知ラント試ミタルニ堆肥、過磷酸石灰及油粕ノ全量ヲ原肥トセルモノノ收量最も多ク油粕ヲ追肥トセルモノハ其ノ施用期ノ後ルニ從ヒ順次收量ヲ減セリ
秋蒔大麥 肥料ノ全量ヲ播種ノ際原肥トシテ施スト其ノ一部人糞尿ノミヲ補肥トシテ秋末ニ施ストノ秋蒔大麥ニ及ホス得失ヲ比較セリ肥料用量ハ一反歩ニ付キ堆肥二百五十貫、過磷酸石灰五貫、木灰十貫、人糞尿百貫ナリ其ノ成績ヲ見ルニ補肥區ハ原肥區ニ比シ一割一分餘ノ減收ニシテ品質又不良ナリキ故ニ秋蒔大麥ノ肥

料ハ全部原肥ニ施スト以テ利ナリトス
小麥 前項秋蒔大麥ト同一目的ヲ以テ同一ノ試驗ヲ行ヘルニ其ノ結果亦秋蒔大麥ト同一ナリ

煙草 煙草ノ肥料ヲ施スニ當リ原肥トシテ其ノ全量ヲ一回ニ用フルト原肥補肥ノ二回ニ分テ用フルト何レニ利アルカヲ知ラント欲シ之ヲ試ミタリ肥料總量一反歩ニ就キ堆肥二百貫、荏油粕二十五貫、木灰十五貫ニシテ原肥區ニアリテハ移補ノ際全部之ヲ施シ補肥區ニアリテハ右ノ中堆肥八十貫、荏油粕十貫、木灰六貫ヲ第一回培土ノ際ニ施セリ而シテ其ノ成績ヲ見ルニ收量品質共ニ原肥區ハ補肥區ニ優レリ故ニ當地方ニ於ケル煙草肥料ハ原肥トシテ一回ニ施スト得策ナリトス
大麻 大麻ノ施肥ハ其ノ時期ニヨリ結果ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ知ラント欲シ(一)前年ヨリ施肥シ置キタルモノ(二)播種ト同時ニ施肥シタルモノトノ二區ヲ設ケ之ヲ試ミタルニ前年ヨリ施肥シ置キタルモノノ收量適ニ優リ品質亦優良ニシテ大麻

事業成績概況

五三

(六) 施肥法

春時大麥 日本内地ニ於テハ作物ヲ播種スルニ當リ種子ノ直下ニ肥料ヲ施スコト
 艱ナカラス是レ降雨多クシテ土地ノ水分ニ缺乏スルコト少ク爲メニ發芽ヲ妨グル
 カ如キコトナケレハナリ然ルニ朝鮮ニテハ之レニ異リ殊ニ四五月ノ交降雨最も少
 キヲ常トスルヲ以テ此ノ如キ施肥法ヲ行フトギハ種子ノ發芽ヲ妨ク爲メニ不結果
 ナラスコト多シ故ニ施肥ノ方法ニヨリ麥作ノ成績ニ如何ナル影響ナシ及ホスヤヲ知
 ラン爲メ地肥人糞尿及在油粕ノ三種ヲ用ヒ各一種子ノ傍ニ埋施シタルモノ二種子
 ノ直下ニ施スモノ三種子ノ上ニ施スモノノ三區ヲ設ケテ其ノ成績ヲ調査セル二種
 子ノ直下ニ施シタルモノハ各肥料共ニ種子ノ傍ニ埋施セシモノニ比シ大ニ其ノ收
 量ヲ減シタルノミナラス品質亦概ネ不良ナリキ肥料ヲ種子ノ上ニ施セシモノハ收
 量ノ減前著ノ如ク著シカリサリシモ發芽稍ヤ不齊ニシテ生育ニ不良ノ結果ナシ及ホ

セリ故ニ肥料ハ種子ノ傍ニ埋施スルヲ必要トス大麥ノ如キ强健ナルモノニ於テ然リ況ンヤ他ノ脆弱ナル作物ニ於テオヤ

ニ然リ況ンヤ他ノ虚弱ナル作物ニ於テオヤ

秋蒔大麥 春蒔大麥ト同様ノ試驗ヲ行ヒタルニ其ノ成績揆テ一二シ肥料ハ種子ノ

側方ニ施スヲ以テ最モ適當ナルヲ示セリ

陸稻 前項春蔦大麥ト同一ノ目的ヲ以テ試驗ヲ行ヘリ其ノ成績ハ秋蔦大麥ト其ノ
 播チニニスルヲ見ル

馬鈴薯ニ於テモ播種ニ際シテ施ストコロノ肥料ハ側方チ最も適當ナリト

ス

(七) 施肥ノ豫措

施肥ノ豫措

水稲 肥料用大豆ヲ施用前腐熟セシムルト否トハ稲ノ成熟及收量ニ如何ナル關係アルヤヲ知ラシ爲メ新鮮區及腐熟區ヲ設ケ之ヲ試ミタルニ整地前撒布シ深ク土中ニ埋没セシムルハ其ノ肥料却テ腐熟區ニ及ハサルヲ認メタリ

事業成績概況

五五

(八) 肥料ノ遺効

水稻 當場ハ肥料ノ遺効ヲ知ラン爲メ五箇年間繼續施行シタル肥料比較跡ヲ利用シ無肥料ニテ稻ヲ栽培シ收量ノ多寡ヲ比較セリ而シテ其ノ成績ヲ見ルニ赤諸草跡地最モ良好ニシテ在油粕跡地之ニ次キ大豆粕跡地、骨粉跡地、人糞尿跡地、乾鹽跡地、大豆跡地、硫酸安母尼亞跡地、順次之ニ次キ鍊粕地最モ劣レリ從來ノ實驗ニ徴スルニ赤諸草ヲ施ストキハ氣候狀態ニヨリテハ稻繁病ヲ發生スルコト多キヲ以テ年々ノ收量ヲ平均スレハ在油粕ヲ施シタルモノニ及ハス在油粕ハ年々ノ成績偏頗ナク殊ニ遺効モ赤諸草ト大差ナキヲ以テ當地方ニ適スル優良ノ肥料ナリト認ムヘシ

(九) 大豆粕粉碎ニ關スル調査

大豆粕ヲ粉碎スルニハ鍊ニテ削リタル後陽乾シ研子磨ニテ粉碎スルニアリ其ノ法ハ先ツ豆粕ヲ席ノ上ニ伏セ下ニ經四寸位ノ磨石ヲ置キ上ヲ兩足ニテ踏ミ付鍊ヲ兩

手ニ持テ周圍ヨリ削廻リ反轉シテ削返シ後兩足ノ間ニ挟ミ左手ニテ支ヘツト削ルニアリ削リタル粗片ハ一二日間席上ニ擴ケテ陽乾シ三五分ナ一回ニ研子磨ニ掛ケテ粉碎スルナリ此ノ法ニヨルトキハ曰ニテ搗碎スルモノニ比シ約三倍ノ能率アリ

丙 整地ニ關スル事項

(一) 耕鋤期

水稻 春耕期ノ時期カ稻ノ生育及收量ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ知ラシ爲メ秋耕、春耕、分耕(春秋二季ニ分耕ス)ノ三區ヲ設ケ之ヲ比較セリ而シテ其ノ成績ハ秋耕區ノ收量最モ多ク分耕區之ニ次キ春耕區最モ少ナリ故ニ秋耕ノ利益大ナルヲ明カナリ

(二) 耕鋤法

水稻 春ノ整地ヲナスニ當リ灌水ノ後犁耕ヲ行フノ利害ヲ判定セシコトヲ欲シ乾耕區灌水ヲナスシテ犁耕ヲ行フ、水耕區(十日間灌水シテ犁耕ヲ行フ)ノ別ニ依

り、試験セルニ水耕區ノ成績ハ常ニ乾耕區ニ優レリ故ニ灌水ノ便アル處ハ翌耕十日
前位ヨリ水ヲ灌キ置キテ耕鋤ヲ行フヲ利アリトス

(三) 作畦法

秋蒔大麥 排水不良ナル粘質地ニ於テハ如何ナル作畦法ヲ適當トナスヤヲ知ラシ
爲メ(一)畦幅六尺ノ高畦上二尺ノ横畦(二)畦幅四尺五寸ノ高畦上二條ノ縱畦(四)幅六
尺ノ高畦上二尺ノ横畦播種地地面ヨリ三寸堀下ケタル地ノチ比較セルニ平畦區ハ
高麗區ニ此シ收量多キヲ見ル然レトモ土地長シク卑濕ニシテ常ニ水濕ノ停滯スル
カ如キ粘質地ニアリテハ高麗トナスチ安全ナリトス

小麥 小麥ノ作畦法亦大麥ト其成績ナ同ジウス

馬鈴薯 秋蒔大麥ト同様ノ區別ヲ以テ作畦法ノ優劣ヲ比較セルニ平畦區ハ高麗區
ヨリモ收量多シ但良ナリ是レ當場附近ハ馬鈴薯ノ成育盛期ナル晩春及初夏ニ於テ
甚ダシク乾燥スルヲ以テナリ故ニ排水不良ナル圃地又ハ當時多雨ノ地方ニアリテ

ハ必スシモ平畦ヲ可トスヘキモノニアラス

甘藷 排水不良ノ土地ニ於テ甘藷ヲ栽培スルニ際シ如何ナル作畦法ニ依ルチ最モ
可ナリトスヤヲ知ラシ爲メ(一)幅四尺五寸ノ高畦上ニ二條ニ栽培ス(二)幅三尺ノ高畦
上ニ三條ニ栽培ス(三)幅二尺ノ小高畦上ニ一條ニ栽培ス(四)平面ニ二尺ノ畦幅ヲ以
テ栽培スルノ四區ニ別テ比較栽培ヲ行ヘルニ累年ノ平均成績ニ於テハ高麗ノ幅狭
キモノ種其收量多キヲ見ル

(四) 畦ノ方向

秋蒔大麥 平地ニ栽培スル場合ニ畦ノ方向ニヨリ收量ニ及ホス影響ヲ知ラシ爲メ
畦ノ方向ヲ(一)東西ニ置ルモ(二)南北ニ置ルモ(三)東北ヨリ西南ニ置ルモ(四)西北
ヨリ東南ニ置ルモノ四區ニ分テ比較栽培ヲ行ハタルニ(一)ノ收量最モ多ク(四)ノ收
量最モ少シ蓋シ(四)ノ方法ハ冬季寒風ヲ受ケ易ク從テ寒傷ニ罹ルコト甚ダシキニヨ
ルモノノ如シ

事業成績概況

六〇

春時大麥、秋時大麥ト同一ノ方法ニ依リ畦ノ方向ノ適否ヲ比較セルニ各區ノ差異著シカラスト雖モ南北ニ亘ルモノ稍々僅レルカ如シ
小麥、其ノ成績秋時大麥ニ類シ西北ヨリ東南ニ亘ルモノ最も不良ノ成績ヲ示ス
陸稻、畦ノ方向東北ヨリ西南ニ亘ルモノ最も僅ルヲ見ル

丁 作物疎密ニ關スル事項

(一) 畦幅ノ廣狹

秋時大麥、麥類ノ畦幅ハ當面ニ於テハ從來之ヲ二尺トセリ然ルニ當地方農家ノ普通ニ行フ處ニ稍々狹クシテ一尺五寸内外ナルカ如シ故ニ其ノ廣狹ノ得失ヲ明カニセシカ爲メ畦幅ヲ一尺五寸、一尺八寸、及二尺ノ三種ニ分テ比較栽培ヲ行ヘリ其ノ成績ヲ見ルニ收穫ニ於テハ二尺區最も多ク一尺八寸區及一尺五寸區ハ收穫量ニ於テ較々多シト雖モ子實量夥キノミナラス品質又順次劣等ナリ是レ畦幅ノ狹キモノハ日光ノ照射不十分ナルノミナラス春季乾燥ノ際ニ於テ旱害ヲ感スル事亦甚シキカ

故ナルヘシ之ヲ見レハ秋時大麥ノ畦幅ハ二尺ヲ以テ適當トナスモノノ如シ

陸稻、陸稻作ニ於ケル適當ナル畦幅ヲ知ラン爲メ一尺、一尺二寸、一尺五寸、一尺八寸及二尺ノ五區ヲ設ケ比較栽培ヲ行ヘリ其ノ成績ハ二尺區最も勝レリ

落花生、畦幅ヲ一尺五寸トナセルモノハ之ヲ二尺トナセルモノニ比シ收穫量多シトス

大麻、畦幅ノ廣狹ハ大麻ノ品質及收穫量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラン爲メ畦幅ヲ六寸、一尺、一尺五寸ノ三種ニ分テ比較栽培ヲ行ヘルニ其ノ成績ハ畦幅ノ狹キモノハ草丈ニ於テ稍々劣ルト雖收穫量ニ於テハ遙ニ廣區ヲ抜き殊ニ製品ノ品質柔靱ニシテ細美ナルハ其ノ最も優良トスル所ナリト雖勞力ヲ要スルノ點ニ至ツテハ廣區ニ比シ遙ニ多キヲ遺憾トス故ニ製品ノ用途ニ依リ織物用トシテ上等ノ纖維ヲ採取セントスルニハ畦幅六寸ヲ最も適當トスト雖モ若シ織物以外製網製繩其ノ他稍々下等品ヲ以テ足ルノ用途ニ供セントスルニ當リテハ寧ロ畦幅一尺トナストキ

事業成績概況

六一

事業成績概況

六二

(二) 株間ノ大小

ハ收量ノ差跡ナクシテ生産費ヲ減シ經濟上得策ナルヘシ
甘藷 株間ノ大小ニヨリテ甘藷ノ收量品質ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ知ラシメ
メ株間ヲ七寸五分、一尺、一尺二寸、一尺五寸及三尺ノ六種ニ分テ比較栽培ヲ行
ヘル三箇年平均成績ニテハ株間一尺區ノ收量第一位ヲ占メ株間廣キニ從ヒ漸次收
量ヲ減スルヲ認メタリ

煙草 栽培ノ疎密ハ生育、收量及品質ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ知ラシメ
國分ノ兩種ヲ用ヒ株間ヲ七寸、八寸、九寸及一尺ノ四種トナシ比較栽培ヲ行ヘル
ニ兩種共收量及品質ノ最優良ナルハ八寸區及九寸區ニシテ七寸區亦之レト大差ナ
シ一尺區ハ常ニ最劣レリ之ヲ要スルニ密植ハ概シテ疎植ノモノヨリ成績優良
ナリトス

(三)

一株本數ノ多小

水稻 播秧ノ早晚ニヨリテ一株ノ苗數ヲ變スルヲ利アリトスルヤヲ知ラシメ
月十三日、六月二十日及六月二十七日ノ三回ニ各一株本數ヲ六本、九本、及十二
本ニ區別シ比較栽培ヲ行ヘリ其ノ成績ヲ見ルニ六月十三日植ニ於テハ九本植ノ收
量最モ多ク六本植之ニ次ギ六月二十日植ニ於テハ九本植十二本植ノ收量最モ多ク
六月二十七日植ニ於テハ本數ノ多キニ從ヒ收量増加ス故ニ此ノ成績ニ微スレハ播
秧ノ時期後ルルニ從ヒ一株ノ本數ヲ多カラシムルヲ利トナスモノノ如シ

馬鈴薯 馬鈴薯ノ莖數ヲシテ一定ノ本數トナスノ利害ヲ知ラントシ一本立、二本
立三本立及放任ノ各區ヲ設ケ比較栽培ヲ行ヒタルニ放任區ハ收量最モ多キモ品質
最モ劣リ形狀不整ニシテ小形ニ屬スルモノ多ク一本立區ハ薯形極メテ齊一ニシテ
大形豐滿ナルモノニ富ムモ收量ハ最モ劣レリ故ニ收量品質ノ中庸ヲ得ント欲セハ
莖數ヲ二本乃至三本トナスヲ可トスルモノノ如シ

(四)

播種量

事業成績概況

六三

事業成績概況

六四

春時大麥 播種量ノ適度ヲ判定セシメ爲メ四升播、四升五合播、五升播及六升播ノ四區ヲ設ケ其ノ成績ヲ比較セルニ各區ノ收量大差ナシト雖モ其ノ發育ノ狀況ニ鑑ミ且ツ其ノ生産物ノ品質ヨリ論スルトキハ四升五合播乃至五升播ヲ以テ適度トナスモノノ如シ

陸稻 陸稻ノ播種量ハ其ノ種子ノ大小及芒ノ有無等品種ニ依リ多少ノ差異アリト雖モ當場ニ於テハ一反歩ニ付キ四升(無芒小粒種)乃至五升(有芒又ハ大粒種)ヲ標準トセリ其ノ果シテ當テ得ルヤ否ヤヲ驗セン爲メ無芒小粒種ナル「オイラン」種ヲ用ヒ三升五合播、四升播、四升五合播及五升播ノ四區ヲ設ケテ比較栽培ヲ行ヒタルニ四升播最モ好成績ニシテ四升五合播及三升五合播之ニ次ギ五升播ハ適ニ劣レリ故ニ「オイラン」種ノ如キ無芒小粒ノモノハ四升内外ヲ以テ播種ノ適量トナスモノノ如シ

戊 連作ノ利害ニ關スル事項

大豆 大豆ハ連作ヲ行フトキハ漸次其ノ收量ヲ減スルヲ見ル

甘藷 連作ノ得失及其ノ肥料トノ關係ヲ知ラント欲シ之カ試驗ヲ繼續セルニ年々果メルニ從ヒ收量ヲ減スルト雖ニ年後ニ於テハ其ノ遺著シカラス然レトモ其ノ品質及形狀ニ於テハ連作年次ヲ加フルニ從ヒ上進スル傾アリ之ヲ以テ觀レハ甘藷ノ連作ハ施肥ニ注意スルトキハ收量ヲ減スルコト甚ダシカラスシテ品質ノ上進スルノ利アルモノト云フヘシ

薄荷 薄荷連作ノ利害ヲ知ラン爲メ岡山、山形、北海道ノ三種ニ就キ之ヲ試ミタルニ各種共ニ連作年次ヲ加フルニ從ヒ收量及取卸量減スルヲ見ル故ニ連作ノ結果不良ナルハ明カナルヲ以テ年々地ヲ新ニ栽植スルノ得策ナルヲ知ル

己 田舎管理ニ關スル事項

(一)

灌水ノ深淺

水稻 朝鮮從來ノ苗代ハ灌水ヲ三寸以上ノ深サニ湛ユルノ習慣アリ灌水ノ深サハ事業成績概況

六五

事業成績概況

六六

苗ノ伸長ヲ促進スルノ利アリト雖苗實ヲ軟弱ナラシムルノ缺點ナキ能ハス故ニ當
場ハ灌水ノ深淺ト苗ノ強弱良否トノ關係ニ就キ調査セリ其ノ結果左ノ如シ
一寸水 常ニ一寸ノ深サニ灌水ス子葉ハ彎曲シ子根遲レテ發スルモ播種後十日目
頃ニ至レハ根力大ニ進ミ眞葉ノ成長亦佳良ナリ
二寸水 常ニ二寸ノ深サニ灌水ス子葉ハ直出ツ子根亦之ニ伴フテ出テ播種後十日
目頃ニ至レハ根力最も強ク眞葉ノ成長佳良ナリ
三寸水 常ニ三寸ノ深サニ灌水ス子葉直出シテ長ク播種後十日目頃ニ至レハ眞葉
長ク根力稍ヤ劣リ苗實軟弱ナリ
右ノ結果ニ依レハ苗代水ハ二寸位ノ深サヲ保テシムルヲ可トス淺キニ過レハ夜間
ノ冷却甚シク發芽後レ三寸水ハ發芽佳良ナルモ苗實軟弱ナルヲ免レヌ早晩ノ差多
キ朝鮮ニテ苗代水ヲ深ク滿フルノ習慣アルハ實シ止ムヲ得サル處置ナルヘシト雖
モ苗代ノ早害ハ農家カ灌水ノ便否ヲ顧ミヌ各自本苗ノ一部ニ苗代ヲ設置スルニ基

因スルモノナレハ苗代ハ灌水ノ便アル處ニ集合シテ適當ノ深サニ水ヲ滿ヘ剛強ナ
ル苗ヲ養成スルヲ可トス

(二) 培土ノ得失

小麥 麥類成長ノ初期ニ於テ苗莖上ヨリ細土ヲ投入シ莖間ニ多少ノ培土ヲ行フト
キハ能ク強剛ニシテ分蘗ヲ促進シ繁茂チ良好ナラシムルノ益アルトノ説アルヲ以テ
當場ノ小麥ヲ以テ其ノ得失ヲ試ミタルニ培土セラルモノハ培土セサルモノニ比シ其
ノ成長較ヤ優リ且其ノ四數ノ増スニ從ヒ收量又増加セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ麥作
ニハ晩秋ヨリ初春ノ間ニ於テ適當培土ヲ行フハ其ノ結果チ佳良ナラシメ得ベレ但
シ二回ヲ適度トシ其以上ハ効果ナキガ如シ

(三) 摘心ノ利害

大豆 大豆ニ摘心ヲ行フノ利アルモ否及其ノ適期ヲ知ラン爲メ之ヲ試驗チ行ヘル
ニ各區ノ發極メテ僅少ニシテ未ダ摘心ノ利害ヲ説ク能ハス

事業成績概況

六七

小豆 小豆ニ就キ大豆ト同一ノ試験ヲ行ヒタルニ無精心區ノ成績最モ良好ニシテ
摘心區ハ總テ之ニ及バズ摘心期ノ遅ルルニ從ヒ漸次不良ノ結果アリ即チ小豆ハ摘
心ノ必要ナキノミナラス之ヲ行フトキハ却テ不結果ヲ來スモノノ如シ

(四) 摘葉摘花ノ利害

大豆 從來朝鮮農家ノ一部ニハ大豆ノ落葉スルニ先チ之ヲ人畜ノ食料ニ供セシメ
メ摘葉スルノ習慣アリ然レトモ當場ノ成績ニ微スルニ摘葉ハ收量ヲ減スルコト著
シク其ノ程度ハ摘葉ノ程度多キニ從ヒ大ナルモノナリ

(五) 支柱

馬鈴薯 馬鈴薯ノ摘花ト收量トノ關係ヲ試ミタルニ摘花セルモノハ摘花セサルモ
ノニ比シ收量常ニ多ク且摘花セサルモノハ莖形概シテ小ナリトス
甘蔗 甘蔗ハ普通地上ニ莖葉ヲ匍匐セシムルモノナルモ之レニ支柱ヲ與ヘ莖葉ヲ
纏絡セシムルトキハ諸ノ收量多ク且返返シノ勞ヲ省クヲ得ルノ利アリトス然レト

(六) 中耕回数

中耕ニ勞費ヲ要スルヲ以テ栽培面積廣キ場合ニハ經濟上利害ノ考察ヲ要ス
春蕎麥 中耕回数ノ多少カ收量ニ及ボス影響ヲ知ラン爲不中耕、中耕一回、同
二回ノ三回ヲ比較シタルニ中耕ハ之ヲ行フヲ要シ其ノ回数多キニ利アルヲ認メタ

(一) 産米改良ニ關スル事項

朝鮮米ニハ稗實ノ混入極メテ多シ米質ノ改良上之カ除却ニ励ムルハ目下ノ急務ナ
リ而シテ稻苗ニ稗ノ混生スルハ皆ニ産米ノ品質ヲ下タズノミナラス其ノ根ハ土中
ニ蔓延シテ稻ノ吸收スベキ養分ヲ掠奪シ之カ生育ヲ害シ分蘖力ヲ殺シ收量ニ大ナ
ル損害ヲ與フルモノナリ當場ハ試ミニ稻株間ニ稗苗ヲ挿シ其ノ稻ヲ害スル程度
ヲ調査セシニ沃地ニアリテハ稻ハ多少分蘖スルヲ得ヘキモ瘠地ニアリテハ稻ノ分
蘖成績概況

事業成績概況

七二

ハ手摺ナ其ノ根元ニ掛ケ根ト共ニ抜き取り分蘖ノ處ヲ絶シテ必要トス然レトモ稗
穂稍ヤ熟セントスル頃ニ至リテハ茎稈剛化シ分蘖力ヲ減殺スルヲ以テ強テ根拔ヲ
行フノ必要ナシ若シ之ヲ行ハハ却テ稗實ヲ害中ニ脱落セシムルノ害アリ故ニ穂ノ
ミチ抜クサ可トスルナリ

(三) 赤米ノ害ト其除去法

産米ニ赤米ノ混在スルハ産米ノ品位ヲ下シ其ノ價格ヲ損スルコト大ナルノミナラ
ス赤米苗ヲ普通ノ稻苗ト混播スルトキハ生育力盛シニシテ分蘖スルコト多キ爲メ
普通ノ稻ノ収穫スヘキ養分ヲ掠奪シ之カ生育ヲ害シ収量ニ大ナル影響ヲ及ボスモ
ノナリ當幼ニテ試ミニ改良種ノ苗六本ト赤米苗一本トヲ混播セシニ秋收穫ノ際改
良種ハ僅ニ其ノ莖數八本ニ増加セルニ係ハラス赤米稻ハ五本ニ増加セルヲ見タリ
故ニ農家ハ改良種稻中ニ赤米種子ノ混セサル様注意スルト同時ニ既ニ混シタル
モノハ之ヲ除却スルコトニ努ムルコト肝要ナリ

赤米ヲ除去スルニハ種稻中ニ混在スル赤米ヲ除去スルヲ必要トス而シテ之ヲ除去
スルニハ穗選ト粒選トノ二法アリ

一、穗選法 穗選法ニハ透視法ト剥皮法トノ二種アリ

(イ) 透視法 透視法トハ種稻ヲ日光ニ晒シ其光線ヲ透サセモノヲ除去スルヲ云

(ロ) 剥皮法 剥皮法トハ種稻中ノ一粒ヲ剥皮シ其赤米ナルヤ否ヤヲ檢シ識別ス
ルノ法ニシテ効果確實ナリ

二、粒選法 粒選法トハ浸種期中ニ種稻ヲ引上ゲ帶赤色粒ヲ除去スルヲ云フ

右各法中最モ有効ナルヲ穗選剥皮法トス粒選ハ農繁期ニ行ハザルベカラザルノ不悞
アルヲ以テ穗選種子ナキカ又ハ種子ニ不足ク在シタル時ニ便宜實行スベキモノナリ
トス

指頭ニテ種ノ剥皮ヲ行フハ作業困難ナルノ故ニ本場ハ一種ノ剝割器ヲ案出セリ其構

事業成績概況

七三

事業成績概況

七四

遺ハ金屑板ヲ以テ製シタル二個ノ指環形金具面ニ上下反對ノ粒狀凹凸ヲ附シタルモノニシテ之レヲ使用スルニハ掛指ニ凹型環食指ニ凸型環ヲ嵌メ選別シタル各粒ニツキ一粒宛凹型面ト凸型面トノ間ニ狹ミトリテ粒粒ヲ橫向ケニ稍強ク壓擦剥皮シテ粒色ヲ檢シ赤米糠ヲ識別除去スルモノトス

本器ハ一時間ニ六百穗以上ノ選別ヲナシ得ベキヲ以テ一反歩用ノ種子量ヲ五升トスル時ハ一日二三反歩以上ノ所要種粒ヲ選別スルコト容易ナリ故ニ農家ハ本器ヲ備ヘ冬季ノ農閑ヲ利用スルヲ可トス

(四) 糠米ノ石拔

米穀ニ土砂ノ多キハ朝鮮米ノ最大缺點ニシテ取引上非常ナル障害ヲ來スノミナラズ其ノ弊價ニ影響スルコト甚タシトス故ニ當場ハ農家ノ手ニテ實行シ得ベキ糠米石拔ノ方法ヲ考案シ實行上充分ノ價值アルヲ認メ之ヲ普及ナ圖リツツアリ而シテ石拔ヲ行フニハ當場ノ特ニ考案セル石拔唐箕及石拔籠ヲ用フモノニシテ其ノ功程

(五)

四人吹製作

ハ唐箕及籠各一臺ヲ用ヒ人夫三人ヲ使役シ一日ノ仕上糠量三十石ニ達シ仕上糠一升中ニ殘レル砂ハ僅カニ一粒ニシテ殆ント完全ニ土砂ヲ除却シ得即チ糠一石ノ精選ニ要スル賃銀ハ四錢ニ相當スルノミ但シ此ノ作業ハ唐箕ニ齊備三臺ヲ用ヒ人夫五人ニテ行フヲ利アリトシ其場合ニハ一石ニ要スル費用一層低キヲ得ヘシ

吹ハ從來五斗入ナリシモ大正五年九月米穀検査規則改正ノ結果四斗入ニ制定セラレ其ノ一枚ノ重量ハ六百匁以上トナレリ今當場ノ調査ニヨリ構造ノ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

縱經 四十二節 二匁五分乃至三匁五分

縫繩 九匁乃至十一匁 一尋三匁乃至四匁

規繩 十八匁乃至二十二匁 一尋七匁乃至八匁

縫目 二十三乃至二十六

事業成績概況

七五

事業成績概況

鑑幅 二尺八寸

鑑長 五尺五寸

吹奏表ノ差 三寸

幸 收穫物取扱ニ關スル事項

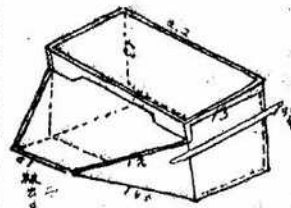
(一) 薄荷ノ乾燥

收穫セル薄荷ノ葉葉ヲ陽乾スルト陰乾スルトニヨリ其ノ含有成分ニ如何ナル影響
ヲ及ボスヤヲ知ラン爲之レ方試験ヲ行ヒタルニ陽乾ハ陰乾ニ比シ乾燥量少キノミ
ナラス取卸量著シク減シ屬ノ含量甚ダ劣リ損失ノ大ナルヲ認メタリ

(二) 有芒椒計量ニ關スル調査

小作料授受等ノ際有芒ノ椒ヲ計量スルトキハ著シキ差異ヲ生スルヲ以テ之
レヲ斤量ニ改ムルノ必要ナキヤ否ヤヲ研究セント欲シ試ニ有芒種百斤ヲ採リ世折
ノ前後ニ於テ其ノ辨目ヲ計リタルニ兩者ノ間約二十四斤ノ差ヲ生ス然ルニ斤量ニ

據ルトキハ世折ニヨリテ生スル其ノ差ハ僅々一斤ニシテ深ク論スルニ足ラス故ニ
椒ノ授受ハ辨量ニヨラスシテ斤量ニヨルヲ適當ナリト認メ當場ハ有芒椒斤量計量
用トシテ左ノ器具ヲ案出セリ



本器ヲ使用スルニハ先ツ懸一斗ノ重量ヲ計リ
之ヲ五倍シテ器ノ重量ヲ加ヘ秤目ヲ定メ後眞
等ニテ椒ヲ器中ニ入レ其ノ定量ニ達スルヲ待
チ俵内ニ納入スルモノトス

第五 水利及旱水害ニ關スル事項
事業成績概況

事業成績概況

七八

朝鮮ノ農業上最も留意スヘキ一事ハ灌溉ノ設備未ダ整ハサルニアリ朝鮮ニ於テモ古
來堤堰狀ノ存在セルモノナキニ非スト雖モ批政ノ結果多クハ荒廢ニ歸シ今尙旱水害
ニ苦メワルル地方尠カラス故ニ是等堤堰ノ利用シ得ヘキモノヲ恢復スルト共ニ必要
ナル箇所ニ新ニ溜池堤壩ヲ設ケ旱水害ノ救済ニ資スルコト甚ダ肝要ナリ依テ當揚ニ
於テハ農業水利ノ調査設計ニ從ヒ又工事ノ實行ヲ勸奨指導セルモノヲ勉メトセシ臨盆
水利組合、臨盆南部水利組合、沃濟西部水利組合、臨沃水利組合、連山水利組合、村
井農揚治水事業等ノ如キモ當揚ノ干與セル所ナリトス其ノ他全羅、慶尙、忠清諸道
ニ於ケル溜池改築ノ設計工事及其ノ指導並ニ洛東江沿岸、錦江沿岸、東津江沿岸ニ
於ケル旱陂地及水害地ノ水利上ノ諸調査等枚舉ニ遑アラズ斯ノ如ク外樂ニ從事スル
ト共ニ内ニハ水利及旱水害ニ關スル事項ニ就キ調査研究ヲ行ヘリ今其ノ成績ノ概要
ヲ左ニ示サントス

(一) 灌溉水量

灌溉水量 當揚ノ調査ニ依レハ普通番一反歩ニ對スル稻作期間葉面及水面蒸發量並
蒸發計ノ示ス蒸發量一ニ對スル其ノ割合ハ左ノ如シ

年 度 別	葉 面 蒸 發 量	蒸發計蒸發量一ニ 對スル葉水面蒸發量
明治四十二年	三、四九七・七〇	一・二五〇
明治四十三年	二、七九二・九一	一・二九〇
明治四十四年	二、六八〇・六一	一・二二〇
大正元年	二、三三九・〇五	〇・九二一
大正二年	二、二九七・七八	〇・九三二
大正三年	三、八六八・七八	一・三九七
大正四年	三、一一二・一〇	一・二〇六
大正五年	二、二六九・三三	一・一六九
大正六年	二、七〇八・四四	一・一九一
平 均	二、八一〇・九六	一・一五三

事業成績概況

七九

事業成績概況

八〇

、、、、、
 浸透量 灌溉量調査同一地區ニ於テ調査セル所ニ依レハ一反歩ニ對スル稻作期
 間ノ浸透量ハ左ノ如シ

明治四十二年	二九八・五五
明治四十三年	一、一六七・九六
明治四十四年	二、九二五・六八
大正元年	三、七九二・五六
大正二年	二、七四八・九六
大正三年	三、八〇〇・八九
大正四年	二、七九三・八〇
大正五年	七九八・六四
大正六年	二、六八一・八六
平均	二、三三四・三二

尙餘地挿秧ニ要スル水量ヲ調査セルニ左ノ如シ

明治四十二年	五三二・七六
明治四十三年	五四〇・一八
明治四十四年	五四〇・〇〇
大正元年	五四〇・〇〇
大正二年	五四〇・〇〇
大正三年	五〇〇・〇〇
大正四年	二九二・一八
大正五年	一九五・九二
大正六年	九〇一・五二
平均	五〇五・七三

以上ノ成績ニ依レハ當地方ニ於ケル番一反歩ニ要スル水量ハ大約六千石内外ナル
 事業成績概況

事業成績概況

ヲ知ル即チ左ノ如シ

蒸 發 量

二、八一〇・九六

滲 透 量

二、三三四・三二

整地挿秧ニ要スル水量

五〇五・七三

合 計

五、六五一・〇一

更ニ各年ノ有用雨量ヲ調査セルニ左ノ如シ

明治四十二年

二、一一五・五六

明治四十三年

一、五八二・二〇

明治四十四年

二、九〇四・〇四

大正元年

二、四九二・一八

大正二年

一、五七二・六二

大正三年

二、〇九八・六八

大正四年 二、一五二・九八
大正五年 二、八四・七〇
大正六年 二、三〇八・四九

平均 二、二二二・六八

依テ前記ノ全用水量ヨリ右ノ有用雨量ヲ差引クトキハ左表ノ如ク人爲灌水量ヲ得

有用雨量

二、二二二・八三

人爲灌水量

三、四二四・一八

合 計

五、六五一・〇一

之ヲ要スルニ上記數年間ノ成績ニ依レハ當地方ニ於テ當場需ノ如キ耕地ニアリテハ一反歩ノ人爲灌水量ハ約四千石内外ナリト認ムルヲ得ヘシ

(二) 旱害豫防

陸稻、陸稻ヲ栽培スルニ當リテハ旱魃ニ對スル抵抗力強キ品種ヲ選定スルノ要ア

事業成績概況

事業成績概況

八四

即チ當場ニテハ「アサヒ」チ「セキ」ニ「紅組」チ「イラシ」ト「早不知」信州早稻、金子、尾張稻、田窪稻ニ就キ耐旱力ヲ試ミタルニ其ノ最も強キハ金子ニシテ其ノ最も弱キハ紅組ナルカ如シ
亞麻ハ其ノ成育期間適當ノ雨濕アリ而カモ成熟期ニ當リ乾燥ナルチ要ス然ルニ當地方ノ氣候ハ初夏乾燥甚シキ爲メ其ノ成長ヲ妨クルモノアリ故ニ當場ハ其ノ季節ニ於テ適宜灌漑チナサハ多少ノ好結果ヲ收メ得ヘキニアラサルヤチ思考シ之ヲ試ミタルニ果シテ豫想ノ如ク亞麻作ニハ灌漑チ必要トシ殊ニ初夏ノ乾燥期ニ適宜灌漑スルモトハ缺クヘカラサルモノナルヲ認メタリ

(三) 浸水被害

水稻 水稻生育中何レノ時期ニ於ケル浸水ノ稻ニ及ボス被害最も劇甚ナルカチ知リテト欲シ六月十六日ニ挿秧セル石臼種ヲ用ヒ同二十三日ヨリ九月七日ニ至ル八十四日間ヲ二期ニ分テ各期トモ一晝夜浸ヨリ七晝夜浸ニ至ル七區ヲ設ケ其ノ被

害程度ヲ調査セルニ其ノ結果概要左ノ如シ

第一期(六月二十三日浸水) 一晝夜區ハ標準區ト大差ナク二晝夜區及三晝夜區ハ相似テ少シク劣リ四晝夜區被害頗ニ加ハハリ穂揃シク粒色稍劣リシモ子實ハ良ク成育セリ

第二期(六月三十日浸水) 一晝夜及二晝夜ノ兩區ハ第一期ノ二晝夜區ニ類似シ三晝夜區ヨリ穂揃不齊トナリ四晝夜區以下後レ穂ヲ増シ一穂僅カニ七八粒ノモノナ見ルニ至リシモ子實ハ可也ニ充實セリ

第三期(七月七日浸水) 一晝夜區ハ穂揃稍ナ良好ナルモ二晝夜區以下漸次不齊トナリ五晝夜區至リ粒色大ニ劣リ完全熟セザルモノ多ク七晝夜區ハ終ニ株消トナレリ

第四期(七月十四日浸水) 被害ノ状況殆ント第二期ニ類ス

第五期(七月二十一日浸水) 第四期ト大差ナク唯七晝夜區ノ成績大ニ劣レルハ排水時ノ天候不良ナリシニ由ルナラン

事業成績概況

八五

第六期(七月二十六日浸水) 一晝夜乃至三晝夜ノ三區ノ成績ハ第五期ト大差ナキ
 四晝夜區ニ至リ根ニ腐爛ヲ生シ然色不良トナリ五晝夜區以下總テ株消トナレリ
 第七期(八月四日浸水) 一晝夜乃至三晝夜ノ三區ヲ熱色ハ第五期ト大差ナキ四
 晝夜區ニ至リ根色頗ニ劣リ五晝夜區ハ過半株トナリ六晝夜區以下株消トナレリ
 第八期(八月十一日浸水) 被害ハ一晝夜區ヨリ現ハレ根甚ダ惡シク恰ハ第四期ノ
 七晝夜區ニ對稱ナルモノナリ二晝夜區ハ大半株トナリ三四晝夜區ハ後葉ノミニシ
 テ全體株トナリ五晝夜區以下總テ株消トナレリ
 第九期(八月十八日浸水) 一晝夜區ノミニシテ登熟セシモ根質白色ヲ呈シテ完熟
 テ缺キ二晝夜區以下全體殆ント株トナリ七晝夜區ハ株消トナレリ
 第十期(八月二十五日浸水) 一晝夜區ノ熱色ハ良好ナリシモ二晝夜區大ニ劣リ三
 晝夜區ハ第八期ノ一晝夜區ニ似テ四晝夜區以下全體殆ント株トナレリ
 第十一期(九月一日浸水) 被害最モ劇甚ニシテ一晝夜區以下全體殆ント株トナリ

完熟ヲ見ス六晝夜區ニ至リ株消トナレリ
 第十二期(九月八日浸水) 各區トモ確實ハ登熟セシモ浸水時間ノ長キニ從ヒ脱粒
 スルモノ多ク殊ニ米質漸次劣變セテ不透明トナリ大ニ稈性ヲ失ヘリ
 之ヲ要スルニ被害ハ儲孕期ト開花期トニ最モ強ク挿秧後三週間後即チ分蘗將ニ盛
 ナラントスル頃之ニ次キ移植當時稻苗ノ成育休止ノ時期ニ於テ輕キヲ認ム
 早水害ノ善後

(四)

水稻ハ早水害ノ爲メ晩シテ移植スル場合ニハ如何ナル苗ヲ用フルチ利トスルカヲ
 知ラシメ苗代苗、陸苗、分蘗苗ノ三種ヲ七月三日以後一週間毎ニ四回移植セシ
 ニ分株苗ハ挿秧ノ早晚ニヨリテ收量ニ影響ヲ及ボスコト少キモ苗代苗ハ挿秧ノ早
 晩ニヨリテ影響ヲ受クルコト甚ダシク陸苗ハ兩者ノ間ニアリ
 又別ニ普通ノ時期ニ一合播及五合播トナシタル苗與普通ノ時期ハ田ニ仕立テタル
 苗ヲ用井七月三日以後一週間宛後ラシテ四回ニ移植セルモノト同期ニ分株シタル
 モノトノ成績ヲ比較セルニ挿秧期ノ早晚ニ依リ收量ノ差少キハ分株區ニシテ田苗

事業成績概況

八八

區及播種區之ニ亞キ普通播種區ハ其ノ邊境ヲシキテ認ム然レトモ一分株區ハ勞力ヲ要スルコト多ク殊ニ分株期後ルルトキハ被分株區ニ損害ヲ與フルノ不利アリ又田苗區ハ稻熱病ノ被害烈シキ虞アルヲ以テ移植期遲延ノ善後トシテハ普通時期ニ播種トナシ區ケル苗ヲ用ニルヲ可トスルヲ認メタリ

第六 土壤ニ關スル事項

植物ハ一般ニ中性土壤ニ最も順調ナル發育ヲ遂クルモノニシテ農作物モ亦土壤肥料ノ綜合反應ノ中性ニ近キ場合ニアラザルハ良好ナル生育ヲ期スヘカラス而シテ土壤ノ反應ハ肥料ノ施用ノ順應スヘキ要件ナリトス

(一) 土性

朝鮮ニ於ケル各種土性ノ分布狀態左ノ如シ

道名	檢定點數	酸性土壤	中性土壤	各種ノ反應ヲ呈スル土壤ノ檢定土壤ニ對スル百分率
京畿道	二四	六五	三〇	六
道	二四	六五	三〇	六

事業成績概況

八九

忠清北道	五〇	一八	三三	三三	一四	五九
忠清南道	七〇	二二	一八	三三	一四	五九
全羅南道	一〇〇	六三	三三	四七	〇	四六
全羅北道	五三	四四	三三	四七	一	四六
慶尙北道	二五	六三	二二	四七	一	四六
慶尙南道	二二	六三	二二	四七	一	四六
黃海道	六五	五〇	二二	四七	一	四六
平安南道	七六	一八	三三	四七	一	四六
平安北道	五〇	二二	一八	三三	一	四六
江原道	六九	三六	二二	四七	一	四六
咸鏡南道	五三	二六	二二	四七	一	四六
咸鏡北道	三三	三三	二二	四七	一	四六

(二) 酸性土壌と作物との關係

作物中酸性土壌ニ對シ最も抵抗力強キモノハ稲類ニシテ水稻作ニ於テハ酸度ノ殊ニ強キカ域ハ石灰ニ缺乏セル土壌ノ外土壤酸性ノ矯正ヲナスノ要少ナシ麥類中大麥ハ最も抵抗力弱キカ域メ之ヲ栽培スルニ當リ酸性ノ中和ヲ行フヲ要シトス豆類ハ一般ニ酸性土壌ニ對スル抵抗力弱ク石灰質ノ鹽基性土壌ニ良ク繁茂ス故ニ豆科植物ノ栽培ニハ先ツ酸性ノ中和ヲ圖ラサルヘカカラス
蔬菜類ハ其ノ種類ニヨリ酸性土壌ニ對スル抵抗力ヲ異ニシ二十日大根及夏大根ハ稍々強ク小松菜菜菔之ニ亞キ芥子白菜菠薐草最も弱シ
(三) 酸性土壌ト肥料トノ關係
朝鮮ニ於ケル酸性土壌ハ一般ニ空素及有効磷酸ニ乏シク加里ニ豐富ナリ而シテ酸性土壌ニ施ス肥料ハ鹽基性肥料ヲ最も適當ナリトス
(四) 酸性土壌ノ改良

酸性土壌ニ於テ農耕ヲ營ミ作物ヲシテ十分ナル生育ヲサシムルニハ酸性ヲ矯正スルノ要アルヲ論ナシ前ニ述ヘタルカ如ク鹽基性肥料ヲ施ストキハ土壤ノ酸性ヲ矯正スルノ効アリ而シテ普通鹽性中和ノ目的ノ爲メニ用ヒラルルハ草木灰及石灰ニシテ其ノ用量ヲ算定シ(當務特別報告「酸性土壌ニ關スル研究」參照)整地ノ際地上ニ均一ニ撒布シ能ク土壤ト攪拌混合シタル後耕耘スヘシ然レトモ酸度強クシテ其ノ中和ニ多量ノ石灰ヲ必要トスル土壤ニ對シテハ算定石灰量ノ全部ヲ一同ニ加用スヘカラス之レ多量ノ石灰ハ作物ノ生育ヲ阻害スル事アルヲ以テナリ故ニ數年ニ亘リテ分施スルヲ可トス

第七 病害蟲ニ關スル事項

(一) 害蟲

當務ニ於ケル害蟲試驗調查成績ニ基ク經過ノ大要及其ノ防除法左ノ如シ

一、稻ノ害蟲

事業成績概況

せしめんが(背白浮塵子)年三回内外ノ發生ヲ覺ミ幼蟲ニテ越冬ス幼蟲ハ翌年五、六月頃出現シ成蟲トナリ産卵ス水原附近ニ於テハ八月上旬ニ多ク發生シ被害ヲ與フ其頃ハ恰モ穂孕期ニ際會スルヲ以テ被害著シ

さびいるんか(褐色浮塵子)年三回内外ノ發生ヲ覺ミ幼蟲ニテ越冬ス翌年潜伏所ヲ出テ本料植物ニ寄生シ主トシテ九月中下旬頃ニ大發生ヲナス損害頗ル大ナルコトアリ之等ノ防除法ハ

一、畜ニ水ヲ洒ヘ反當一升五合ノ石油ヲ滴下シ葉幕ノ類ニテ丁寧ニ油ヲ水ヲ稻株ニ滴キ掛ケ蟲ヲ拂ヒ落スヘシ

二、灌水缺乏ノ畜ハ九尺内外ノ距離ニ幅八寸乃至一尺深サ一寸五分乃至二寸ノ細溝ヲ設ケ之ニ水ヲ通ヘ溝ノ長サ十間ニ付キ石油一合五勺ノ割合ニ滴下シ油水ヲ稻株ニ灌水ニ滴キ蟲ヲ洗ヒ落スヘシ

三、水ナキ畜及陸稲田ニ於テハ抽穗期ヲ以テ捕殺スルカ若クハ受蟲器ニ少最ノ

石油ヲ容レ之ニ蟲ヲ拂ヒ落スヘシ

四、苗代ニ發生シタル場合ハ抽穗期ニテ拘探スルカ石油ヲ滴下シ捕殺期ニテ拘探スヘシ

わいが(二化螟)年二回ノ發生ヲ覺ミ冬期ハ幼蟲ニテ稻株及稻葉内ニ越冬シ翌春五月頃成蟲出現、苗代ニ飛來稻葉ノ中央葉稍若クハ葉表ニ産卵ス第一回ノ幼蟲ハ六月頃ニ第二回ノ幼蟲ハ九月頃ニ其被害夥シ白穂ト稱サルハ即チ該蟲ノ被害ナリ之カ防除法ハ

一、苗代時代ニ探卵捕殺ヲ行フヘシ

二、白穂ハ根際ヨリ拔キ採リ糞糞焼却スヘシ

三、收穫ノ際ハ可成低別ヲ行ヒ翌年越冬ノ發生前其葉ハ燃料ニ用フヘシ

四、稻株焼却ヲ行フヘシ但シ春來雨多キカ又ハ灌水ノ便アル畜ハ可成早ク耕耘

ヲ行ヒ稻株ヲ畜土中ニ踏ミ込ムヘシ

事業成績概況

害成産概況

九四

ふたたびこやが(稻稈)水原地方ニテハ年三回發生シ第一回ノ蛾ハ五月下旬苗代ニ第二回ノ蛾ハ七月上旬ニ第三回ノ蛾ハ九月頃出現ス特ニ苗代時代ニ著シク發生加害スルコトアリ幼蟲又ハ蛾ニテ越冬ス之カ防除ハ

一、捕蟲網ニテ稻葉ヲ拂ヒ幼蟲又ハ蛾ヲ捕殺スヘシ

二、寄生蜂ヲ保護スヘシ

いねぞうむし(稻象鼻)年一回發生幼蟲ニテ土中ニ越冬翌年六月上旬幼蟲ニ作リ蛹化後成蟲トナリ挿秧ヲ待テ稻ニ集リ稻莖ニ喰害産卵ス幼蟲ハ新根ヲ喰害シ成育ヲ妨グ之カ防除ハ

一、六月頃其幼蟲期ニ早ク灌水耕起ヲ行フヘシ

二、整地ノ際吹キ寄セ物ニ集マシタル成蟲ヲ採集シ殺スヘシ

いねむくひむし(稻根喰葉蟲)一年一回ノ發生ヲ嘗ニ幼蟲ハ寄中ニ越冬翌年ノ挿秧ヲ待テ出現シ稻ノ新根ヲ喰ヒ株元ニ集リ喰害ス成蟲ハ好シテ稲葉ノ葉ヲ害ス

幼除法ハ

一、水原附近ニアリテハ七月中旬頃稲葉ノ葉ニ産卵セラルル卵ヲ採集スヘシ

二、被害寄ニ可成早ク稻ヲ假植シ蟲ヲ集メ之ヲ捕キ跡地ニ木植ヲナスヘシ

二、粟ノ害蟲

あわもろが(粟夜盜蟲)水原地方ニ於テハ年一回ノ發生ヲナシ第一回ノ蛾ハ六月上旬ニ第二回ノ蛾ハ七月中下旬ニ出現シ葉鞘ニ産卵シ卵ハ四五日ヲ經テ孵化ス初メ淡綠色ナルモ二回脱皮後黒色ニ變ス専ラ夜間喰害スルノ性アリ主ニ粟、稗、燕麥、別黍等ニ大害ヲ與フ冬期ハ蛹期ノマダ地中又ハ刈草ノ間處埃ノ下等ニ越冬ス之カ防除法ハ

一、甲圍ヨリ乙圍ニ移動スルヲ以テ園場ノ周リニ幅五寸深サ一尺位ノ溝ヲ穿テ之ニ移動ノ幼蟲ヲ墜落セシメ早朝此ノ幼蟲ヲ壓殺スヘシ

二、被害園中處々ニ刈草藪若クハ古藪ノ類ヲ數キ蟲ヲ其下ニ集メテ捕殺スヘシ
害成産概況

九五

事業成績概況

九六

- 三、早朝葉上ニ吸食セル幼蟲ヲ殺蟲器(受蟲器)内ニ石油ヲ入レ之ヲ拂落シ殺ス
- 四、寄ニ發生シタル時ハ先ツ水ヲ洒ヘテ蟲ヲ水面ニ拂ヒ落シ手又ハ杓子狀ノ木片ヲ以テ水中ニ打テ沈メシ
- 五、「ムギカ」タビロニモシ「サ保護」スヘシ
- おはめいが(栗原縣)水原地方ニ於テハ年二三回發生ナリ營ミ幼蟲ノマメ栗原等ニ越冬シ翌年大栗原等ニ加害ス年ニ依リ大發生ナリ被害者シキコトアリ之ヲ防除法ハ
- 一、被害部ヲ摘採スルカ被害部ヲ根引キ焼却處分スルヲ可トス
- 二、蛾ノ發生期ニ被害部ヲ摘採ナ行フヘシ
- 三、被害部ハ翌年第一回蛾ノ發生期(五月頃)以前ニ適宜所選スヘシ
- ばくが(栗原縣)水原地方ニ於テハ年二三回發生幼蟲ノマメ麥粒内ニ越冬翌年ニ重リ若熟期化シ成蟲出現麥圃ニ飛來産卵ス幼蟲ハ主トシテ麥粒ニ加害スル時ニ觀ニ

産卵被害チ及ホスコトアリ年ニ依リ一大發生ナリ非常ナル損害ヲ與フルコト絶ナカラス之ヲ防除ハ

- 一、穀類ノ乾燥ヲ充分ニスヘシ
- 二、二硫化炭素燻蒸ヲ行フヘシ
- 三、種子ハ鹽水選ナ行ヒ被害粒ヲ除去スヘシ
- 三、蔬菜ノ害蟲

びろうど(がれ)天寶(金龜子)年一回ノ發生ナリ營ミ成蟲ノ出現ハ不規則ニシテ年中殆ント其ノ存在ヲ認メ得ルモ大體ニ於テ四月ヨリ六月下旬迄最も多ク現ハレ大麥畑草棉大麻蕎麥甜菜及桑ノ新葉ヲ蝕害シ七月頃ハ土中ニ入り産卵ス幼蟲ハ一般農作物ノ根部及腐植質ヲ食シ秋末ニ至リ三分餘トナリ地下一尺五寸位ノ處ニ下リ越冬シ翌春解氷ト共ニ地表ニ出テ蝕害ヲ始メ之ヲ防除ハ

- 一、被害作物ノ下ニ箕ノ類ヲ置き蟲ヲ拂ヒ落シテ捕殺スヘシ

事業成績概況

九七

二、雜草ヲ刈集メ被害箇ニ點々配置シ日中之ニ集マル成蟲ヲ捕殺スヘシ
かぶらばち(無蜂)年二回ノ發生ヲ營ミ幼蟲態ニテ越冬第一回ハ五月上旬頃ヨリ羽
化シ葉縁ノ組織中ニ産卵ス幼蟲ハ葉ヲ嚙食シ六月中旬頃ヨリ漸次土中ニ入り結繭シ
八月下旬第二回ノ蜂出現ハ第一回ト同様ノ經過ヲ繰リ返シ九月上旬ニ至リ次第ニ土
中ニ入ル之ヲ防除ハ

一、受蟲器ニ幼蟲ヲ拂落シ捕殺スヘシ

二、除蟲菊石鹼液又ハ除蟲菊加用石油乳劑ヲ撒布スヘシ

もんしろてふ(紋白蝶)水原地方ニテハ年三回以上ノ發生ヲ營ミ蛹態ニテ越冬シ第
一回ノ繭ハ五月上旬頃出現第二回ノ繭ハ七月頃第三回ノ繭ハ八月九月頃現ハレ葉間葉
間ニ飛來シ數日ニ亘リ産卵ス幼蟲ハ十字科植物ノ葉ヲ嚙食ス時ニ著シキ被害ヲナス
コトアリ之ヲ防除法ハ

一、成蟲ヲ捕蟲網ニテ捕殺スヘシ

二、幼蟲ヲ捕殺スルカ除蟲菊石鹼液ヲ撒布スルカ除蟲菊木灰混合劑ヲ撒布スヘシ

三、寄生蜂及寄生蠅ヲ保護スヘシ

ねぼにじゅうやほし(大二十八星瓢蟲)年二回ノ發生ヲナシ成蟲ニテ越冬ス蟲ハ早
春ヨリ現レ嚙草シテ六月下旬頃葉裏ニ産卵ス約二週日ニシテ孵化シ現ハル幼蟲ハ葉
下ニアリテ葉縁層ヲ食シ蛹化シ八月ニ至リ成蟲トナリ被害ヲナス幼蟲ハ好ミテ馬鈴
薯茄子等ノ葉ヲ嚙食ス之ヲ防除法ハ

一、受蟲器ヲ以テ成蟲ヲ早期捕殺スヘシ

二、除蟲菊石鹼液ヲ撒布シ幼蟲ヲ捕殺スヘシ

三、成蟲幼蟲ニ對シテハ札幌合劑ヲ應用スヘシ

うりばい(瓜守)年二回ノ發生ヲ營ミ成蟲態ニテ越冬ス成蟲ハ四月下旬ヨリ五月頃
出現シ加害シツツ六月ヨリ七月初旬ニ亘リ瓜園ニアリテ根際ニ産卵幼蟲ハ主トシテ

事業成績概況

瓜ノ根部分喰害シ成蟲ハ瓜葉及瓜類ヲ加害ス之ガ防除ハ

一、成蟲ヲ捕虫網ニテ捕殺スベシ

二、札幌合劑ヲ撒布スベシ

三、根際ニ新聞紙ヲ擴ケ産卵ヲ防止スベシ

よたうが(夜盜蟲)年二回ノ發生ヲ終ミ冬期ハ蛹蟲ニテ土中ニ越冬第一回ノ蛾ハ五月中下旬第二回ノ蛾ハ八九月頃出現産卵ス幼蟲ハ蘿蔔胡蘿蔔煙草豌豆大麻蔬菜類特用作物等一般作物ニ被害ヲ及ス時ニ一大發生ヲナシ大害ヲ與フルコトアリ之ガ防除ハ

一、被害園ノ周邊ニ明溝ヲ設ケ之ニ墜落セシメ幼蟲ヲ捕殺スベシ

二、藥劑ヲ撒布スルコトノ可能ナル場合ハ除虫菊加用ノ接觸劑ヲ應用スベシ

三、糖蜜ヲ以テ成蟲ヲ誘殺スベシ

四、秋耕ヲ行ヒ越冬ノ蛹ヲ寒氣ニ曝露スベシ

四、大小豆ノ害虫

くろまめ(はんめう)黒豆上停長(年一回ノ發生幼蟲蟲ニテ土中ニ越冬シ成蟲ハ五月下旬ノ突出現土中ニ産卵スルモノナリ成蟲ハ葉ヲ害シ幼蟲ハ土中ニ於テ新根ヲ喰害ス之ガ防除ハ

一、早朝成蟲ノ活動鈍キ時ニ捕蟲網又ハ受蟲器等ニテ拘探ルベシ

二、秋耕ニヨリ土中ノ幼蟲ヲ寒氣ニ曝露スベシ

うこんめいが(豆葉捲蟲)年二三回ノ發生ヲ終ミ老熟セル幼蟲蟲ニテ越冬翌年蛹化シ成蟲トナリ葉ニ産卵ス幼蟲ハ葉ヲ捲キ加害ス年ニヨリ大發生シテ大害ヲ加フ(大抵八月ノ交被害最も多キモノナリ)之ガ防除ハ

一、被害葉ヲ摘採スベシ

二、成蟲ヲ捕蟲網ニテ拘取ルベシ

まめぞう(豆葉)普通年二回ノ發生ヲナシ幼蟲蟲ニテ豆粒中ニ越冬翌年第一回五

事業成績概況

事業成績概況

1011

六月頃第二回九月頃成蟲出現シ第一回ハ圃上ニ第二回ハ貯蔵中ノ積實ニ産卵ス幼蟲ハ豆粒ヲ喰害ス之ヲ防除ハ

一、二酸化炭素燻蒸ヲ行フベシ

二、乾燥ヲ充分ニスベシ

三、比重攪ニヨリ健粒ト被害粒ヲ區分シ被害粒ハ適宜之ヲ處理スベシ
五果樹ノ害蟲

りんごのたむし(綿蟲)年十數回ノ發生ヲ營ミ幼蟲盛ニテ越冬翌年四月頃ヨリ幼蟲ハ活動ヲ始メ無翅ノ成蟲トナリ盛ニ單性生殖ヲナシ胎生繁殖ヲ營ム秋期迄ハ十數回ノ繁殖ヲ繰リ返シ九月下旬ニ至リ有翅ノ成蟲出テ各地ニ蔓延繁殖スルモノナリコノ成蟲ハ胎子ヲ産ミ胎子ハ約二週目ヲ經テ無翅ノ成蟲トナリ更ニ胎子ヲ産ミソノ幼蟲ハ越冬ス綿蟲ノ繁殖盛ナレハ樹ハ衰弱枝梢ハ瘤狀ヲ呈シ遂ニ枯死スルニ至ル之ガ防除法ハ

一、發芽前青酸瓦斯燻蒸ヲ行フベシ

二、被害部ニ石油乳劑松脂合劑藥劑油磺黃合劑除蟲菊アルコールエキスを塗抹スベシ

三、被害甚シキ樹ハ之ヲ掘リ取り焼却スルカ或ハ其枝ヲ剪取焼却スベシ

四、根腐被害ノ場合ハ掘リ取り焼却シ其跡ニ蘋果樹ヲ栽植スヘカラス

なしまるかひから(さん)のぜい介殼)發生後メテ不規則ニシテ胎生繁殖ヲ營ミ冬期ハ幼蟲又ハ成蟲(雌)ニテ越冬第一回ノ成蟲ハ五月第二回ハ七月第三回ハ九月頃

ニシテ幼蟲成蟲共ニ枝梢ニ寄生シ赤斑ヲ生シ樹ハ衰弱シ遂ニ枯死スルニ至ル尙賴面

ニ寄生スルハ赤紫色ニ變シ多少凸凹ヲ生ス

くはかひから(さくら介殼)年三回ノ發生ヲナシ受胎セル雌蟲ノママ越冬第一回

ハ翌年四月頃第二回ハ七月第三回ハ九月ニ産卵ス幼蟲ハ枝幹ニ寄生シ樹液ヲ吸取衰弱

セシメ繁殖盛ナレハ遂ニ枯死スルニ至ル防除ハ

事業成績概況

1011

事業成績概況

一〇四

- 一、發芽前石灰硫黄合劑がーメー比重四度半液ヲ撒布スヘシ
 - 二、發生期ニ石灰硫黄合劑がーメー比重〇八度液ヲ撒布スヘシ
 - 三、青酸瓦斯燻蒸ヲ行フヘシ
- りんごひめたまむし(蘋果蠹蛾)一年一回ノ發生ヲナシ成蟲ハ六月中下旬ニ出現シ枝梢ニ産卵ス約二週日ニシテ孵化シタル幼蟲ハ枝梢内ニアリテ喰害シツテ越冬スルモノナリ該蟲ハ樹皮ト木質ノ中間部ヲ喰害スルヲ以テ其害著シク枯死スルモノ多ナカラス之カ防除ハ
- 一、常ニ園ヲ巡視シ成蟲ヲ捕殺シ被害部ヲ見付ケ鋭利ナル小刀ヲ以テ削リ内部ノ幼蟲ヲ捕殺スヘシ
 - 二、被害甚シキ枝梢ハ發芽前剪除焼却スヘシ
- りんごばち(蘋果葉蜂)年三回ノ發生ニシテ幼蟲ニテ葉中ニ越冬ス第一回ノ成蟲ハ五月上旬第二回ハ六月下旬第三回ハ七八月上旬頃發生シ葉肉内ニ産卵シ幼蟲ハ

葉ヲ喰害ス發生盛ナレハ葉ヲ皆無ナラシメ成育ヲ妨ク之カ防除ハ

- 一、除蟲菊石鹼液ヲ撒布スヘシ
 - 二、札幌合劑ヲ撒布スヘシ
 - 三、探爾チ行フヘシ
- てふせんくろこがね(朝鮮金龜子)一年一回ノ發生ヲナシ幼蟲ニテ地下一尺五六寸ノ所ニ越冬ス成蟲ハ七八月ノ頃盛ニ現ハレ果樹園及桑園ニ飛來シ葉ヲ喰食シ其被害頗ル大ナリ交尾後ハ地中ニ産卵シ幼蟲ハ土中ニ於テ一般農作物ノ根部ヲ侵害ス之カ防除ハ
- 一、夜間成蟲ノ飛來スルヲ見計ヒ適宜ノ受蟲器ニ拂落スル捕蟲網ニテ拘ヒ探ルヘシ
 - 二、蔬菜類及苗圃ニ於ケル幼蟲ハ被害株ヲ掘リ捕殺スヘシ
 - 三、札幌合劑ノ如キ毒劑ヲ撒布スヘシ

事業成績概況

一〇五

事業成績概況

一〇六

なしひめしんくひが(梨癭心喰蟲)水原地方ニ於テハ年三回ノ發生ヲナシ幼蟲ニテ越冬ス第一回ノ蛾ハ五月第二回ハ七月第三回ハ八月頃現ハル第一回ノ幼蟲ハ桃ノ新梢ニ第二回及第三回ハ桃ノ新梢及梨、蘋果、桃ノ果實ニ喰入シ大害ヲ與フ
なしほしんくひが(梨大心喰蟲)水原地方ニ於テハ年二回ノ發生ヲナシ幼蟲ニテ花芽中ニ越冬ス翌年四月頃ヨリ幼蟲活動ヲ始メ六月下旬第一回羽化シ第二回ハ八月成蟲現ハレ蛾ハ額面及芽側ニ産卵シ幼蟲ハ果實ヲ害スルモ越冬ノモノハ花芽ヲ害ス今左ニ防除法ヲ記セハ
一、果實ニ覆袋ヲ行フヘシ
二、蟲ノ寄生ニヨル落果ハ速カニ處分スヘシ
三、札幌合類ヲ撒布スヘシ
なしこぶが(梨癭蛾)年一回ノ發生ヲ替ミ蛹ニテ越冬シ翌春四月頃成蟲出現シ新梢ニ産卵シ幼蟲ハ木質部ヲ喰害シ枝梢ハ膨大シテ瘤狀ヲ呈スルニ至ル之カ防除ハ

一、冬期剪定ノ際樹ナ剪除シ之ヲ焼却スヘシ
二、主枝用ノ新梢ハ被害輕微ナレハ針金ヲ懸穴ニ通シ幼蟲ヲ刺殺スヘシ
なしほむぐりぞむし(梨花蕾果蟲)年一回ノ發生ヲナシ四月ノ頃成蟲活動ヲ始メ花蕾ニ産卵シ幼蟲ハ花蕾ヲ喰害シ老熟シ蛹トナリ續テ六月ニ羽化シ新葉ヲ害シツ秋期ニ到リ越冬ス之カ防除ハ
一、落葉ヲ蒐集焼却スヘシ
二、被害花蕾ヲ摘採焼却スヘシ
りんごはむぐりが(蘋果葉潜蟲)水原地方ニ於ケル發生ハ年六回ニシテ成蟲ハ五月頃出現シ産卵ヲ始メ六月十一月上旬頃マデニ六回ノ世代ヲ替ミ成蟲又ハ幼蟲ニテ越冬ス幼蟲ハ葉肉内ニ潜リ葉枯ヲ生レ一見病害ノ感アラシム之カ防除ハ
一、落葉ヲ蒐集焼却スヘシ
二、被害葉ハ摘採スヘシ
事業成績概況

一〇七

事業成績概況

一〇八

なしだんはむし(梨四段葉蟲)年一回ノ發生ニシテ成蟲ニテ越冬ス成蟲ハ四月
中旬頃活動ヲ始メ交尾産卵ス幼蟲ハ盛ニ葉ヲ喰害シ六月頃ニ羽化ス之カ防除法ハ

一、成蟲出現ノ際捕殺スルカ、卵塊ヲ採集スヘシ

二、幼蟲ニハ除蟲菊石鹼液又ハ毒劑類ヲ撒布スヘシ

ぶどうはまきぞうむし(葡萄葉捲葉蟲)水原地方ニテハ年一回ノ發生ヲ營ミ成蟲ハ
五月頃出現シ産卵シツツ葉ヲ捲キ葉柄ヲ噛ミ切ル幼蟲ハ捲葉中ニアリテ喰害シ落葉
ト共ニ地下ニ入ル八月中旬頃成蟲現ハレ葉ヲ喰害シ其ママ越冬ス之カ防除ハ

一、早朝成蟲越冬ノ間ニ受蟲器ニ拂ヒ込ムベシ

二、被害葉ヲ摘採スルカ毒劑類ヲ撒布スヘシ

なしちよつきぞうむし(梨葉蟲)年一回ノ發生ヲ營ミ幼蟲ニテ土中ニ越冬ス
成蟲ハ六月上旬頃出現シ梨、桃果ニ一粒宛産卵シ幼蟲ハ果肉ヲ食シ落果ト共ニ
土中ニ入ル之カ防除ハ

一、産卵前果實ニ覆被ヲ行フヘシ

二、落果ハ速ニ蒐集焼却スヘシ

三、毒劑ヲ撒布スヘシ

なしなびはむし(梨帶葉蜂)年一回ノ發生ヲ營ミ成蟲ハ四月下旬出現シ新梢ニ産卵
ス幼蟲ハ新梢内ヲ食ビ下リ其ノ新梢中ニ越冬ス之カ防除ハ

一、冬期剪定ノ際被害枝梢ヲ剪除焼却スヘシ

二、四月下旬ヨリ五月上旬ニ亘リ被害新梢ヲ摘採焼却スヘシ

くろしたあむし(黒下青刺蟲)年一回ノ發生ヲ營ミ幼蟲ニテ樹中ニ越冬ス成
蟲ハ翌年第一回ハ五月下旬第二回ハ八月ノ頃出現葉ニ産卵幼蟲ハ葉ヲ喰害シ年ニ依
リ發生著シク大害ヲナス今左ニ防除ヲ示セハ

一、冬期樹ヲ採集焼却スヘシ

二、除蟲菊石鹼液石油乳劑又ハ毒劑類ヲ撒布スヘシ

事業成績概況

一〇九

事業成績概況

りんごが(華果小蛾)水原地方ニ於テハ年三回ノ發生ヲナシ蛹期ニテ越冬ス成蟲ハ五月頃出現産卵シ幼蟲ハ葉ヲ喰害シ網狀ヲ呈セシメ落葉甚シケレハ枯色ヲ呈スルニ至ワシム第一回ノ被害ハ五月第二回ハ六月下旬第三回ハ八月下旬乃至九月ナリ之カ防除ハ

一、落葉ヲ蒐集焼却スヘシ

二、除蟲菊石鹼液及毒劑ヲ應用スヘシ

ももあぶらむし(桃野蠹) 水原地方ニ於テハ年數回ノ發生ヲ營ミ卵期ニテ越冬シ四月ノ頃孵化シ幼蟲トナリ單性生殖ヲ營ミ落葉シ桃葉ノ裏面ニ寄生シ膜質物白粉ヲ分泌シ葉液ヲ吸收スルモノニシテ被害葉ハ萎凋黄枯スルニ至ル五月下旬桃李ヲ除去シ他植物ニ移リ十月上旬再び桃李ニ復ル時期以前ノ成蟲ハ蟻ヲ雌性ニシテ單性生殖ヲナス十月中旬閉性トナリ産卵ス今之カ防除ヲ記セハ

一、背散瓦斯爾蓋ヲ行フヘシ

二、除蟲菊石鹼液ヲ撒布スヘシ

殺蟲劑

本州ヲ別テ接觸劑、毒劑及燻蒸劑ノ三種トナス

一、接觸劑

一、石油 本劑ハ各種驅除劑中最モ得易ク且有効ナルモノナリト雖モ之カ時期ヲ失シ又其方法ヲ誤ル時ハ作物ヲ枯死セシムルノ患ニ陥ルカ故ニ注意セサルヘカラス殊ニ浮塵子甲蟲ノ驅除ニ單用シ或ハ又他ノ驅除劑調製用ニ使用セラル

二、石油乳劑 本劑ヲ調製スルニ當リ危險ヲ免ルカ爲メ湯煎法ニヨリ加熱スルヲ安全トス外槽ハ高サ一尺二寸上徑二尺一寸底徑七寸内槽ハ高サ八寸上徑七寸八分底徑五寸外底部ニ高サ一寸以内ノ三脚ヲ付シ上部ニ紐ヲ著ケ蓋覆ヲ施スヘシ斯クテ二個ノ器ニ外槽ニ石油(十二匁乃至十五匁)及水(五合)ヲ入レ内槽ニ石油(壹升)ヲ入レ炭火上ニテ加熱シ石油ノ全部溶解半透明ニ達スル時ハ石油ヲ既ニ攪氏七十度

事業成績概況

事業成績概況

一一二

以上ニ上昇シ恰乳劑製造ノ適温ニ會スヘシ此ノ時火ヲ去リ内槽中ノ石油ヲ外槽中ニ注キ手早ク竹鐵砲又ハ噴霧器ノ類ニテ液ヲ吸入射出セシメ攪拌スルコト約數分間ニシテ粘液ヲ生ス之ヲ原液ト稱ス

三、除蟲菊加用石油乳劑 本劑ハ石油一升石鹼十二匁乃至十五匁水五合除蟲菊二十匁ノ割合ヲ以テ調製ス石油ノ定量ニ除蟲菊粉ノ一定量ヲ投シ二晝夜間密閉シ一日五六回攪拌攪拌スレハ更ニ良シヨノ石油ヲ除蟲菊浸出石油ト稱シ之ヲ用イテ石油乳劑ト同様ニ調製ス

四、除蟲菊石鹼液 除蟲菊二匁石鹼二匁水一升ノ割合ニテ製ス即チ石鹼ヲ薄ク削リタルモノヲ水ニ投シ炭火上ニテ溶解シ充分透明トナリタル程度トシ火ヲ去リ冷却セシメ粘氣ヲ生セルヲ待チ除蟲菊粉ヲ加ヘ之ヲ攪拌スルモノトス

五、除蟲菊アルコールエキス アルコール一合ニ水一合ヲ加ヘ之ニ除蟲菊粉二十匁ヲ投シ二晝夜間密閉攪拌シ後之ヲ濾過シ出來上リタルモノヲ原液ト云ヒ若蟲ノ類

類ニヨリ稀釋シ使用スルモノナリ

六、石灰硫黃合劑 調製法ニ就キテハ一三六及一三七頁ヲ參照セヨ

七、除蟲菊木灰合劑 除蟲菊二十匁木灰一升ヲ混和シ二晝夜間密閉後使用スヘシ

二 毒 劑

一、巴里綠劑 本劑ハ粉劑ニシテ普通販賣品トシテ市場ニアリ

本劑ハ石灰又ハカルドヲ液ニ混シ使用ス

二、札幌合劑 本劑ハ亞硫酸、洗滌曹達(炭酸曹達)硫酸銅、生石灰及水ヨリ製ス、先ツ鐵鍋ニ水二升ヲ入レ之ニ四份ノ洗滌曹達ヲ加ヘ炭火ニテ加熱スレハ洗滌曹達ハ容易ニ溶解ス、曹達ノ溶解スルヲ待テ之ニ一傍ノ亞硫酸ヲ徐々ニ加ヘ攪拌スレハ暫時ニシテ亞硫酸ハ液中ニ溶解シ洗滌曹達ト化合シテ亞硫酸曹達ヲ形成ス此ノ時液ハ黃色ヲ帶ヒ恰如清酒ノ如キ觀ヲ呈スルニ至ル(但シ炭酸曹達ノ不純ナルモノ程沈澱多ク色亦濁ル)之即チ亞硫酸曹達ノ水中ニ溶解シタルモノナリ、此ノ

事業成績概況

一一三

事業成績概況

一一四

亞硫酸鹽液三斗ヲボルドウ液(三斗式)一斗ニ加フルハボルドウ液中含銅中ノ水酸化銅ノ一部ハ亞硫酸鹽ト化合シテ亞硫酸銅ヲ生シ尙多量ノ水酸化銅ハ其液中ニ存在ス(但シ右亞硫酸銅ハ場合ニヨリ還元スルコトアリ)コレ即チ所要ノ札幌合劑ナリ

三 燻蒸劑

一、青酸瓦斯燻蒸 燻蒸法ヲ別チテ室内燻蒸及野外ニ於ケル天幕燻蒸ノ二トナス室内燻蒸トハ一定ノ容積ヲ測定セル燻蒸室ニ於テ主トシテ苗木類ヲ燻蒸シ野外ニ於ケル立樹ニ天幕(布製又ハ紙製天幕)ヲ覆ヒ内容積ヲ測定シ其ノ藥量ヲ冬期發芽前ニアリテハ普通一千立方尺ニ對シ青酸加里二百五十瓦硫酸二百五十(cc)水七百五十瓦(cc)ヲ用ヒ燻蒸時間四十五分乃至一時間トス夏期即チ發芽後ノ燻蒸ハ一千立方尺ニ對シ青酸加里百瓦乃至百五十瓦硫酸百(cc)乃至百五十(cc)水三百(cc)乃至四百五十(cc)ヲ用ヒ十分乃至二十分間燻蒸スルモノトス

燻蒸上ノ注意

- 一、燻蒸ハ可成無風ノ日ヲ選ミ同時ニ雨露ノ乾キタル後ニ施行スヘシ若シ晴天ニアリテハ日覆(主トシテ夏季燻蒸ノ場合)ヲ使用スルヲ可トス
 - 一、青酸加里及其瓦斯ハ有毒ナレハ嚴重ニ取扱ヒ風下ニ接近セサルヲ可トス
 - 一、硫酸ト水トノ配合ハ水中ニ硫酸ヲ注加スヘシ
 - 一、瓦斯ハ劇毒性ナレハ開放ノ場合風下ニ立入ルヘカラス
 - 二、二硫化炭素 本劑ハ硫黃ト炭素トノ化合物ニシテ常溫ニハ良ク揮發シ瓦斯トナリ濕氣ヲ發ス普通坊間ニ販賣ス貯藏害蟲驅除ニ使用ス内容積一千立方尺ニ對シ三斗度乃至四斗度ヲ用ヒ密閉シテ二晝夜内外放置スルモノトス瓦斯ハ重キ故ニ上層ニ淺キ皿ニ入レ各所ニ配置スルモノトス
- 注意 瓦斯ハ爆發性ヲ有スルヲ以テ火氣ニ近クサルコト又人畜ノ接近ヲ避クヘシ

四 噴霧器及天幕販賣所並ニ價格
事業成績概況

一一五

事業成績概況

一一六

名	種	個	数	價	格	販	賣	所
鈴木式改良噴霧器	一	臺	二十六	圓		大坂市西區本町二番町	鈴木製作所	
鈴木式噴霧器	一	臺	二十六	圓		同		
牛田式噴霧器	一	臺	十八	圓五十錢		東京市芝區白金三光町	牛田工場	
牛田式自在噴霧器	一	臺	十七	圓七十錢		同		
紙製天幕	一〇〇〇	立方尺	五十五	圓		静岡市江川町	日本農具株式會社	
同	同	同	同	同		島取縣吉野町	渡邊商店	
布製天幕	同	同	同	同		岡山縣岡山市久山町三	小松原長三郎	

(二) 病害

朝鮮ニ於ケル病害ハ種々アリト雖モ重要作物ニ就キ當場ニテ調査セル病害ノ主ナ

ルモノ左ノ如シ
●●●●●
稻ノ病害

稻熱病 朝鮮ニ於ケル稻熱病ハ諸種ノ事情ニヨリ其ノ被害ノ程度ヲ異ニス當場ノ調査セルモノ二三ヲ舉グレバ左ノ如シ

- 一、雨季早ク來レル年ハ其ノ晩ク來ル時ヨリモ被害大ナリ
- 二、過沃番及冷温番ハ被害大ナリ
- 三、播種期ノ後レタル苗ヲ移植セル場合ニハ其被害大ナリ
- 四、厚播苗ヲ晩ク移植シタル場合ニハ其ノ被害大ナリ
- 五、陸苗代苗ヲ移植シタルモノハ被害多シ
- 六、移植セルモノハ直播ヨリモ被害大ナリ
- 七、稻ノ品種ニヨリ被害ニ輕重アリ
- 八、未熟肥料ヲ施ス時ハ被害大ナリ

事業成績概況

一一七

事業成績概況

一一八

要スルニ連葉ノ組織ヲシテ軟弱ナラシムルハ本病發生ノ原因ナラスモトス
稻熟期ニ侵サレタル稻株ハ分蘗多ク莖葉濃緑色ヲ呈シ豫メコレヲ知り得ベキヲ以テ
露雨連續ノ場合ニハ假令病斑ヲ生ズルニ至ラザルモ發病豫防ノため出來過ノ處ハ稻
株サ地上二寸位ノ所ヨリ拔除シテ再播ノ所出サ促スヲ可トス拔除ノ時期早キ時ハ其
ノ收量ハ健全ニ生育スル稻ト大差ナキヲ得ベシ拔除期後ル、ニ從ヒ成熟後レ又病勢
進ムニ從ヒ萌蘗力減退スルモノナレバ發病ノ虞アル場合ニハ早ク拔除ヲ行フヲ得
トス

小麥ノ病害

小麥胡蝶病 小麥ノ穀粒ニ發生ス病害ニシテ「チレニカス、スカンデンス」ト名ツク
ル線蟲ノ寄生ニ原因ス其ノ被害粒ハ形小サク暗褐色ニシテ外皮厚ク内部ニ白色綿毛
狀ノ結塊アリ是レ此ノ線蟲ノ集團ニシテ無數ノ幼蟲ノ蟄息スルモノナリ今本病原蟲
ノ特性及經過ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、病粒ハ健粒ト共ニ播下セラル土中水分ニ透テ軟化膨大シ外皮破レテ内部ヨリ
無數ノ幼蟲ヲ出シ雨水媒介ニヨリ附近ニ散逸ス

二、線蟲ハ一穗中ノ各粒ヲ侵スアリ或ハ其ノ一部ヲ侵スコトアリ若シ一部ヲ害ス
ル場合ニハ無害粒ハ大抵穂先ニ存スルモノトス

三、成蟲ハ産卵ヲ終リテ死シ卵ハ次第ニ成熟シテ内容ハ胎子トナリ卵膜ヲ破リテ
出テ幼蟲ニシテ蟄息ス

四、被害粒中ニ有スル成蟲ノ數ハ大抵十四以内ニシテ雌雄ノ割合ハ一定セズ雌蟲
ノ多キモノハ産卵スルコト多ク隨テ千房ノ組織ヲ刺戟スルコト強キヲ以テ粒形

大ナル被害トス

白髮病 本病ハ粟作上其ノ害最モ甚シキ病害ニシテ葉片及葉鞘ヲ侵ス時ハ葉脈ノミ
ヲ殘留シテ白髮狀ヲナシメ穂ヲ侵ストキハ千實ヲ變シテ「さくら」狀ヲ呈セシム而

事業成績概況

一一九

事業成績概況

一一〇

シテ本病發生ノ初期ニアリテハ葉片ニ白色ノ粉狀物質ヲ生スルヲ常トス本病ヲ豫防
スルニハ抽穗後病穗ヲ抜キトリ種子ハ健全ナル穗ヨリ採取シ一・〇六ノ比重ヲ有ス
ル鹽水ニテ水選シ播種ニ先チ一反歩當リ二十貫ノ石灰ノ石灰乳トナシ圃場ニ施川シ
播種期ハ適期ヲ失セサル様注意スヘシ
●●●●●
人參ノ病害 人參ノ病害中其ノ被害ノ甚シキモノハ赤腐病、葉燒病及菌核病トス
赤腐病 本病ハ根部ニ發生シ初メ黃褐色ヲ呈スルモ病勢進ムニ從ヒ全ク根ヲ腐敗消
失セシムルニ至ル本病ヲ豫防スルニハ藥圃チ「フオルマリン」百倍液ニテ消毒シテ後
播種スヘク一タビ發病セルモノハ春期其ノ根ヲ二時間二斗式ホルドワ液ニ浸漬シタ
ル後栽植スヘシ
葉燒病 本病ハ六七月ヨリ葉片ニ發生シテ褐色ノ斑點ヲ生スルモノニシテ病勢進メ
ハ被害部ハ裂孔シ落葉スルニ至ル本病ヲ豫防スルニハ日覆ヲ厚クシテ前垂ヲ施シ且
ツ發病前後二回三斗五升式ホルドワ液ヲ撒布スルヲ可トス

菌核病 本病ハ四五月ノ候根部ニ發病シ軟化腐敗セシムルモノニシテ病勢ノ末期ニ
至レハ被害部ニ濃黑色ノ菌核樣物質ヲ生スコレ菌核ナリ本病發生セハ被害根ヲ除去
シ其ノ跡地ハ客土スルヲ要ス
●●●●●
陸地棉ノ病害 米國ノ調査ニヨルニ陸地棉ノ病害蟲被害多大ナルモノハ十二種ニ達
ス當場ノ調査ニヨレハ朝鮮ニ於ケル陸地棉ノ病害ハ其ノ種類米國ノ如ク多カラズ今
日迄ニ其ノ發生ヲ認メタル病害ノ主ナルモノハ炭疽病、葉燒病、角點病、黑斑病、赤斑
病ノ類ニシテ炭疽病及角點病ハ各地共ニ其ノ被害著シク多年其ノ被害ノ寒心スヘキ
モノアルハ炭疽病ニシテ左ニ是等ノ病害ニツキ特徴及防除法ヲ示サン
炭疽病 本病ハ子葉葉莖葉葉柄實及綿絮ニ發生スルモノニシテ子葉ニ發生スレハ初
ハ暗褐色ノ斑點ヲナスモ次第大シ遂ニ病斑乾枯シ裂孔ヲ生シ天候濕潤ナレハ被
害子葉ハ枯死シテ落下ス葉莖ニ發生スル時ハ暗黑色ノ病斑ヲ生シ病勢進ムニ從ヒ病斑
凹入シテ莖ヲ圍繞シ或ハ條斑ヲ呈シ葉ハ黃變シテ枯凋ス綿絮ニ發生スル時ハ初ハ黒

事業成績概況

一一一

事業成績概況

1111

色又ハ紫色ノ小斑ヲ生スルモ病勢ノ進ニ從ヒ中央部ハ濕性ヲ呈シ外縁ハ紫色ヲナシ
菌球ノ過中ヲ蔽フニ至ル菌球ニ於ケル木柄ハ終ニ種實及種葉ヲ侵スニ至ル種實本
病ニ罹ルトキハ根性ヲ失ヒ纖維短ク細胞膜薄ク皺曲性乏シキニ至ル本病病原ハ土壤
中ニアリテハ數箇月間生活力ヲ有スルノミナルヲ以テ連作ノ場合ニハ被害地ハ秋耕
シテ土壤ヲ反轉スルヲ必要トス同一ノ土地ニ隔年ニ隣地種ヲ栽培キハ其ノ被害少
シトス而シテ本病ハ種子ニ依リテ傳播スルヲ以テ他圃ヨリ採種シ且採種中ニハ被
害種子ニ接觸セシメサルヲ要ス病源ニ感染セシ疑アル種子ハ消毒チ行ヒタル後播種
スヘシ消毒ノ方法トシテハ温水溫湯浸第一ト冷水溫湯浸法之ニ次ク温水溫湯浸
トハ種子ヲ攝氏二十度内外ノ温水ニ七時間浸漬シ後溫湯(攝氏五十五度)ニ十分間
浸漬スルヲ旨ヒ冷水溫湯浸トハ攝氏十度内外ノ水ニ七時間浸漬シ後溫湯(同上)ニ
十分間浸漬スルヲ云フ撒布用藥劑トシテハ石灰硫黃合劑最モ實用ニ適ス
棉ノ角點病 本病ハ一種ノ細菌ノ寄生ニヨリテ棉ノ子葉時代ヨリ發生シ子葉、幼莖

葉柄、莖及蕾ヲ侵ス、被害葉ニハ水浸狀ノ斑點ヲ生シ葉脈ニヨリテ限界セラレテ多
角形ヲナシ或ハ葉脈ニ沿フテ發生シ後赤褐色又ハ黒褐色ニ變ス蕾ニモ亦水浸狀ノ圓
形斑點ヲ生ス

豫防法

- 一、種子ハ無害地ヨリ採集スヘシ
- 二、病害ノ發アル種子ハ消毒ジタルモノヲ用ヒ消毒ニハ次ノ方法ヲ用フヘシ
 - イ、溫湯浸 攝氏六十度乃至六十五度十分間
 - ロ、藥液 濃硫酸ニ十分乃至二十分間浸シ棉絮ヲ除キ之ヲ清水ニテ數回洗ヒ更
ニ石鹼水中ニテ磨擦シ清水ニテ洗ヒタル後一千倍昇藥水中ニ浸漬スル事二十
分間ニシテ更ニ清水ニテ洗滌ス
- 三、子葉時代ニ發生セルモノハ其年ニ於ケル蔓延ノ源ヲナスモノナルヲ以テホルド
ウ液ノ撒布ニヨリテ豫防スヘシ

事業成績概況

1111

二四

蛇眼病 本病モ子葉ニ發生スルコトアルモ多クハ六月乃至七月ニ於テ褐斑病ニ先チテ發生ス本病ノ葉片ニ發生スルヤ初ハ單ニ褐色ノ斑點ヲ生スルノミナルモ次第ニ斑點ノ大サチ増シ後ニハ同心圓ヲ劃シテ蛇眼樣ヲナス、コレ本病ヲ識別スル好箇ノ特徵ナリトス本病ノ根ニ發生スルヤ初ハ圓形ノ多少凹入セル黑斑ヲ生スルノミナルモ病勢進メバ遂ニ根ノ全部黒色化シ表面龜裂シテ乾燥腐敗ス

本病ノ防除法ハ褐斑病ニ大差無シ

菌核病 本病ハ八月下旬以後ニ發生ス初期ニアリテハ地上部僅ニ枯開スルノミニシテ他ニ何等特有ノ病徵無キモ全ク枯死腐敗スルニ至レバ葉柄ノ下部ハ白色絹絲狀ノ菌絲ヲ以テ被ハレ根ニハ菌絲一面ニ纏絡シ處々ニ菌絲ノ結節タル菌核ノ形成ヲ見ル

本病菌ハ甜菜ノ外莖蔬菜中旁甘藷薑馬鈴百合薺蘿蔔甜藍ニモ寄生シ得ルヲ以テ甜菜ヲ是等作物ノ跡作トナスハ不可ナリ既ニ發生セシモノハ之ヲ掘取り燒却シ其ノ土地ハ石灰ニテ消毒スヘシ

一一五

ニ就キ防除法ノ大要ヲ示サシ

५५

本病ノ豫防トシテハ

塗沫シ置クベシ

瀝シ其ノ跡ニ石灰乳ヲ入キ頻チ塗沫シ置クベシ

升式ボルドウ液サ撒布スベシ

チ撒布スルヲ可トス貯蔵果ニ本病ノ發生スルヲ豫防セムニハ其面ニ濕氣ナキ状態

三

事業成績概況

一二八

シ各果別々ニ紙ニテ包ミ僅クモシ貯藏前貯藏室チ「フオルマリン」ニテ消毒セバ一層可ナリ
褐斑病 本病ハ六七月頃ヨリ葉片ニ發生スルモノニシテ病斑ハ初メ暗褐色ノ縁邊ヲ有スル褐色ノ斑點ナレドモ日ヲ經ルニ從ヒ此ノ斑點中ニ黑色ノ小顆粒ヲ生ジ被害葉ハ全部褐變シテ早ク落葉ス本病ヲ豫防スルニハ密植ヲ避ケ適宜剪定ヲ行ヒ且十分ニ施肥シ同時ニ六月月上旬ヨリ三斗式ホルドリ液又ハ〇三度石灰硫黄合劑ヲ二三回撒布スルニアリ

縮果病 本病ノ病徴ハ蘋果ノ品種、發生ノ時期及腐處ニヨリ異ナリ果面ニ發生スル場合ニハ或ハ紅紫色ノ水腫樣斑點ヲ呈シ後乾燥シテ凹陷シ果實チシテ畸形ナリシムルモノアリ或ハ初期ニハ何等ノ異狀ヲ呈セザルモ過度ノ濕氣ヲ得レバ被害部ハ著シク水分ヲ含ミ殆ド透明ナル外觀ヲ呈スルモノアリ果皮ニ近キ果肉ニ發生スル場合ニハ或ハ外部多少暗色ヲ呈シ又ハ紅色若シクハ褐色ノ汁液ヲ滲出シ後乾燥シ成熟期ニ

至レバ果實畸形トナリ果肉稍柔軟ナル本松組織チナスニ至ルモノアリ或ハ外部ニ何等ノ異狀ヲ認メズシテ後ニ至リ堅牢ナル本松組織チ形成スルモノアリ果肉チ侵セラル場合ニハ果肉中ニ褐色ノ斑點ヲ散生シ此ノ斑點次第ニ木栓化ス本病ハ不均衡ナル水分ノ供給ニヨリ或ハ華樹本來ノ所要營養分ノ缺乏ニヨル
本病ノ豫防方法次ノ如シ

- 一、土壤チシテ保水力チ強カラシムル爲ニ堆肥チ施用スルコト
- 二、根系チ深ク下層ニ導カシ爲肥料ハナレバ深ク施スコト
- 三、根系ノ發育チ促シ水分吸收ノ範圍チ廣カラシメシメ爲施肥ノ位置ハ樹齡ニ從ヒ次第ニ根元チ遠ザカラシムルコト
- 四、土壤ノ保水力チ増サシムルト根系ノ發育ニ便ナラシムルトノ爲深耕チ行フコト
- 五、水分ノ不足ヲ補フ爲適度ノ灌溉チ行フコト

事業成績概況

一二九

事業成績概況

1110

六、米糠大豆類其他人糞尿等ノ肥料ヲ充分ニ施スコト

七、果樹園新設ノ場合ニ於テ土地ノ選定ニ注意スルコト

(一) 土層ノ淺キ土地ヲ避クルコト

(二) 土層深キモ保水力乏シキ地ヲ避クルコト

(三) 急斜ノ地ヲ避クルコト

(四) 過濕ハ根系ノ發育ヲ妨グルコトアルヲ以テ斯ノ如キ土壤ヲ避クルコト

八、本病ヲ發生シ易キ品種ハ紅魁、紅玉、倭錦ニシテ祝、柳玉等ハ稍抵抗力ヲ有

シ國光ハ其ノ被害少シ斯ノ如ク品種ニヨリ發病ノ度ニ輕重アルガ故ニ品種選擇

ニ注意スベキコト

梨ノ病害

赤星病 本病ハ葉柄及果實並ニ果梗ニ發生スルモノニシテ病斑ノ表面ハ橙黃赤色ヲ呈シ其ノ裏面ハ膨レテ灰白色ノ房狀ヲナス而シテ病葉ハ日ヲ經ルニ從ヒ黑變シテ枯

死ス其ノ病原菌ハ冬季相楡又ハ杜松ニ寄生シテ越冬スルモノニシテ梨ノ開花前此等植物ニ木耳狀寒天質ノモノヲ發生スルハ即チ其ノ病原菌ノ冬胞子堆ナレバ本病ヲ豫防スルニハ之ヨリ胞子ノ飛散スル前即チ梨果ノ大豆粒大トナルマデニ梨樹ニ三斗式ホルドリ液ヲ二三回降雨前後ニ撒布スベシ又果樹園附近ニ柏樹又ハ杜松等ヲ栽植セザルコト肝要ナリトス

黑星病 本病ハ一種ノ菌類ノ寄生ニヨリ發生スルモノニシテ葉柄葉片果實果梗及嫩枝ヲ侵害シ五六月ノ頃天候濕潤ナル際ニハ本病ノ發生多シ葉片及果實ニアリテハ帶青綠色ノ病斑ヲ生ジ後黑粉狀ヲ呈シ果實ハ硬化シ時ニ龜裂ヲ生ズル事アリ葉柄果梗及嫩枝ニアリテハ黑粉狀病斑ヲ呈シ遂ニ枯死脱落ス本病ヲ豫防スルニハ開花前三斗式「ホルドリ」液又ハ「ボーメ」三度ノ石灰硫黃合劑ヲ撒布シ落花後一回其後十日乃至二週間ヲ隔テテ一二回三斗五斗式ホルドリ液又ハ「ボーメ」〇、三度ノ石灰硫黃合劑ヲ撒布スベシ、病葉病果ハ之ヲ集メテ燒却スベシ

事業成績概況

1111

事業成績概況

一三三

黒斑病 本病ハ六―七月ノ頃葉片ニ發生シテ灰白色ノ病斑ヲ生ズルモノニシテ被害部ハ硬化シ終ニ葉脈ノミヲ殘スニ至ル之ヲ豫防スルニハ發芽前一同二斗五升式ホルドウ液ヲ撒布シ發病期前ニ一回〇、三度位ノ石灰硫黄合劑ヲ撒布スルヲ可トス病葉ハ常ニコレヲ集收シテ焼却スベシ

火傷病 華果ノ火傷病ニ同ジ

桃ノ病害

縮葉病 本病ハ春期嫩葉ニ發生スルモノニシテ被害葉ハ恰如蟬虫ノ害ヲ受ケタル葉ノ如ク一部肥大シ一部收縮シテ不正形トナリ日ヲ經ルニ從ヒ其ノ裏面ニ灰白色ノ粉狀休ヲ生ジ葉ハ黃褐色ニ變ジテ落下スコレヲ豫防スルニハ病葉及病梢ハ截除焼却シ春期發芽前一同三斗式ホルドウ液減ハ〇、三度ノ石灰硫黄合劑ヲ撒布スルニアリ發芽後更ニ三斗式ホルドウ液ヲ一回撒布スベシ

葡萄ノ病害 朝鮮ニ於ケル葡萄ノ病害中其ノ害ノ甚クシキヲ黒痘病及露菌病ノ二種トス

トス

黒痘病 葉裏及果實ニ發生スル病害ニシテ葉及莢ニハ灰白色ヲ帶ヘル小斑ヲ生ジ其ノ周縁ハ暗褐色ヲ呈シ果實ニハ黒色ノ凹斑ヲ生ジ其ノ周縁ハ少シク紫紅色ヲ呈ス之ヲ豫防スルニハ被害部ハ之ヲ摘去シ發芽前ニハ三、五度ノ石灰硫黄合劑又ハ二斗五升式ホルドウ液ヲ撒布シ蔓ノ四五寸位伸ビタル頃開花前、落花後並ニ果實ノ大豆粒大トナツタトキ各三斗五升式ホルドウ液ヲ撒布スルヲ可トス

露菌病 本病ハ主トシテ葉ニ發生スルモノニシテ病葉ハ其裏面ニ淡黃褐色ヲ帶ヘル不正形ノ病斑ヲ生シ其裏面ニハ白色ノ微チ生ス之ヲ豫防スルニハ病葉ハ剪メテ之ヲ摘去焼却シ春季發芽後約十日毎ニ二三回三斗五升式ホルドウ液ヲ撒布スルヲ可トス

桑ノ病害 朝鮮ニ於ケル桑ノ病害中其ノ害甚キキ芽枯病及紫紋羽病ニ就テ述ヘム

芽枯病 本病ハ葉ノ落葉後芽ヲ害シ早春被害部ニ赤色ノ顆粒體ヲ生セシムルモノニシテ主トシテ晩秋ニ生シタル新梢ニ發生ス本病ヲ豫防スルニハ未熟ノ堆肥或ハ遲肥

事業成績概況

一三三

事業成績概況

一三四

ヲ連ケ且排水ヲ良好ナラシムルヲ要ス尙發病セル枝梢ハ伐採燒却スヘシ
紫紋羽病 本病ハ根部ニ發生シ暗紫色ノ天竺絨樣物質ヲ纏絡スルモノニシテ往々紫
色粉狀ノ生理的變狀ト誤リ易シ本病ノ發生シタル時ハ被害部ヲ除去シテ燒却シ尙跡
地ハ客土スルカ或ハ節別シテ細篩ナル被害部ノ殘存スルヲ除去スルヲ要ス本病發生
地ヘハ禾本科作物ノミヲ選栽スルヲ可トス

殺菌劑

一、ホルドウ液

ホルドウ液ヲ製セント欲セバ一斗以上ヲ容ルルニ足ル可キ小桶二個及大桶一個ヲ用
意シ其ノ小桶ノ一個ニ約二升ノ水ヲ入レ之ニ硫酸銅(工業用)百二十匁ヲ投入レトシ
テ垂下シ溶解ヲ待テ水ヲ注加シ調合量(ホルドウ液ハ水ノ用量ニ應シ一斗式三斗
式等ト稱ス)ノ中量トナシ他ノ小桶ニ生石灰百二十匁ヲ投シ少量ノ湯ヲ注キ十分
ニ粉碎セシメ後水ヲ加ヘテ其ノ全量ヲ硫酸銅液ト同ジカラシムルベシ、生石灰ノ用

量ハ質良好ナル時ハ百匁ニテ十分ナルモ不良ナル時ハ百二十匁ニテモ不十分ナリ斯
クサ棒ヲ以テ攪拌シ又ハ噴霧器ヲ以テ泡立タシメツ、兩液ヲ同時ニ少量宛大桶ニ注
入シ十分ニ化合セシムベシ能ク化合セル液ハ若色ヲ呈シ粘質ヲ有スルモノナリ一層
粘質ヲ有セシムルニハ其ノ一斗ニ對シ石鹼約十匁ヲ添加スベシ本劑ハ入用ノ都度調製
スベシホルドウ液ハ病害豫防ニ用ヒラルモノナルモ常蟻ハ瓜守ガホルドウ液ノ附
着セル瓜葉ヲ喰害セサルヲ認メホルドウ液モ害虫侵蝕ヲ避クル効果アルニアラザル
ヤチ思ヒ瓜守無條サハムシ、黃節蚤虫、葡萄葉虫、葡萄葉虫、ウスバツバメ、赤楊
葉虫松葉虫、金龜子、及梨栗赤楊松等ニ寄生スル各種ノ粘蟻ニ就キ右ノ効果ヲ試驗
シタル粘蟻及金龜子ノ外ハホルドウ液ノ附着セル葉ヲ喰害セザルノ結果ヲ得タリ

二、アンモニヤホルドウ液

本劑ノホルドウ液ニ異ルハ生石灰ニ代ユルニアンモニアヲ以テスルニアリ水ノ用量
ニヨリ五斗式一石式等ト稱ス之ヲ調製スルニハ所要量ノ水ニ硫酸銅百二十匁ヲ溶シ

事業成績概況

一三五

事業成績概況

一三六

阻キコレニアシモニヤ一合五勺乃至二合ヲ注加シ能ク攪拌シ青色試験紙ヲ浸スモ赤色ノ反應ヲ呈セザルニ至リ止テ「アンモニヤ」ノ量外キニ過ル時ハ葉及果實被害スルコトアリ注意セザルベカラス

三、炭酸銅アンモニア液

本劑ハ炭酸銅十匁ニアシモニア水ヲ加ベテ溶解セシメ後水ヲ加ヘテ所要ノ濃度ニ稀釋シ使用スアンモニアノ用量ハ強アンモニア一合トス水ノ用量ニ依リ五斗式一石式等稱トス

四、石灰硫黃合劑

豫メ二個ノ蒸釜ヲ石油ノ空罐ヲ用ユルモ可ナリ「ナ川」ニ其ノ一個ニ水ヲ充テシテ煮沸セシメ他ノ一個ニ生石灰百二十匁ヲ入レ少量ノ水ヲ加ヘテ能ク攪拌シタル後豫メ湯ヲ以テ乳狀トナセル硫黃百二十匁ヲ混シ攪拌シツツ之ヲ火上ニ煮沸スル時ハ初ハ淡黃色ナリスルモ次第テ赤褐色トナリ遂ニ褐色トナル調製中洗滌物ヲ生ズルノ虞

アルヲ以テ絶ヘズ攪拌セザル可カラズ斯ク煮沸スルコト凡ソ四五十分開ニ至レバ漸次湯釜ヨリ熱湯ヲ移シテ液ノ全量ヲ一斗トシ尙煮沸スルコト十分乃至二十分ニシテ火ヲ去リ粗布ニテ濾過シ必要ニ應ジ使用ス右ノ割合ニヨリテ得タル合劑ハ「ホーム」三度内外トス

五、濃厚石灰硫黃合劑

調製法ハ前項ト大差無シ但シ本劑ノ調合量ハ生石灰六百匁硫黃一貫目ニ對シ水一斗ナルヲ以テ初メヨリ全量ノ水ヲ入レテ煮沸シ絶ヘズ攪拌シ後粗布ニテ濾過シ適當ニ稀釋シテ用ユベシ稀釋ノ割合ニハ「ホーム」比重計ヲ以テ濃度ヲ定ムルヲ安全トナシ稀釋ニハ既ニ作成シタル稀釋表ニヨルヲ便利トス本劑ハ空氣ニ觸レハ分解シテ硫黃ヲ遊離セシムル恐アルヲ以テ當ニ密閉スルヲ要ス

驅除劑豫防劑使用上ノ注意

一、殺菌劑「濃度」ノ植物葉ニ及ボス影響

事業成績概況

一三七

事業成績概況

一三八

ホルドリ液 桃ニ對シ六月ニ施シタルモノニアリテハ三斗式迄ハ被害極チ少キモ二斗式ハ其ノ被害甚ダシク七月ニ施シタルモノニアリテハ三斗式ホルドリ液亦其ノ被害著シ梨ニ對シ七月ニ施シタルモノ及蘋果ニ對シ六月ニ施シタルモノハ各濃度共ニ無害ナリキ

石灰硫黄合劑 桃ニ對シ六月ニ施シタルモノニアリテハ「ホーム」〇・二度ノモノモ施用後一割内外ノ落葉ヲ來セリ七月ニ施シタルモノハ其ノ一層多カリキ梨ニ對シ七月ニ施シタルモノハ「ホーム」〇・五度ノ液ニアリテハ中肋ニ消ヒテ暗色ヲ呈シタル葉チ多少認めタルモ〇・二度ノモノハ全ク無害ナリ而シテ六月蘋果ニ施シタルモノハ〇・五度ノモノ亦無害ナリキ

炭酸銅アンモニヤ 桃ニ對シ六月及七月ニ施シタルモノハ各濃度共ニ多少ノ被害アリシモ其ノ程度大ナラス梨ニ對シ七月ニ施シタルモノ及蘋果ニ對シ六月ニ施シタルモノハ各二斗式モ亦無害ナリキ

アンモニヤホルドリ液 桃ニ對シ六月ニ施シタルモノハ一石二斗式マデハ其ノ被害甚ダシカラザルモ七月ニ施ストキハ一石二斗式亦其被害甚ダシキヲ認めタルモ梨ニ對シ七月ニ施シタルモノハ各濃度共被害劇甚ニシテ無害葉ナク六月蘋果ニ施シタルモノハ各八斗式モ亦無害ナリキ

石灰汁 桃蘋果及梨ノ葉ニ對シ石灰汁ノコレニ及ボス被害程度ヲ知ラン爲水一斗ニ對シ生石灰チ百匁三百匁五百匁一貫匁一貫五百匁ノ割合ニ混シタルモノヲ九月中旬施用セルニ蘋果ニアリテハ五百匁迄ハ被害極チ輕微ナルモ梨ニアリテハ百匁ニ於テ既ニ葉ニ被害ノ微チ呈シ桃ニアリテハ百匁ノモノ亦著シク落葉ヲ促シタリ

二、殺菌劑「濃度」ノ果實ニ及ボス影響

ホルドリ液(三斗式)桃蘋果及梨ニ對シホルドリ液ヲ撒布シタルニ何レモ果實三分大ノトキ撒布セルモノハ被害大ニ且其ノ生育チ害シ極チ之ヲ不正形ナラシムルモ既ニ五分大ニ成長シタルモノニアリテハ被害少ク生育亦良好ナリ

事業成績概況

一三九

事業成績概況

一四〇

石灰硫黄合劑(ホーメ)〇二度 右同一試験チ行ヒタルニ其ノ成績亦同一ナリキ
三、殺菌劑ノ花蕾ニ及ボス影響
ホルドリ液(三斗式) 桃華果及梨ノ三種ニ對シ花蕾ノ時又ハ開花中ニホルドリ液ヲ
撒布セルニ兩期共被害アリ就中開花中ニ於テ甚シトス
石灰硫黄合劑(ホーメ)〇二度 右同一ノ試験チ行ヒタルニ被害ノ程度ハ稍々
ホルドリ液ニ劣ルモ其ノ成績ハ著シク不良ナリ
四、藥劑塗抹ノ果樹ニ及ボス影響
洋梨及蘋果ノ幹ノ南面チ小刀ニテ削リ木質及形成層ノ一部ヲ露出セシメ其ノ部ニダ
ール(原液)タルヲ加シ石灰(タール)一合、水五斗生石灰五斗ノ松脂加硫黄銅液(硫黄銅
五斗液四斗對シ松脂液一斗)生石灰乳(水一斗生石灰二貫目)昇水(千倍液)ホルドリ
液(二斗式)石灰硫黄合劑(ホーメ)三度石灰酸(五斗液)ルンキ(原液)亞鉛化(二十倍)
鉛白(二十倍)硫黄鐵加硫黄合劑(硫黄三合三斗、水三合硫黄鐵ヲ溶解シ得ルダケ)

チ檢査シ形成層木質部ノ被害狀況ヲ調査セルニ石灰乳昇水ホルドリ液生石灰硫黄合
劑石灰酸及亞鉛等ノ適合狀況可良ナルヲ認メタリ

五、硫黄劑加用殺菌劑ノ果樹ニ及ボス影響

ホルドリ液又ハ石灰硫黄合劑ニバリスケリシ亞硫酸亞硫酸鉛亞硫酸曹達
チ加用セル場合ノ被害程度ヲ調査セルニ三斗五斗式ホルドリ液ニ混和セルモノハ桃
梨華果共ニ害アリ就中桃ニ對シテ其ノ甚クシキヲ見ル而テ石灰硫黄合劑ニアリテモ
其ノ成績撥チ一ニシテホルドリ液ノ場合ヨリ其ノ程度大ナリトス

六、土壤ニ施シタル藥劑ノ植生ニ及ボス影響

二斗式ホルドリ液及〇三度石灰硫黄合劑チ用ヒテ本調査チ行ヒタルニホルドリ液ノ
土表撒布ハ植生ニ無害ノミナラズ却テ剌戟作用ニ依リ作物ノ成長ヲ促シ幾分收量ヲ
増サシムルモノノ如シ然レドモ石灰硫黄合劑チ土中ニ撒布シタルモノハ植物ノ生理
上不良ナル結果チ來シ收量ヲ減セシムルヲ認メタリ故ニホルドリ液撒布ノ際土表ニ

事業成績概況

一四一

事業成績概況

一四二

滋降スル作物根害ニ有害ナル作用ヲ及ボスコトナキヲ知ル可ク土壤傳染ニ依リ起ル病害ニ對シ石灰硫黄合劑ヲ土中ニ撒布スルハ不利益ナルヲ知ルヲ得ヘシ

第八 特用作物獎勵ニ關スル事項

(一) 棉花ノ獎勵及普及

棉花ハ朝鮮ノ重要物産ナリ其ノ在來種ハ栽培ノ年既ニ久シク朝鮮地各到處之ヲ栽培セサルナシ然レトモ之ヲ陸地棉ニ比較スルニ紡績上多少ノ短所アルヲ以テ當揚ハ明治三十九年木浦出發所ニ於テ陸地棉ノ南鮮地方ニ適スルヤ否ヲ試ミタリ而シテ試作ノ結果陸地棉ノ在來種ニ勝ルモノアルヲ認メ殊ニ陸地棉ノ一種「キンケスインブルー」ハ朝鮮ノ氣候ニ恰適スヘキヲ確認シ同年以後之カ種子ノ配付ニ努メ又南鮮各地ニ棉採種園ヲ設ケ力ヲ作棉獎勵ニ盡サシメタリ今去明治三十九年以降棉採種園事業ヲ道ニ移スニ至リタル迄當揚ヨリ又ハ臨時棉花栽培所(現在木浦棉作支揚)ヨリ配付セル高ヲ示セハ左ノ如シ

明治三十九年	七、六九〇斤
同 四十年	一〇、七〇〇斤
同 四十一年	四二、六〇〇斤
同 四十二年	八九、一六六斤
同 四十三年	二三〇、〇〇〇斤
同 四十四年	四七五、七五五斤
計	八五五、九二一斤

右獎勵ノ結果ハ朝鮮農家ヲシテ陸地棉栽培ノ有利ナルヲ覺ラシメ之カ栽培面積ハ年ト共ニ増加シ大正六年ニ於テハ六萬三千八百五町歩ニ達シ其ノ收量五千四百五十萬三千六百六十五斤ニ及ヘリ今栽培面積ノ増加ヲ表示スレハ左ノ如シ

明治三十九年	四五
同 四十年	六五

事業成績概況

一四三

事業成績概況

同 四十一年	二〇〇
同 四十二年	四一二
同 四十三年	一、二六八
同 四十四年	三、〇四二
大正元年	七、三二三
同 二年	一五、八二二
同 三年	二二、九六四
同 四年	三四、七一五
同 五年	五四、一七九
同 六年	七二、一九四
同 七年	九四、三二一
同 八年	一〇九、一三六

從來ノ成績ニ徴スルニ陸地棉ノ平均反當收量ハ實棉百斤内外ニシテ其ノ播種歩合ハ三割以上ナルヲ當トスルヲ以テ棉花ノ收量ニ於テ殆ント在來棉ニ倍ス故ニ營業者ノ之ヲ栽培スルモノ前記ノ如ク年々著シキ増加ナシ棉作第一期計畫ノ豫定事業昨大正七年既ニ之ヲ完成スルヲ得タル以テ當局者ハ更ニ第二期計畫ヲ樹テ大正八年ヨリ實施スルノ機運ニ至レリ

水浦棉作支場ハ從來陸地棉種子ノ配付ニ力ヲ盡スト共ニ年々米國ヨリ棉種子ヲ輸入シ之ヲ馴化ニ勉メ又陸地棉栽培ニ關シ種々ノ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ハ營業者ニ裨益セルトコロ夥カリス

在來棉ハ南蘇地方ニ於テハ其ノ品質收量陸地棉ニ及ハスト雖陸地棉ノ栽培ニ適セサル京畿道以北蘇ニ黃海、平安ノ兩道等ニ於テハ在來棉ニ對スル適地少カリス農家亦之ヲ栽培ニ熱スル所アリ地方重要農産物トシテ決シテ捨ツヘキモノニアラサルヲ以テ當局ハ平安南道龍岡郡龍岡ニ出張所ヲ設置シ之ヲ栽培ノ改良ヲ試ミ併

事業成績概況

(二) 烟草之栽培

煙草亦朝鮮ニ於ケル特用作物ノ一ニシテ各地之ヲ栽培スレトモ其ノ最モ名アルモノハ成川及龍仁ノ産ナリトス而シテ朝鮮ノ氣候ハ煙草ノ生育ニ適スルモノノ如ク之ヲ栽培ハ朝鮮ノ農家上等園ニ附スヘキモノニアラサルヲ認メ當務ハ内地ニ於ケル有名ナル品種及外國品種トノ比較栽培ヲ行フコト茲ニ數年稍ヤ正確ナル成績ヲ舉グルヲ得タリ今其ノ成績ヲ大要ヲ述ヘン朝鮮植ハ内地種ニ比スレハ收量遙ニ夥ク味殊辛烈ニシテ臭味アリ然レトモ其ノ性強健ニテ栽培容易ナルノ優點アルカ故ニ之ヲ改良スルニ栽培法ノ注意ヲ以テシ又ハ其ノ他ノ良種ト交配シテ雜種ヲ作ルトキハ他日良種タルノ望ナキニアラサルヘシ内地種ニアリテハ國分及兼野連年優位ヲ占メ能ク當地ノ風土ニ適シ之ヲ紙巻及刺用トシテ用ユレハ甚タ可ナルヲ見ル外國種申葉巻煙草用「ジンマー」スハ葉巻用トシテ稍ヤ彈力ニ乏シキ餘ナキニアラ

甜菜ノ栽培及其ノ含糖量ノ研究

サラム、喫味辛烈ナルヲ以テ朝鮮人ノ嗜好ニ適スヘシ「オロノコ」ハ黃色煙草トシテ色澤鮮麗香氣及喫味共ニ俱良栽培又容易ナリ
右ノ結果ハ營業者チシテ煙草栽培上取ルベキノ方針ヲ定メシムルニ足ルモノアリ
近來在來種ハ其ノ地位ヲ内地種ニ與ヘ内地種ハ次第ニ其ノ栽培面積ヲ增加セントス是亦農業經濟ニ裨益チ及ハスコト蓋シ鈔キニアラサルヘシ
三、甜菜ノ栽培及其ノ含糖量ノ研究
朝鮮ハ其ノ氣候概シテ溫氣鈔ナク殊ニ秋期降雨ノ稀ナルニ依リ甜菜ノ栽培ニ有利ナルヘキナ照メ當揚ハ明治三十九年以來獨逸國ヨリ之ヲ種子ヲ輸入シ各地ニ於テ試作ヲナシ其ノ生産物ハ一々之ヲ分析シ其ノ含糖量ヲ檢定セリ其ノ成績ニ依ルニ朝鮮ニテハ氣候適順ナル年柄ニアリテハ甜菜ノ含糖量ハ十七乃至十八%以上ニ及ビ而シテ其ノ含糖ハ北部朝鮮ニ多ク南部朝鮮ニ鈔シ朝鮮ノ氣候ハ大陸ニ於テ甜菜ノ栽培ニ適スレトモ年柄ニヨリテハ夏期ニ於テ病害又蟲害ノ甚タシキコトアリ雨期遲レテ至ル場合ニハ甜菜ノ成熟遲延シ糖分ノ蓄積全カリス結冰期ニ近ツキテ一

事業成績概況

一四八

時ニ多大ノ收納チナラサルヘガラスシテ勢力ノ分配宜シキヲ得ス製糖日數ヲ減スルノ不利ナキ能ハスト雖モ病害蟲ニ對シテハ四除方法ノ既ニ闡明セラルルアリ勞力ノ分配ニ對シテハ製糖業經營ノ方法ニヨリ其弊ヲ免ルルヲ得ヘキヲ以テ朝鮮ニ甜菜ヲ栽培シ得ルト否トハ栽培ノ適否如何ニ由ル問題ニアラスシテ一ニ懸リテ經濟上ノ問題ニ屬ス營業者中既ニ本事業ノ有望ナルヲ認メ平安南道ニ於テ之ヲ經營ニ着手シツツアルハ朝鮮富源開發上喜フヘキ現象ナリトス

第九 園藝ニ關スル事項

朝鮮ハ土質地勢氣候共ニ能ク果樹ノ栽培ニ適ス即チ土地ハ花崗岩片麻及古世組層ヨリ生成シタルモノ多ク地形ハ果樹園ニ適スヘキ緩斜ノ地ニ富ミ氣候ハ七八月ノ雨期ヲ除クノ外ハ概テ空氣乾燥ニシテ降雨量多カラス殊ニ秋期ノ高温乾燥ハ果實ノ發熟作用ヲ完全ニシ花芽ノ化育ヲ盛ナラシム

此ノ如ク天與ノ好風土ヲ有スルニ係ハラヌ明治三十八年頃迄ハ朝鮮ニ於ケル果樹

栽培ハ其ノ經營者カ園藝ノ智識ト經驗トニ乏シク又他ニ之ヲ模範ヲ示スモノナカリシカハ或ハ經營粗漫ニ流レ或ハ土地ノ選定ヲ誤リ或ハ栽培ノ方法宜シキヲ得ス且病害蟲ノ防除ヲ怠リタル等種々ノ原因ノ爲メ多クハ不良ノ成績ニ陥リタリ明治三十九年園藝模範場(蘇島園藝支場)ノ京畿道蘇島ニ設置セララルルヤ明ニ朝鮮ノ風土カ果樹ノ栽培ニ適スヘキヲ示シタルト共ニ果樹栽培ノ方法ヲ世人ニ教フルトコロアリシカハ忽チ世人ノ園藝事業ニ注目ヲ惹キ特ニ明治四十二年以降之レカ栽培ヲ試ミルモノ翕然トシテ増加シ京釜線沿道ノ如キハ勿論京義京元ノ兩沿線ニ至ルモ各地之ヲ經營スルモノアルニ至レリ本場ニテハ明治四十一年ヨリ少許ノ果樹園ヲ設置シ斯業ノ參考ニ資スルコトセリ是亦生育結果共ニ佳良ナリシカハ世人ナシテ一層果樹栽培ノ有利ナルヲ覺ラシメタリ今大正元年及大正八年ノ各種果樹優良品種栽培樹數ヲ比較スレハ左ノ如シ

事業成績概況

大正元年

大正八年

一四九

事業成績概況

苹果

五、六、三五九

一五〇

梨

二、九、九一三

一、四三七、六九一

葡萄

八、三、〇四三

一、〇七七、三六三

栗

二、九七、六〇〇

二六二、九三七

蘇島園藝支場及徳源園藝支場ハ果樹栽培ニ關シ種々ノ調査及研究ヲ行ヒ其ノ成績ハ果樹栽培者ノ指針トナリ農家ニ及ホス裨益夥カラス

第十 蠶業ニ關スル事項

朝鮮ノ氣候ハ空氣乾燥ニシテ家蠶特ニ春蠶ノ飼育ニ適ス而シテ在來蠶種ハ其ノ收繭絲量共ニ内地種ニ劣ルヲ以テ近來内地種ヲ飼育スル者次第ニ増加シ其ノ產繭額ハ年々共ニ増加セリ即チ左ノ如シ

明治四十四年 二〇、〇三二
大正元年 二九、四四〇

同 二年

三六、八七一

同 三年

四六、一九四

同 四年

五九、一五六

同 五年

七一、九二二

同 六年

九七、一八五

右ノ如ク蠶業ノ改良發達ハ著シキモノアリ前途甚々好望ナルカ故ニ當場ハ蠶業試驗所ニ於テ專ラ蠶業ニ關スル試驗ヲ行フト共ニ蠶種ノ統一及原蠶種製造ニ力ヲ用ヒテツアリ從來ノ成績ニ徴スルニ朝鮮ニ適スヘキ蠶種ハ春蠶種ニアリテハ又昔小石丸青熟夏蠶種ニアリテハ新屋秋蠶種ニアリテハ白龍ニシテ朝鮮總督府ハ大正元年訓令第十一號ヲ以テ此ノ五種ヲ朝鮮ニ普及セシムヘキ種類ト定メタリ然レトモ時勢ノ進歩ハ外國種蠶ニ其ノ一同種蠶ノ普及ヲ必要トナスニアラサルヤヲ認ムルヲ以テ蠶業試驗所ヲシテ外國種蠶及其ノ雜種ニ就テ調査ヲセシメタルニ其成績極メ

事業成績概況

一五二

事業成績概況

一五二

テ良好ナリシカハ昨七年度以來新ニ左記六種ヲ獎勵品種トセリ
朝歌一號 大正五年伊國バドグヲ蠶業試驗場ヨリ直接輸入シタル「ジヤロアスコ
リ」ヨリ淘汰選出セルモノナリ
朝歌二號 前者ト同シク「ヒオーホ」ヨリ淘汰選出セルモノナリ
朝歌三號 「ジヤロベル」ジヤ「ト支那二十號特大」ノ一代交配種ナリ
朝歌四號 愛歐一號ト支那二十號特大トノ一代交配種ナリ
朝白一號 赤熱ト支那二十號特大トノ一代交配種ナリ
朝白二號 「アランビュール」ト支那七號トノ一代交配種ナリ
蠶業試驗所ノ行ヘル蠶業上ノ試驗研究ハ甚ダ有益ナルモノ多ク其ノ成績ノ朝鮮蠶
界ニ及ボシタル効果大ナリトス

第十一 畜業ニ關スル事項

(一) 畜牛ノ改良

家畜絲ニ畜牛ノ繁殖改良ハ朝鮮ノ農業經濟ニ及ボス關係極メテ重大ナルヲ以テ當
場開設以來力ヲ之ニ用ヒ種々ノ試驗ヲ行ヒツツアリ而シテ畜牛ノ改良ニハ先ツ朝
鮮牛ノ優良ナルモノヲ以テ種付用トナスノ捷徑ナルヲ認メ本場及元大邱支場ニ於
テ數年間奉付種付及巡回種付ヲ行ヒ地方畜牛ノ形質漸次劣變スルノ傾向ニ對抗セ
ントセリ其ノ結果ハ各道ニ於ケル畜牛改良ノ施設ト相待ツテ頗ル良好ニシテ之ニ
對スル農民ノ漸次佳良トナリ自ラ進ンテ種付ヲ希望スルモノ亦尠カラサルノ狀態
トナレリ

將來ニ於テ洋種牛ノ繁殖ヲナサシムルヲ得ヘキカ又雜種牛ノ朝鮮ニ適スヘキヤヲ
試ミン爲當務ニ於テハ「シンメンター」種及「エアシア」種ヲ飼育シ前者ハ役
肉改良ニ後者ハ乳牛改良ニ資セントス

(二) 馬匹ノ改良

朝鮮ニ於ケル馬匹ハ畜牛ニ比スレハ其頭數極メテ少キノミナラス體軀矮小ニシテ

事業成績概況

一五三

事業成績概況

一五四

經濟上有利ナリト認ムル能ハス然レトモ交通ノ發達ト軍事上ノ關係トハ朝鮮ノ馬匹ヲシテ今日ノ狀態ニアラシムルヲ許サス故ニ當場ハ大正五年地ヲ江原道淮陽郡開谷面ニシテ牧馬事業ヲ開始シ爾來著々其ノ設備ノ完成ヲ圖リ大正六年之ヲ開谷牧馬支場ト命名シ專ラ馬匹改良ノ事ニ從ハシメタリ其ノ改良ノ方法ハ蒙古馬ヲ輸入シ洋種ヲ以テ之ヲ種付チ行ヒ漸次優良ナル馬匹ヲ得シトスルニアリ種馬ハ二頭大正五年馬政局ヨリ之ヲ讓渡シ受ケ蒙古馬ハ大正六年度ニ於テ四十三頭大正七年度ニ於テ十三頭ヲ購入シタリ外ニ大正五年馬政局ヨリ內國產牝馬二頭ヲ讓受ケタリ故ニ蕃殖用牝牡頭數ハ六十頭ナルモ其ノ後仔馬十一頭ヲ産シ鬃鬃馬五頭ヲ出セルヲ以テ大正七年末ニ於ケル蕃殖用馬匹總數ハ六十六頭ニシテ蒙古種ノ生産ハ大正八年ニ十五頭大正九年ニ二十頭ヲ數ヘ體形ハ大體ニ父ノ品位ヲ傳ヘ後嗣ニ母ノ斜臀ヲ受ケ體質極メテ強健ニシテ四肢ノ堅牢ナル點ニ於テ卓越スルモノアリ

(三) 豚ノ改良

開谷牧馬支場ニ於テハ馬匹蕃殖ノ外牧馬事業ニ關シ種々ノ調査及試驗ヲ行ヒツツアリ其成績ノ將來產馬事業ニ及ボスヘキ效果少カリサルヲ認ム

朝鮮在來ノ豚ハ極メテ不良ナル點アルヲ以テ之ヲ改良スルコト甚々急要ナリ故ニ當場ハ明治四十一年以來「パークシク」種ヲ輸入シ之ニ依リテ朝鮮豚ノ改良ヲ圖リツツアリ而シテ既ニ配付セル頭數ハ百有餘ニ達シ配付後ノ成績何レモ良好ニシテ一産能ク七八頭乃至十頭ノ仔豚ヲ舉ケ此等仔豚ハ亦附近農家ニ分メテ送々之ヲ普及サ助長シツツアリ

右ノ「パークシク」種ノ外滿洲豚ノ朝鮮ニ適スルヤ否ヤヲ試ミン爲大正四年其ノ原種ヲ安東縣ヨリ輸入シ之ヲ試育サナセルニ成熟速ニシテ蕃殖力強ク生後六七箇月ニシテ受胎シ放牧ナル管理ト粗糲ナル飼料ニ堪ユルノ點ニ於テハ遙ニ「パークシク」種ヲ凌駕シ其ノ豚舍ノ如キハ僅カニ雨露ヲ凌ケハ足リ甚ダシキニ至リテ

事業成績概況

一五五

事業成績概況

一五六

ハ殆ント放牧ニ等シキ状態ニ於テモ其健康ヲ維持シ體格ハ「バークシカ」種ニハ及ハスト雖朝鮮種ニ比スレハ遙ニ大ナリトス斯クノ如ク各種ノ長所アリト雖相貌粗野ニシテ品位ナク性粗暴ニ失シ人ニ馴レ難ク往々遊逸シ制禦困難ナリ且長スルニ從ヒ悍猛ニ陷ルノ弊アリ肉質肉味ハ朝鮮種ニ及ハス脂肪ニ乏シキト一種ノ臭氣アルトハ朝鮮種ト選ム所ナシ肥育性ハ殆ント之ヲ缺如シ洋種ノ如ク肥育シ易カラス

(四) 山羊ノ配付

當場ハ「マルタ」種ヲ飼育シ既ニ仔山羊數十頭ヲ配付セリ此等配付ノモノハ何レモ強健ニ飼育シ之カ飼養ヲ歡迎スルノ状況ニアリ

(五) 羊ノ試育

當場ニテハ數年來「メリノ」種「シユロツシヤ」種ヲ試育セルモ疾病ニ罹リ易キ傾キアリシヲ以テ未タ之カ飼育ヲ農家ニ奨励スルニ至ラズ故ニ大正元年ヨリハ

最強健ナリト稱セラルル蒙古羊ヲ輸入シ之ヲ洗浦牧羊支場ニ試育シ來リタルニ其ノ成績良好ニシテ年ト共ニ漸次蕃殖スルニ至レリ茲ニ於テ各道ニ少數ツツテ配付試育セシメ尙大正八年度ヨリ咸鏡南北、平北、黃海、全南ノ五ヶ道ヲ試驗飼育道トシ一道毎年八十頭ヲ配付試育セシメツツアリ

蒙古羊ハ洋種ニ比スレハ強健ニシテ飼育シ易シト雖毛質佳良ナラス其毛量多カラサルヲ以テ有利ニ牧羊事業ヲ營マントスル場合ニハ勢ヒ其ノ毛質ヲ改良シ毛量ノ増加ヲ計ラサルヘカラス之ヲナスニハ洋種ト之カ雜種ヲ作ルヲ以テ捷徑ナリト認ムルヲ以テ當場ハ大正八年度ヨリ洗浦牧羊支場事業擴張ト共ニ優良ナル洋種ヲ輸入シ之カ試育ヲナシ雜種ノ成績ヲ試ミ漸次各道ニ優良雜種羊ノ飼育ヲ普及セシメントス

(六) 家禽ノ改良

當場ハ主トシテ名古屋「コーチン」種雞蛋「ブリマスロツク」種及同雜種ヲ配付シ鶏

事業成績概況

一五七

事業成績概況

一五八

種ノ改良ヲ圖リツツアリ此ノ二種ハ能ク朝鮮ノ風土ニ適シ飼育容易ニシテ朝鮮在
來種ト殆ント同一管理ノ下ニ増加セラルルヲ以テ近來各地ニ於ケル之ヲ繁殖ハ著
シキモノアルニ至レリ

(七) 牧草ノ賦作

管場ハ芻草改良ノ目的ヲ以テ諸種ノ牧草ニ就キ其ノ優劣ヲ比較考查セリ而シテ其
ノ成績ニ依ルニ禾本科ニテハ「チモシ」品質數量最モ秀テ「ジョシメングラス」
「オーチャード」「レッドイツブ」之ニ次キ苜蓿科ニ於テハ赤詰草最優等ニシテ白詰
草胡枝子亦利用ノ價值アルヲ認メタリ

(八) 牛鞍改良

朝鮮ニ於ケル牛皮ノ產額ハ頗ル多ク重要ナル移輸出物ノ一ナルモ從來朝鮮各地ニ
使用スル鞍具不良ナルノミナラス其ノ裝着ニ留意セサルニ依リ牛體ニ鞍傷ヲ勝出
スルコト多キ爲メトハ剥皮乾燥等ヲ改良スルモ到底完全ナル皮革ヲ得ル能ハサル

ヲ以テ當場ハ各道ニ於ケル鞍具ヲ蒐集シ調査ノ結果牛鞍改良ニハ左ノ事項ノ必要
ナルヲ認メ之ニ基キテ改良牛鞍ヲ考案シ各地ニ之ヲ試用セシメタルニ其ノ成績頗
ル佳良ナリ

- (一) 鞍ノ重量ヲ減スルコト
- (二) 鞍具ノ一般構造ヲ堅牢ナラシムルコト
- (三) 鞍橋ノ彎曲ヲ適當ナラシムルコト
- (四) 前鞍橋ノ上部ニ空隙ヲ設ケルコト
- (五) 鞍橋ノ距離ヲ適當ナラシムルコト
- (六) 握木ヲ鞍橋ニ切り込ムカ又ハ全廢スルコト
- (七) 鞍ヲ牛背ニ適合セシムルコト
- (八) 鞍橋ニハ可成彈力アル柔軟ナルモノヲ選ビ鞍橋ノ下ニハ柔軟ナル裏層等ヲ下敷
トナスコト

事業成績概況

一五九

(九) 腹帶ニハ柔軟ナル材料ヲ以テ作レル幅廣キ平打繩ヲ用フルヲ可トス
(十) 軟ニ供スル材料ハ軟クシテ皮膚ヲ傷ケサル木材ヲ可トシ平打繩ハ牛體ニ接スル部分多クシテ却テ不可ナリ
(九) 「ニセアカシヤ」樹葉皮ノ中毒作用ニ關スル調査
馬匹ハ「ニセアカシヤ」樹葉皮ヲ食スレハ中毒ストノ説アリ朝鮮ニテハ同樹ノ栽培盛ナルヲ以テ右中毒ノ果シテ事實ナリヤ否ヤヲ知ルノ必要ヲ認メ大正六年之ニ關スル試驗ヲ行ヒタリ其ノ成績ノ概要左ノ如シ

(一) 樹葉ヲ與ヘタル場合 大正五年十一月上旬「ニセアカシヤ」樹ノ綠葉ヲ採取シ之ヲ乾燥シテ保存シタルモノヲ十一月二十日午後二時其ノ五百瓦ヲ敷ト共ニ試驗用馬匹ニ投與シタルニ投與後何等症狀ヲ呈セザリキ故ニ該樹葉ハ馬匹ニ對シ顯著ナル毒作用アリト認ムル能ハス然レトモ同樹ノ何レカノ部ニ毒素アリトナス場合ニアリテハ葉亦之ヲ投與セサルヲ安全ナリトス

(二) 樹皮ヲ與ヘタル場合 大正五年十二月「ニセアカシヤ」樹枝ヲ心皮及上皮ヲ剝取シ之ヲ細碎シ保存シ置キ一月二十三日午前九時挽割大麥糠等ト共ニ其ノ五百瓦ヲ投與シタルニ採食後約一時間ニシテ症狀ヲ呈シ次第ニ全身弛緩、四肢痙攣ヲ發シ漸次全身ノ震顫甚ダシク時々經ルニ從ヒ體溫昇登シ脈博呼吸ノ數甚ダシク増加シ露出粘膜ハ充血シ絶エス鼻漏ヲ出セリ而シテ後精神昂奮シ視覺ヲ失ヒ失神顛倒スルニ至レリ此ノ痙攣樣症狀ハ約三時間ニ及ビタルモ其ノ後各症狀次第ニ輕快シ飼料投與後三十時間ニシテ常態ニ復セリ故ニ「ニセアカシヤ」ノ樹皮ハ馬匹ニ有害ナル毒素ヲ含ムモノト認ムルヲ得ヘシ

第十二 殖林及養魚ニ關スル事項

(一) 麗岐山ノ殖林

殖林ノ範ヲ示シ且水源涵養ヲ圖ラン爲メ當場應舎ノ背後ニ鑿テ四湖ニ瀕セル麗岐山及之ニ附屬セル田地合計三十八町ニ對シ雜樹ノ保育ト共ニ新タニ赤松、櫻、落葉

事業成績概況

(二) 西湖ノ養魚

麗岐山ニ沿ヒ池アリ西湖ト稱シ周圍二十六町瀦水面積四十三町水深十八尺餘アリ其ノ産スル魚族ハ鰯、鮓、鱒、鯿類黃、カムルチー、鯉魚ノ類ニシテ鯉魚ハ其ノ俊影ヲ認メス嘗テ漢江ノ鯉魚ヲ放養セシコトアモ死滅シテ繁殖セシゴトナシト云フ蓋シ漢江ノ鯉魚ハ直隴種ト屬シ流水ニアラサレバ繁殖スル能ハサリシモノナラン故ニ當揚ハ瀋溜ノ池ニ龍ヲ繁殖スルヲ得ヘキ鯉魚ヲ放養セント欲シ明治四十二年奈良縣郡山ヨリ大和鯉ヲ移養セリ當時蝦長僅カニ一寸五分ニ過キサリシモ大正元年夏季ニハ既ニ二尺有餘ニ生育シ今日ニ至リテハ一肘其ノ長大セルヲ認メタリ即チ大和鯉ノ能ク朝鮮ノ地ニ適スヘキヲ知レリ思フニ養鯉ハ溜池ノ副利トシテ將又稻莠養鯉トシテ今後獎勵スヘキ價值アルヲ以テ當揚ハ仔鯉ヲ増加シ廣ク之ヲ配付シ農家副業ノ一トナサンコトナ期シツヅブリ

第十三 教育ニ關スル事項

(一) 女子職業講習所

本所ハ蠶絲業ニ關スル學理及技術ヲ女子ニ講習セシムル機關ニシテ講習期間ハ十箇月トシ毎年四月一日ニ始マリ翌年一月三十日ニ終ル講習生ニハ一箇月金十圓以內ノ學資ヲ給シ又別ニ二年ニ回蠶業講習會ナルモノヲ同所內ニ開キ舊大韓婦人會堂講習所及女子蠶業講習所卒業生ヲシテ技術ノ練習ヲナサシム其ノ第一回ハ期間一箇月第二回ハ同二箇月ナリトス大正元年迄卒業セル女子講習生ノ數ハ二百二十八名ナリ而シテ卒業生ハ何レモ養蠶ニ從事シ或ハ教婦トナリ或ハ自家經營ニヨリ朝鮮婦女子ノ蠶業ヲ指導シ又ハ模範ヲ示シス業發展上其ノ効果著シキモノアリ

第十四 小作人指導ニ關スル事項

當塲小作番ハ普通小作番ト監督小作番ノ二種アリ普通小作番ハ舊來ノ慣行ニヨリ小作人ヲシテ任意ニ耕作セシムルモノニシテ監督小作番ハ彼等ヲシテ實地指導ノ目的

ヲ以テ當務監督ノ下ニ耕作マシムルモトス普通小作番總反別ハ十二町七反四畝步監督小作番總反別ハ十八町二反七畝步ニシテ合計三十町〇反一畝ナリトス當務小作人耕作獎勵ノ爲メ年々立毛品評會ヲ開催シ稻ノ生育狀況管理ノ精粗調製ノ良否等ニ付テ充分ノ審査ヲ加ヘ優等者ニ對シテハ賞品ヲ授與スルコトモリ其ノ結果小作人等ハ一般ニ其ノ業ニ精勵シ就中乾燥調製ニ於テ進步ノ實績アルヲ認メタリ又當務ハ小作人ヲシテ販運組合ナルモノヲ組織セシメ共同ノ力ニ依リ農事ノ改良及組合員ノ利益ヲ増進セシムルヲ目的トシ肥料農具等ノ共同購入生産物ノ共同販賣ヲ行ヒ家畜耕地等農業ノ經營上必要ナル物件ヲ購入セントスル組合員ニ低利貸付ヲナス等農業開發上緊要ナル事業ヲ行ハシム

(一) 苗代契 苗代耕地ノ收穫物ヲ販賣シ之レヲ蓄積シタルモノニシテ明治四十年ヨリ大正九年マデノ積立總額三千六百三十二圓六十八錢ニ達シ苗代用肥料ノ共同購入ヲ行ヒ耕地役牛農具等ヲ購入セントスル契員ニ低利貸付ヲナシ又共同販賣用契ニ

對シ代金ノ立換ヲ行フ等契ノ利益ヲ加増スルノ目的ヲ以テ各種ノ事業ヲ行ヒタリ

(二) 共濟契 小作料納入ノ義務ヲ完フルル目的ヲ以テ各自規定ノ額米ヲ繰出シ之ヲ共同販賣ニ附シ金ニ代ヘ小作代表者ヲ定メ一口ニ小作料金ヲ納入スルコトトシ其ノ剩餘金ヲ以テ肥料ヲ製造又ハ購入シ各自ノ作付反別ニ應ジ分配スルコトトナシタリ今日マデ肥料用トシテ支出シタル金額ハ三千七百十三圓ニ達シタリ

(三) 早神力記念契 早神力稻栽培ノ惠澤ヲ永遠ニ記念スルノ目的ヲ以テ本番一反歩ヨリ年々概一斗宛繰出シ之ヲ販賣シテ販運契員生産額ノ共同貯藏ノ建築、耕具、彈稻具ノ購入ノ共同使用ノ爲メ等ヲナシタリ

(四) 豐年貯穀契 豐年ノ餘剩ヲ貯ヘ凶年ノ救荒ニ備フルル目的ヲ以テ第一回ニ二十八石二斗第二回ニ十九石七斗ノ貯穀ヲナシタリ

(五) 餘業契 冬季農閑ノ時毎夜十間以上ノ製繩又ハ毎月十枚以上ノ蒲織ヲ行ヒ之レヲ共同販賣ニ附シ代金ハ直チニ郵便貯金ニ預ケ入レ冠婚葬祭等人事上避ベカラザ

事業成績概況

一六六

ル事情又ハ疾病ニ罹リ労働ニ就ケ能ハザル場合ニ使用スベキヲ費ヒ餘額貯金ノ名
ノ下ニ同盟作業ヲ開始シ今日マデノ貯金總額一千五百一十一圓ニ達シ二十四日ノ結
婚費ヲ辨シ細テ嫁ニ遣リ附テ嫁ヲ貰ヒタリトノ俗語ヲ聞クニ至レリ

(六) 豊年祭 新嘗祭ノ佳辰ニ當リ小作人慰安ノ目的ヲ以テ豊年祭ヲ執行セリ即チ豊
年祭ハ小作人組合ガ主體トナリ地主及附近ノ篤農家ヲ招待シ新穀ヲ炊キ小作人家
族ト共ニ豊年ヲ祝フノ意味ヲ以テ組合員中當年ノ新婦者ヲ主賓トシ新婦記念盃ヲ
授與シ豊年歌ヲ唱ヒ一日ノ清遊ヲ試ミルコト、ナシタリ

豊年歌

一、今年しや豊年穂に穂がさがる

アー早稲力多摩錦トーハナ穀良都

チヨーコチヨーコ
チヨツターヨ

二、秋の日和に日出度仕事

アー刈取り稲扱ぎトーハナ穀き起シ

チヨーコチヨーコ
チヨツターヨ

三、今日のよき日に仕上げの祝ひ

アー石なし稗なしトーハナ模範米

チヨーコチヨーコ
チヨツターヨ

四、冬の穡めは皇國の寶

アー萬歳萬歳トーハナ萬萬歳

チヨーコチヨーコ
チヨツターヨ

事業成績概況

一六七

耕種要覽

目次

第一	播種及肥料	一頁
第二	手入及收穫	一三
第三	品 種	二四
(甲)	普通及特用作物	二四
(乙)	蔬 菜	二八
(丙)	果 樹	三一
目次		一

耕種要覽

第一、播種及肥料（一反歩當）

作物	播種量	播種期	原肥	肥料	備考
水 明 稻	五 升	五 月 上 旬	大豆 一五 〇 貫 升 石 礫 肥 一 五 〇 貫 升 人 糞 尿 一 五 〇 貫 升	人 糞 尿 二 升	本田挿秧ハ一坪二付キ 五六十株、一株七、八本
大 豆	五 升 乃至 六 升	秋 時 自 九 月 下 旬 至 十 月 上 旬 春 時 三 月 下 旬	堆肥 二五 〇 貫 升 草 油 肥 一 五 〇 貫 升 人 糞 尿 一 五 〇 貫 升 草 灰 一 五 〇 貫 升 人 糞 尿 一 五 〇 貫 升	堆肥 二五 〇 貫 升 草 油 肥 一 五 〇 貫 升 人 糞 尿 一 五 〇 貫 升 草 灰 一 五 〇 貫 升 人 糞 尿 一 五 〇 貫 升	畦幅二尺條播

播種及肥料

11

升乘	今蜀	陟陸	升燕	小	堯標
毫	今乘	明稻	司麥	屯麥	豆司麥
七	一	四升乃至五升	六	四升五合	四升五合
合	升	至五月	升	乃至五合	乃至五升
至五月下旬	自四月下旬 至五月上旬	自四月中旬 至五月上旬	自三月下旬 至四月中旬	自九月下旬 至十月上旬	同
同	堆肥 三〇〇貫	堆肥 三〇〇貫 過燒酸石灰 一〇貫 草木灰	堆肥 二五〇貫 草木灰 一〇貫	秋時大麥 二同	同
畦幅二尺條播	畦幅二尺五寸株間一尺 二本立	同	同	畦幅二尺條播	同

102

落花生	菜豆	小豆	大豆	蕎麥	粟
剉實九升	五升	二升	四升	五升	六升
五月下旬	自四月中旬 至五月中旬	同	自五月中旬 至六月下旬	自七月中旬 至七月下旬	同
草木灰 二〇貫	堆肥 一〇〇貫 草木灰 二〇貫	同	過燐酸石灰 四貫 草木灰 二〇貫	堆肥 一五〇貫	同
畦幅二尺株間五寸 一株一粒播	畦幅二尺株間一尺 一株二粒播	同	畦幅二尺株間七寸五分 一株三粒發芽後二本立	同	同

播種及肥料

甘 子 葉	馬 鈴 薯	菊 花 草	牧 草
十貫乃至 三十貫	三十貫乃至 四十貫	三十貫	禾本科 六〇〇 〇乃至 九〇〇 〇 豆科 四〇〇 〇乃至 六〇〇 〇
自三月下旬堆肥 至四月下旬床播 過燐酸石灰	食用四月上旬堆肥 種薯用六月下旬 草木灰	四月上旬堆肥	三月下旬
一〇〇貫 五貫	三〇〇貫人糞尿 一〇貫二〇〇貫	三〇〇貫	草木灰 二〇貫
畦幅二尺株間一尺 一反步五・四〇〇本	畦幅二尺 株間一尺二寸	畦幅二尺五寸 株間一尺五寸	撒播

四

播種及肥料

大 麻	青 千 麻	草 麻	草 麻
纖維用五升 採種用二升	纖維用六升 採種用二升	二・五〇〇本	一〇〇本
四月上旬	四月上旬	四月中旬	四月下旬 (苗代二坪)
堆肥 三〇〇貫 油粕 四〇貫 草木灰 一〇貫 (採種用ハ油 粕ヲ減ス)	堆肥 二〇〇貫 油粕 一〇貫 草木灰 一〇貫 (採種用ハ油 粕ヲ減ス)	堆肥 三〇〇貫人糞尿 人糞尿 二〇〇貫二〇〇貫	堆肥四 (肥料多 キヲ厭 ハス)
畦幅六寸ノ條播 (採種用ハ畦幅二尺) 堆肥ハ前秋ニ之ヲ埋施 シ油粕ハ施用前土ト堆 積腐熟セシムヘシ	畦幅一尺ノ條播 其他大麻ニ同シ	畦幅二尺 株間四寸	方七寸二一本ノ割トス

五

播種及肥料

作物	播種期	肥料	備考
小麦	三月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅四尺株間二尺五寸 (種子ハ稻刈株ニ挟ミテ 温床ニ入ル)
大麦	三月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅四尺株間二尺五寸
粟	四月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
高粱	五月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
玉米	六月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
大豆	七月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
花生	八月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
芝麻	九月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
油菜	十月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
棉花	十一月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸
烟草	十二月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺五寸

播種及肥料

作物	播種期	肥料	備考
小麦	三月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅六尺株間三尺
大麦	三月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅六尺株間三尺
粟	四月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
高粱	五月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
玉米	六月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
大豆	七月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
花生	八月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
芝麻	九月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
油菜	十月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
棉花	十一月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺
烟草	十二月下旬	堆肥 二〇〇貫 草木灰 一〇貫 人糞尿 二〇貫	畦幅二尺株間一尺

1

[illegible]

10

甜瓜 ムクワ ウリ	胡瓜 オウリ	蕎麥 アヲガラシ	落花生 ドモロヘニ	蒲子 カサネ
二合	二合	五合	五合	五合
三月中旬床蒔 四月中旬直蒔	三月中旬床蒔 四月中旬直蒔	同	同	同
草木灰 一〇貫一五貫	草木灰 一〇貫一五貫	草木灰 一〇貫一五貫	草木灰 一〇貫一五貫	草木灰 一〇貫一五貫
堆肥 四〇〇貫人糞尿	堆肥 四〇〇貫人糞尿	堆肥 四〇〇貫人糞尿	堆肥 四〇〇貫人糞尿	堆肥 四〇〇貫人糞尿
油粕 三〇貫米	油粕 三〇貫米	油粕 三〇貫米	油粕 三〇貫米	油粕 三〇貫米
畦幅五尺 株間二尺	畦幅五尺 株間二尺	畦幅五尺 株間二尺	畦幅五尺 株間二尺	畦幅五尺 株間二尺

播種及肥料

紫蘇	蕎麥	蕎麥	蕎麥	蕎麥	紫蘇
二	四	五	二	一	一
三月下旬床蒔 四月下旬蒔	三月下旬 八月下旬	三月下旬床蒔 四月下旬	三月下旬床蒔 四月下旬	三月下旬床蒔 四月下旬	三月下旬床蒔 四月下旬
堆肥 二五〇貫 糠 二〇貫 人糞尿 二〇貫	堆肥 二五〇貫 糠 二〇貫 人糞尿 二〇貫	堆肥 二五〇貫 糠 二〇貫 人糞尿 二〇貫	堆肥 二五〇貫 糠 二〇貫 人糞尿 二〇貫	堆肥 二五〇貫 糠 二〇貫 人糞尿 二〇貫	堆肥 二五〇貫 糠 二〇貫 人糞尿 二〇貫
畦幅二尺、株間一尺五寸	畦幅二尺、株間一尺五寸	畦幅二尺、株間一尺五寸	畦幅二尺、株間一尺五寸	畦幅二尺、株間一尺五寸	畦幅二尺、株間一尺五寸

一一

第二、手入及收穫

(播種期ハ参考ノ爲メ再ヒ之ヲ掲グ)

水稲	水稲	水稲	水稲	水稲	水稲
四〇〇貫	九	月	堆肥 三〇〇貫 人糞尿 二〇〇貫	堆肥 三〇〇貫 人糞尿 二〇〇貫	堆肥 三〇〇貫 人糞尿 二〇〇貫
三月下旬乃至 四月中旬	三月下旬乃至 四月中旬	三月下旬乃至 四月中旬	三月下旬乃至 四月中旬	三月下旬乃至 四月中旬	三月下旬乃至 四月中旬
畦幅四尺 株間二尺	畦幅四尺 株間二尺	畦幅四尺 株間二尺	畦幅四尺 株間二尺	畦幅四尺 株間二尺	畦幅四尺 株間二尺

手入及收穫

作物	播種適期	間引	移植期	除草	補肥	中耕	收穫期	摘要
水稲	五月上旬		六月中旬下旬	七月中下旬 八月上旬 八月下旬	五月中旬下旬 七月下旬 八月下旬	十月下旬	本田ハ五月 下田ハ六月 上田ハ五月 下田ハ六月	水稲ハ五月 下田ハ六月 上田ハ五月 下田ハ六月

一三

夏大根	桑	精	杞	除蟲菊	薄荷
四月中旬		三月下旬	三月下旬	四月中旬	四月上旬
四月下旬					
	三月下旬	四月上旬		五月下旬	四月上旬
	七月中旬	七月中旬	五月中旬	六月下旬	五月中旬
五月上旬		四月上旬	三月中旬	三月下旬	七月中旬
六月中旬	三月中旬	三月中旬	五月上旬	六月下旬	九月下旬
	六月中旬	六月中旬	六月中旬	六月中旬	九月下旬
				種子七月下旬收穫	

里	牛	胡蘿蔔	燕	秋大根	甘大根
四月下旬	四月中旬	七月上旬	同	八月上旬	同
	五月中旬	八月下旬	同	八月下旬	
六月上旬	五月中旬	七月下旬	同	八月下旬	同
五月下旬	五月下旬	七月下旬	同	九月下旬	五月上旬
七月上旬	六月上旬	九月下旬	同	十一月下旬	五月下旬
八月上旬	六月下旬	十月下旬			
十月中旬	至越冬	三寸種ハ四			

手入及收穫

品名	種	手入	收穫
蕎麥	宣	三月下旬	四月上旬
甘藷	藍	三月中旬	四月下旬
石臼	柏	四月中旬	五月下旬
水	序	九月	三四月

二四

第三、品 種

(甲) 普通及特用作物

作物	適良品種	平均	一反步收量
水	早神方ニ適ス(日ノ出(北方ニ適ス))	一石七斗	四石五斗
大	(秋時)「マシムート」在來種	一石七斗	二石六斗
小	(春時)在來種	一石	一石三斗
燕	島原、在來種	一石	一石三斗
陸	「カリホルニヤ」、「ブライド」	二石	三石四斗
別	「レスホース」、「クワイデステール」セル	二石五斗	三石五斗
品	在來種	一石	二石

二五

品	種	備考
栗	水原	「オイヤルコン」、黄州、長嶺、水原十號
蕎麥	長野	
大豆	在來種	
小豆	大福、加奈太	
落花生	立壺	
甘藷	元氣	
馬鈴	長崎赤、スノーフレキ	
菊芋	「レッドクロガア」、「チモシーカラス」	
牧草	「オーチャードグラス」、「レッドトツブカラス」	
大麻	東京	

二六

品	種	備考
苧草	山形(佛國種)(南方ニ適ス)	
苧草	義興	
棉	在來種、キンカスイムアルブド(南方ニ適ス)	
煙草	秦野、國分、遠摩、國府	
薄荷	岡山	
除蟲	「ダルマシヤ」、「メルシヤ」	
杞柳	細葉	
楮	在來種(男班)(南方ニ適ス)	
桑	營桑、市平	

二七

備考 右收量ハ當場ニ於テ前記ノ肥料及管理ノ結果ニヨリ得タルモノナリ。

(乙) 蔬菜

種類	適良品種
夏大根	夏大根
甘日大根	白甘日大根、赤甘日大根
秋大根	宮重、方領、練馬、聖護院
蕪菁	聖護院
初羅	東京大長、三寸
牛蒡	瀬ノ川
里芋	山口早生、土垂
薯蕷	長薯、伊勢薯

蓮根	白花
葱	青葱、姑
卷心菜	千住、岩槻、下仁田
蕪菁	南部
菜豆	佛國大英
豆	「アサヒホーレ、デュモントール」「ロングフェロー」「オールドホームステッド」
豆	白花
豆	十六大角豆
茄子	東京山、佐土原、蔓細千成、丸
蕃茄	「デールクイン」「ミカド」「ボジテローザ」
蕃茄	八ッ房、鷹ノ爪、在來種
胡瓜	節成、大胡瓜

